

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-355088

(P2002-355088A)

(43) 公開日 平成14年12月10日 (2002. 12. 10)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
C 1 2 P 21/02		C 1 2 P 21/02	C 4 B 0 2 4
A 0 1 K 67/027		A 0 1 K 67/027	4 B 0 6 4
A 6 1 K 38/00		A 6 1 K 48/00	4 B 0 6 5
	48/00	A 6 1 P 1/18	4 C 0 8 4
A 6 1 P 1/18		5/00	4 H 0 4 5

審査請求 有 請求項の数 7 書面 (全 73 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-402257(P2001-402257)

(62) 分割の表示 特願平2-511424の分割

(22) 出願日 平成2年8月20日 (1990. 8. 20)

(31) 優先権主張番号 3 9 6, 8 9 4

(32) 優先日 平成1年8月22日 (1989. 8. 22)

(33) 優先権主張国 米国 (US)

(31) 優先権主張番号 3 9 9, 9 4 5

(32) 優先日 平成1年8月24日 (1989. 8. 24)

(33) 優先権主張国 米国 (US)

(31) 優先権主張番号 4 0 1, 6 0 9

(32) 優先日 平成1年8月31日 (1989. 8. 31)

(33) 優先権主張国 米国 (US)

(71) 出願人 501422277

エイチエスシー リサーチ ディベロップ

メント コーポレーション

HSC RESEARCH DEVELO

PMENT CORPORATION

カナダ国 エム5ジー 1エックス8

オンタリオ州 トロント エルム ストリー

ト 88

(74) 代理人 100088328

弁理士 金田 暢之 (外2名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質 (CFTR) の製造法

(57) 【要約】

【課題】 CFキャリアーのスクリーニング及び検出、CF診断および治療のための技術を提供すること。

【解決手段】 キャリアーのスクリーニング及び検出、CF診断および治療に使用し得るCFタンパク質遺伝子をクローニングし、単離精製する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 正常または変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質（CFTR）の製造法であって、

（a）請求項6のベクターでトランスフェクションされた宿主細胞を培地中で正常または変異CFTRタンパク質の発現に好ましい条件下で培養し、（b）発現された正常または変異CFTRタンパク質を単離する過程を有する正常または変異CFTRタンパク質の製造方法。

9. 約170,000ダルトンのペプチド分子量、および細胞膜透過イオンコンダクタンス作用活性を有し、請求項1に記載の配列1におけるアミノ酸残基1～1480のアミノ酸配列を有する精製された正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質。

【請求項2】 約170,000ダルトンのペプチド分子量、および細胞膜透過イオンコンダクタンス作用活性を有し、図1に配列におけるアミノ酸残基1～1480のアミノ酸配列（配列1）を有する精製された正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質の変異体であって、アミノ酸残基位置508のフェニルアラニンの欠失を含み、ヒト細胞中での嚢胞性線維形成活性を有する、精製された変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質。

【請求項3】 図1に配列におけるアミノ酸残基1～1480のアミノ酸配列（配列1）をコードするDNA配列、配列1のアミノ酸残基位置1から1480までの配列を有する正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質（CFTR）をコードするDNA配列、または配列1のアミノ酸残基位置1と1480の間にある少なくとも16個の連続するヌクレオチドからなる一部分のDNA配列によってコードされ、正常または変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質（CFTR）の免疫学的または生物学的活性を示すポリペプチド。

【請求項4】 請求項3の正常または変異CFTRタンパク質を該タンパク質を含む細胞から単離する方法であって、（a）該正常または変異CFTRタンパク質が発現している細胞の選択された細胞膜にあるタンパク質を可溶化して、該CFTRタンパク質の溶液を提供し、

（b）基体に固定された該正常または変異CFTRタンパク質に対する抗体に、該溶液を接触させて、該溶液から該CFTRタンパク質を分離し、（c）該基体を洗浄して該抗体に結合しなかったタンパク質を除去し、

（d）該抗体から該CFTRタンパク質を離して、該CFTRタンパク質を単離し、（e）該CFTRタンパク質を精製して、他の残留している哺乳動物性タンパク質を除去する過程を有する正常または変異CFTRタンパク質の単離方法。

【請求項5】 請求項3または4に記載の正常または変異CFTRタンパク質に特異的なモノクローナル抗体を生産するハイブリドーマ。

【請求項6】 図1に配列におけるアミノ酸残基1～1

480のアミノ酸配列（配列1）をコードするDNA配列、配列1のアミノ酸残基位置1から1480までの配列を有する正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質（CFTR）をコードするDNA配列、または配列1のアミノ酸残基位置1と1480の間にある少なくとも16個の連続するヌクレオチドからなる一部分のDNA配列を有する組換えクローニングベクターを含む異種細胞系を有し、該ベクターが嚢胞性線維症の症候を誘導するものであるヒトを除く動物。

【請求項7】 嚢胞性線維症の徴候を示すトランスジェニックマウス。

【発明の詳細な説明】

本発明は、米国国立衛生研究所（NIH）によって支給されたグラントR01DK39690-02およびDK34944による政府後援で行われた。政府は、本発明について一定の権利を有する。

発明の分野

本発明は、概して嚢胞性線維症（CF）遺伝子に関し、さらに詳細には正常および変異CF遺伝子類に対応するDNA配列の同定、単離およびクローニング、ならびにそれらの転写体および遺伝子産物類に関する。本発明は、さらに、CFキャリアーのスクリーニングおよび検出方法、CF診断および出生前CFスクリーニングおよび診断、および前記DNANタンパク質、および前記タンパク質の代謝機能から誘導した情報を用いる組換え技術および薬物療法を利用した遺伝子治療に関する。

発明の背景

嚢胞性線維症（CF）は、コーカサス人種において最もよくみられる重篤な常染色体劣性遺伝的疾患である。それは、北アメリカにおける生存出生2000人中およそ1人に影響を及ぼす[Boatら、The Metabolic Basis of Inherited Disease, 第6版、2649-2680頁、McGraw Hill、NY(1989)]。20人中およそ1人が本疾患のキャリアーである。本疾患は1930年代後半に初めて記載されたが、その根本的欠陥は不明のままである。嚢胞性線維症の主な症状として、慢性肺疾患、膵外分泌不全、および汗電解質レベル上昇が挙げられる。本症状は、外分泌障害である嚢胞性線維症と一致している。最近CF患者細胞の上皮の先端膜を横断するイオン運搬の解析が進んではいるが、塩素イオン（chloride）チャンネルの異常制御が本疾患の一次欠陥を示すかどうかは明らかでない。本疾患の分子メカニズムの理解が欠如していることを考慮し、したがって、関与遺伝子の直接クローニングによりその染色体位置に基づいて分子欠損の性質を理解する試みが、異なる別の方法として行われた。しかし、本疾患の遺伝的基礎の正確な性質を導くようなまたは嚢胞性線維症遺伝子の同定を可能とするような明確な表現型は皆無である。集団遺伝学データに関連するCF欠陥の性質は、容易に

は明らかとはならない。本疾患の有病率および臨床的異質性は、2-3の異なるメカニズム；高変異率、ヘテロ接合体の長所、遺伝的変動、複数座、および繁殖代償作用によって説明されてきた。仮説の多くは、根本的欠陥の知識が欠けているために試験することができない。したがって、CF遺伝子の決定および特性解析のための別の方法では、遺伝子解析によってこの遺伝子の局在を同定する試みを中心とした。CF遺伝子の抗原性かつタンパク質マーカー類への連結解析が1950年代に試みられたが、確たる結果は全く得られなかった[Steinbergら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 8:162-176, (1956); SteinbergおよびMorton、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 8:177-189, (1956); Godchildら、ジャーナル・オブ・メディカルジェネティクス (J. Med. Genet.) 7:417-419, 1976]。さらに最近になって、連結解析を促進するためにRFLP類を使用することが可能となった。CF遺伝子へのRFLPの最初の連結は、1985年に記載され[Tsuiら、サイエンス Science 230:1054-1057, 1985]、その中で連結がCF遺伝子と特性解析されていないマーカーDOCR1-917との間に見られた。本関連は、CFに罹患した子供を有する390家族の解析で判明した。このことは、染色体局在は立証されなかったが、本疾患遺伝子の局在がヒトゲノムのおよそ1%に、すなわち、3000万ヌクレオチド塩基対に狭められたことを示唆している。DOCR1-917プローブの染色体局在は、異なるヒト染色体補体を含むげっし類-ヒトハイブリッド細胞株類を用いて立証された。DOCR1-917(およびしたがってCF遺伝子)がヒト染色体7にマップされることが示された。CF遺伝子の位置を特定する試みとして、さらに物理的および遺伝的な遺伝子連結研究を行った。Zengerlingら[アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 40:228-236 (1987)]は、ヒト-マウス体細胞ハイブリッドを用いてCF遺伝子とそれに連結していることが公知のマーカー類とのさらに詳細な物理的関係を得たことを記載している。この刊行物は、CF遺伝子が、染色体7上のバンドq22の遠位部またはq31の近位部のいずれかに帰せられることを示している。Rommensら[アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 43:645-663, (1988)]は、多数の新規7q31プローブ類の単離について詳細に検討している。概説された本方法により、互いに近接している2個の新規プローブ類、D7S122およびD7S340が単離された。パルス

フィールドゲル電気泳動マッピングは、これらの2個のRFLPマーカー類がCF遺伝子に隣接する2個のマーカー類、MET [White, R., Woodward S., Leppert M.ら、ネイチャー (Nature) 318:382-384, (1985)]およびD7S8 [Wainwright, B., J., Scambler, P. J., およびJ. Schmitz, ネイチャー (Nature) 318:384-385, (1985)]の間にあり、したがって、CF遺伝子領域の中にあることを示唆している。これらのマーカー類の発見は、染色体歩行およびジャンピング(jumping)の出発点を提供する。Estivilleら、[ネイチャー (Nature) 326:840-845 (1987)]は、候補cDNA遺伝子の位置を調べ部分的に特性解析した。しかし、このことは、CF遺伝子の正確な位置を教示するものではない。この参考文献はCpG島の下流にある候補cDNA遺伝子を記載しており、これは、多数の脊椎動物遺伝子類の上流の低メチル化GCヌクレオチド含量の多い領域である。この候補座の染色体位置は、XV2C領域として同定されている。この領域は、欧州特許出願88303645.1に記載されている。しかし、この実際の領域は、CF遺伝子を擁していない。CF遺伝子同定で大きな問題は、マップ位置の知識によるヒト疾患遺伝子のクローニングにおけるこれまでの全ての成功を非常に促進し細胞学的に検出可能な染色体再配列類または欠失類がないことであった。このような再配列類および欠失類は細胞学的に観察でき、その結果、特定染色体上における物理的位置が特定疾患と関連させられる。さらに、この細胞学的位置は、一般に入手可能なDNAプローブ類および細胞学的に可視可能な染色体中の改変の間の公知のに基づき、分子的位置と関連させられる。特定疾患遺伝子の分子的位置の知識によって、特に遺伝子産物が公知でかつこのクローニングされた遺伝子類の発現産物のイムノアッセイによって確認できる時、通常操作によってこの遺伝子をクローニングしかつ配列決定することができるであろう。対照的に、先行技術では、嚢胞性線維症の遺伝子の細胞学的位置または遺伝子産物のいずれも公知でなかった。CF遺伝子に隣接するがその分子的位置を特定することはないマーカー類であるMETおよびD7S8が最近同定され、本発明者らは、本発明によってCF遺伝子に迫るためにさまざまな新しい手段を開発した。これらの手段に用いられた方法として、隣接マーカー類からの染色体ジャンピング、パルスフィールドゲル電気泳動の使用による定められた物理的領域からのDNA断片類のクローニング、CF近傍の低メチル化CpG島からのDNA断片類の単離のために設計された体細胞ハイブリッドおよび分子クローニング技術の併用、染色体微細切断およびクローニング、および7q31領域からの多数のDNAマーカー類の飽和クローニングが挙げられ

る。これらの新規手段によって、本発明者らは、先行技術では明確でなくまたは1例では誤りがあった嚢胞性線維症に關与する遺伝子を同定することができた。これらの遺伝的および分子クローニング手段を応用して、その染色体位置に基づき嚢胞性線維症遺伝子の単離およびcDNAクローニングが、その方法を示唆するゲノム再配列の恩恵を受けることなく可能となった。CF遺伝子および遺伝子産物の正常および変異形態の同定によって、核酸プローブ類およびこの遺伝子産物に対する抗体類を用いるCFスクリーニングおよび臨床試験の開発が可能となった。欠陥遺伝子産物およびこの遺伝子産物が關与する経路の相互作用によって、正常遺伝子産物補充および遺伝子操作および運搬（デリバリ）による治療がこれで可能となる。

発明の要約

嚢胞性線維症疾患過程に關与する遺伝子は以下で“CF遺伝子”およびその機能的等価物と称するが、これが同定され、単離され、そして、cDNAがクローニングされ、その転写物および遺伝子産物が同定かつ配列決定された。前記遺伝子産物中におけるフェニルアラニン残基の欠失をもたらす3個の塩基対欠損が決定され、CF罹患患者の約70%におけるCF遺伝子の変異に対応しており、残りの症例の全部とはいわないまでもほとんどにおいて異なる変異が關与していた。前記遺伝子および遺伝子産物の同定および配列決定により、核酸プローブ類および前記遺伝子産物に対する作成した抗体類を種々のハイブリダイゼーションおよび免疫アッセイに用いて、正常または欠陥CF遺伝子または遺伝子産物のいずれの存在をもスクリーニングしかつ検出できる。このようなスクリーニングおよび診断のためのアッセイキット類も、また、提供できる。さて、遺伝子組換え法を用いて産生を増幅できる前記の正常遺伝子産物またはその機能的等価物を補充することによる患者の治療が、同様に可能となった。さらに、嚢胞性線維症は、前記の遺伝子欠損をインサイチュ（*in situ*）で矯正するかまたは正常遺伝子産物発現が可能なDNA配列を前記患者の細胞に導入する組換えまたは他のビーイクル類を用いて治療できまたは管理することができる。本発明の1面によれば、DNA分子は、

- (a) 下記の図1に示したアミノ酸残基1位から1480位までのDNA配列に対応するDNA配列類；
- (b) 下記の図1によるアミノ酸残基1位から1480位までの配列を有する正常CFTRポリペプチド類をコードするDNA配列類；
- (c) アミノ酸残基1位から1480位までの間の少なくとも16個の連続ヌクレオチド類を含む下記の図1の配列断片に対応するDNA配列類；
- (d) 少なくとも16個のヌクレオチド類からなりかつ下記図1のアミノ酸配列の断片をコードするDNA配列類；および

(e) 下記図1の配列中においてアミノ酸残基1位から1480位までの間の少なくとも18個の連続ヌクレオチド類によってコードされるエピトープをコードするDNA配列類、からなる群から選択されたDNA配列からなる。本発明のもうひとつの面によれば、精製された変異CF遺伝子はある1個のタンパク質のアミノ酸配列をコードするDNA配列からなり、この中で、前記タンパク質は、ヒト体細胞中で発現された時に遺伝的疾患嚢胞性線維症に關する改変された細胞機能に關連している。本発明のもうひとつの側面によれば、精製されたDNA分子は、上記のDNA配列に対応するRNA配列からなる。本発明のもうひとつの側面によれば、1個のDNA分子は、上記のDNA配列に対応するcDNA分子からなる。本発明のもうひとつの側面によれば、精製された核酸プローブは、群(a)から(e)までの上記に記載の選択されたDNA配列類に対応するDNAまたはRNAヌクレオチド配列からなる。本発明のもうひとつの側面によれば、DNA分子は、下記の図1に示したアミノ酸残基1位から1480位までの配列を有する変異CFTRポリペプチドをコードするDNA配列からなる。本配列は、さらに、アミノ酸残基508位からのフェニルアラニンの欠失をもたらす3個の塩基対変異によって特徴づけられる。本発明のもうひとつの面によれば、1個のDNA分子は、(a) 変異DNA配列に対応し、かつ、発現されると変異CFTRポリペプチドをコードするDNA配列類 (b) 少なくとも20個のヌクレオチド類を含む変異DNA配列類の1個の断片に対応するDNA配列類；(c) 少なくとも20個のヌクレオチド類からなりかつ変異CFTRタンパク質アミノ酸配列の1個の断片をコードするDNA配列類；および (d) この変異DNA配列中の少なくとも18個の連続ヌクレオチド類によってコードされるエピトープをコードするDNA配列類、からなる群から選択された1個のDNA配列からなる。本発明のもうひとつの面によれば、RNA配列からなる精製されたRNA分子は、変異DNA配列に対応する。本発明のもうひとつの面によれば、正常または変異DNAおよびその断片類のDNA配列類からなる組換えクローニングベクターが提供される。本発明の面によれば、前記ベクターが、組換えDNA分子中において発現制御配列に操作上連結され、その結果、正常CFTRタンパク質が発現されるか、または、これとは別に他の選択された変異DNA配列によって、変異CFTRポリペプチドが発現できる。発現制御配列は、原核または真核細胞類およびそれらのウイルス類およびその組み合わせ類の遺伝子類の発現を制御する配列からなる群から選択される。本発明のもうひとつの面によれば、正常CFTRポリペプチドを産生する方法は、(a) 培地中でかつ正常CFTRポリペプチドの発現に好適な条件下で正常DNA配列のための組換えベクターを移入された宿主細胞を培養すること、および (b) 前記発現さ

れた正常CFTRポリペプチドを単離すること、の段階からなる。本発明のもうひとつの面によれば、変異CFTRポリペプチド産生の方法は、(a)培地中でかつ変異CFTRポリペプチドの発現に好適な条件下で変異DNA配列のための組換えベクターを移入された宿主細胞を培養すること、および(b)前記発現された変異CFTRポリペプチドを単離すること、の段階からなる。本発明のもうひとつの面によれば、ヒト細胞膜起源の精製されたタンパク質は、前記タンパク質がヒト細胞膜中に存在する時遺伝的疾患である嚢胞性線維症を起こす細胞機能と関連している変異DNA配列によってコードされるアミノ(酸)配列からなる。本発明のもうひとつの面によれば、前記CFTRポリペプチドは、約170,000ダルトンの分子量および上皮細胞膜通過(トランスメンブレン)イオン伝導率に影響を及ぼす活性を特徴とする。本発明のもうひとつの面によれば、実質的に純粋なCFTRタンパク質がヒト上皮細胞において発現され、かつ、上皮細胞膜に結合することによって上皮細胞膜中に形成されたチャンネルを介してイオンの動きを修飾することによって、上皮細胞を介してイオン輸送の制御およびコントロールに参与することができることを特徴とする。本発明のもうひとつの面によれば、CFTRタンパク質を単離する工程は、(a)末梢タンパク質を上皮細胞膜から抽出し、前記のCFTRタンパク質を含む必須タンパク質を有する膜物質を提供すること；(b)前記膜物質の前記必須タンパク質類を溶解し、前記必須タンパク質類の溶液を形成すること；(c)前記CFTRタンパク質を分離し、哺乳類起源の残りの全ての他のタンパク質類を除去すること、からなる。本発明のもうひとつの面によれば、対象がCFキャリアーまたはCF患者であるかどうかを決定するために患者をスクリーニングする方法が提供され、本方法は、前記スクリーニングすべき対象の生物試料を提供すること、前記生物試料中において正常CF遺伝子、正常CF遺伝子産物類、変異CF遺伝子、変異CF遺伝子産物類およびその混合物類からなる群由来の少なくとも1つの構成員の存在を検出するためのアッセイを提供することの段階からなる。本発明のもうひとつの面によれば、CFTRポリペプチドに特異的な免疫活性抗CFTRポリクローナルまたはモノクローナル抗体が提供される。本発明のもうひとつの面によれば、イムノアッセイ法によってCF遺伝子の存在をアッセイするキットは、(a)CF遺伝子の遺伝子産物に特異的に結合する抗体；(b)前記遺伝子産物への抗体の結合を検出するための試薬手段；および(c)それぞれ、前記イムノアッセイを実施するために有効な量で存在する抗体および試薬手段からなる。本発明のもうひとつの面によれば、ハイブリダイゼーション法によってCF遺伝子の存在をアッセイするためのキットは、(a)特異的に前記CF遺伝子に結合するオリゴヌクレオチドプローブ；(b)前記オリゴヌクレオチ

ドプローブの前記CF遺伝子へのハイブリダイゼーションを検出するための試薬手段；および(c)それぞれ、前記ハイブリダイゼーションアッセイを実施するために有効な量で存在する抗体および試薬手段からなる。本発明のもうひとつの面によれば、患者の嚢胞性線維症を治療するための方法が提供される。本治療は、患者に対して治療有効量の正常CFTRタンパク質を投与する段階からなる。本発明のもうひとつの面によれば、嚢胞性線維症の遺伝子治療方法は、正常CFTRタンパク質をコードする正常DNA配列に対応する配列を含むDNA分子の運搬(デリバリ)段階からなる。本発明のもうひとつの面によれば、動物は、非同種細胞系からなる。前記細胞系は、この動物における嚢胞性線維症症状を含む変異DNA配列に対応する組換えDNA配列を含む組換えDNA配列を含む組換えクローニングベクターを含む。本発明のもうひとつの面によれば、トランスジェニックマウスは、嚢胞性線維症症状を呈する。

図面の簡単な説明

図1は、CF遺伝子のヌクレオチド配列およびCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。図2は、CF遺伝子の制限地図および前記遺伝子への染色体歩行およびジャンピングに使用された略手段である。図3は、前記CF遺伝子を含みかつ取り囲む領域のパルスフィールドゲル電気泳動地図である。図4A、4Bおよび4Cは、種間ハイブリダイゼーションによる保存されたヌクレオチド配列類の検出を示している。図4Dは、プローブ類E4.3およびH1.6の重複するセグメント類の制限地図である。図5は、ゲノムおよびcDNAプローブ類を用いたRNAプロットハイブリダイゼーション解析である。繊維芽細胞、気管(正常およびCF)、膵、肝、HL60、T84、および脳RNAへのハイブリダイゼーションを示している。図6は、前記CF遺伝子の5'末端におけるE4.3クローニング領域のメチル化状況である。図7は、cDNAのゲノムDNA断片類への配列を示したCFTR cDNAの制限地図である。図8は、CFTR cDNA(クローン10-1)の部分による6.5kbのmRNA転写体への種々のヒト組織中におけるハイブリダイゼーションを示したRNAゲルプロット解析である。図9は、EcoRIおよびHindIIIで消化したゲノムRNAへのCFTR cDNAクローン類によるハイブリダイゼーションを示したDNAプロットハイブリダイゼーション解析である。図10は、CFTR cDNAの5'および3'末端を特性解析したプライマー延長実験である。図11は、ヒドロパシープロフィールであり、かつ、CFTRの予測2次構造を示している。図12は、予測されたCFTRポリペプチド中における内部相同性のドットマトリックス解析である。図13は、予測されたCFTRタンパク質の略モデルである。図14は、CF遺伝子に緊密に連結した制限断片長多形性(RFLP類)の略図であり、その中

で、倒立三角形は、F508 3塩基対欠失の位置を示している。図15は、正常配列を検出するプローブNおよびCF変異配列を検出するプローブFによるオリゴヌクレオチドハイブリダイゼーションによるF508変異の検出を示したものである。図16は、CFTRの延長NBF類の最もよく保存されたセグメント類と他のタンパク質類の匹敵する領域類との配列を示したものである。図17は、F508欠失周辺のDNA配列である。図18は、F508欠失におけるDNA配列を示したヌクレオチド配列決定ゲルを示したものである。図19aおよび19bは、pGEXプラスミド類によって形質転換された細菌溶解物(JM101)からのタンパク質の電気泳動後クーマシーブルー(Coomassie Blue)染色ポリアクリルアミドゲル類である。図20は、2匹の異なるウサギから得た免疫前および免疫血清による融合タンパク質#1含有細菌溶解物のイムノブロットである。図21は、図20のウサギ#1からの免疫血清を用いたT-84膜類のイムノブロットである。図22は、表8のペプチド#2とKLHとの結合物で免疫したウサギ由来免疫前血清および免疫血清で探索したイムノブロットである。

好適な態様の詳細な説明

1. 定義

本発明のさまざまな態様のレビューおよび本発明をなすためにかつそれを用いる際に利用したさまざまな要素類および構成の理解を円滑にするために、本発明に使用した以下の用語の定義は、下記のものである：

CF-嚢胞性線維症

CFキャリアー-外見上健康であるがその染色体がその人の子孫に遺伝することができる変異CF遺伝子を含む者。

CF患者-各染色体上に変異CF遺伝子を有する者で、それらが嚢胞性線維症の症状を示す者。

CF遺伝子-その変異形態が本疾患嚢胞性線維症に関連している遺伝子。この定義は、存在する種々の配列多形性を含むものと理解されるが、前記遺伝子配列中でヌクレオチド置換が前記遺伝子産物の必須機能に影響を及ぼさないことを特徴とする。この用語は、元来、単離されたコード配列に関するが、また、隣接制御要素類および/またはイントロン類の一部または全てを含むことができる。

CF-PI-嚢胞性線維症膵不全は嚢胞性線維症患者の主要臨床サブグループであり、膵外分泌機能不全を特徴とする。

CF-PS-嚢胞性線維症膵良好群(sufficient)は、正常食物消化のための十分な膵外分泌機能を有する嚢胞性線維症患者の臨床サブグループである。

CFTR-嚢胞性線維症膜通過(トランスメンブレン)伝導率制御タンパク質で、CF遺伝子によってコードされる。この定義には、ヒトまたは動物起源から単離

されたか、組換え有機体によって産生されたか、および化学的または酵素的に合成されたようなタンパク質を含む。この定義は、前記配列中の種々の領域内のアミノ酸置換が前記タンパク質の本来の機能、またはそのヒドロパシープロファイルまたは2次または3次構造に影響を及ぼさないさまざまな多形性形態を含むものと理解される。

DNA-標準的命名法を用いて塩基類を同定した。イントロンを有さないDNA-内部非コードセグメント類、例えばcDNAを欠失しているDNA片。

IRP座配列-(プロトオンコジーンint-1関連)

CF遺伝子近傍に局在する遺伝子。

変異CFTR-1次、2次および3次構造の関連からCFTRに高度に類似しているタンパク質であるが、少数のアミノ酸置換および/または欠失および/または挿入の結果、その本来の機能が傷害され、上皮細胞がCFTRよりもむしろ変異CFTRを発現する有機体が嚢胞性線維症の症状を示すようなタンパク質。

mCF-ヒトCF遺伝子と同じ(orthologous)マウス遺伝子。

NBF類-ヌクレオチド(ATP)結合折り畳み。

ORF-読みとり枠。

PCR-ポリメラーゼチェーン反応。

タンパク質-標準的一字表記命名法を用いてアミノ酸類を記載する。

R-領域-CFTRタンパク質の高度に価電された細胞質領域。

RSV-ラウス肉腫ウイルス。

SAP-表面活性タンパク質

RFLP-制限酵素断片長多形性

2. 前記CF遺伝子の単離

染色体歩行、ジャンピングおよびcDNAハイブリダイゼーションを用いて、500キロベース対(kb)以上を擁するDNA配列類を、嚢胞性線維症(CF)遺伝子を含むヒト染色体7の長腕上の領域から単離した。

数個の転写配列および保存セグメント類を、本領域で同定した。これらのひとつはCF遺伝子に対応しており、かつ、ゲノムDNAのおよそ250kbにまたがる。重複する相補性DNA(cDNA)クローン類を、嚢胞性線維症遺伝子部分を含有するゲノムDNAセグメントによって上皮細胞ライブラリから単離した。この単離されたcDNAのヌクレオチド配列は、図1に示してある。それぞれの配列類の各列で、下列はヌクレオチド配列の標準命名法によるリストである。それぞれの配列の各列の上列は、それぞれのコドンに対応するアミノ酸の標準一字表記命名法である。したがって、本発明は、

(a) 下記の図1に示したアミノ酸残基1位から1480位までのDNA配列に対応するDNA配列類；

(b) 下記の図1によるアミノ酸残基1位から1480位までの配列を有する正常CFTRポリペプチド類をコ

ードするDNA配列類；

(c) アミノ酸残基1位から1480位までの間の少なくとも16個の連続ヌクレオチド類を含む下記の図1の配列断片に対応するDNA配列類；

(d) 少なくとも16個のヌクレオチド類からなりかつ下記図1のアミノ酸配列の断片をコードするDNA配列類；および

(e) 下記1図の配列中においてアミノ酸残基1位から1480位までの間の少なくとも18個の連続ヌクレオチド類によってコードされるエピトープをコードするDNA配列類、

からなる群から選択されたDNA配列からなるDNA分子を提供する。本発明は、また、

(a) ヒト上皮細胞中における嚢胞性線維症関連活性を特徴づける変異CFTRポリペプチドをコードするDNA配列、または、さらに3個の塩基対変異によりアミノ酸残基508位からフェニルアラニン欠失が結果として生じることを特徴とするアミノ酸残基1位から1480位までの図1のDNA配列に対応するDNA配列類；

(b) パラグラフ(a)の配列類の断片に対応しかつ少なくとも16個のヌクレオチド類を含むDNA配列類；

(c) 少なくとも16個のヌクレオチド類からなりかつパラグラフ(a)のDNA配列によってコードされるアミノ酸配列の断片をコードするDNA配列類；および

(d) パラグラフ(a)の配列中の少なくとも18個の連続ヌクレオチド類によってコードされるエピトープをコードするDNA配列類、

からなる群から選択されたDNA配列からなるDNA分子を提供する。長さがおよそ6,500個のヌクレオチド類の転写体は、CF患者中の罹患組織中で検出可能である。単離されたヌクレオチド配列に基づいて、予測されたタンパク質は、それぞれが膜会合に一致する特性を有する第1領域およびATP結合に関与すると確信されている第2領域を有する2つの類似領域からなる。3bpの欠失は、第1予測ヌクレオチド結合領域(CF遺伝子産物のアミノ酸508位)の中央のフェニルアラニン残基の欠落となり、これは、CF患者中で検出された。図1の正常DNA配列中のこの変異は、嚢胞性線維症患者における変異のおよそ70%に対応する。推定された疾患遺伝子に緊密に結合したDNAマーカー類に基づいて延長されたハプロタイプデータから、CF変異遺伝子プールの残りが複数の異なる変異から構成されていることが示唆される。これらの後者の変異対立遺伝子のサブグループ(約8%)が、臍が良好である患者サブグループにおいて残りの臍外分泌機能を付与できる。

2.1 染色体歩行およびジャンピング

Rommensら、同上のD7S122およびD7S340連結領域を包囲する大量のDNAが、候補遺伝子配列類として検索された。従来の染色体歩行方法に加え、染色体ジャンピング法をこの検索過程を加速するた

めに採用した。各ジャンピング終端から、新しい両方向性歩行を開始させることができた。しばしば哺乳類ゲノム中で遭遇する”クローニング不可”の領域による連続歩行の停止は、染色体ジャンピングによって回避することができた。使用した染色体ジャンピングライブラリは、過去に記載されている[Collinsら、サイエンス(Science) 235, 1046 (1987)；Ianuzziら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス(Am. J. Hum. Genet.) 44, 695 (1989)]。当初のライブラリは分取用パルスフィールドゲルによって調製し、70-130kbの部分的EcoRI断片類を含有させることを意図した；このライブラリによるその後の実験から、小断片類が同様に示されることが示唆され、ジャンピングの長さが25-110kbであることが判明した。このライブラリをsup宿主MC1061に接種し、標準的手法によってスクリーニングした[Manatisら]。陽性クローンをpBRAva23Ava2中にサブクローニングし、Collinsら、ゲノムアナリシス(Genome Analysis): ア・プラクティカルアプローチ(A Practical Approach) (IRL, ロンドン, 1988)、73-94頁)に記載のようにして、ジャンピング開始および末端をEcoRIおよびAvaI消化によって同定した。各クローンについて、ジャンピング末端からの断片を調べ、染色体7上におけるその位置を確認した。染色体歩行およびジャンピングによって包含される隣接染色体領域は約250kbであった。ジャンピングの方向は、プローブを注意深く選択することによって、CollinsらおよびIanuzziら、同上によって記載のようにして偏らせた。CF遺伝子cDNAの使用によって単離された配列類を含む全領域をクローニングし、これは約500kbである。染色体歩行およびジャンピング手段の概略を図2に示した。CF遺伝子エクソン類は、本図においてローマ数字によって示されている。地図上の水平線は、歩行段階を示しており、一方、地図上の弓形はジャンプ段階を示している。本図では6段のそれぞれで左から右へ進行しており、末端の方向は、示してあるように、7canおよび7qterに向かっている。酵素EcoRI、HindIII、およびBamHI酵素類の制限地図は、実線上に示してあり、全クローン領域を網羅している。垂直線よりもむしろ矢印で示した制限部位は、明確には位置が定められていない部位を示している。他の酵素類のための付加的制限部位を線の下に示してある。クローニングされた領域内のギャップは、||によって示されている。これらは、CF転写体のcDNAクローン類によって検出される部分にのみ出現する。これらのギャップは、本領域のパルスフィールドマッピングに基づく、大きいことはありえない。地図上の水平線によって示された歩行クローン類

は、各クローンで得られた歩行の進行を示す矢印の方向を有している。コスミドクローン類は、文字cによって開始する。他の全てのクローン類は、フェージである。コスミドCF26はキメラであることが証明された；点線を付けた部分は、もうひとつの染色体上の異なるゲノム断片から由来する。ローマ数字IからXXIVまでは、CF遺伝子エクソン類の位置を示している。線の上に示した水平の四角は、本実験の間に使用したプローブ類である。前記プローブ類のうちの3個が、本領域の多形性検出のために先に同定された断片類の独立したサブクローニングを示している：H2.3AはプローブXV2C (X. Estivilleら、ネイチャー (Nature)、326:840 (1987)) に対応し、およびプローブE4.1はMp6d.9 (X. Estivilleら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 44, 704 (1989)) に対応している。G-2は、転写された配列を検出するE6の小断片である。R161, R159、およびR160は、IRP座配列の部分から構築された合成オリゴヌクレオチドであり [B. J. Wainwrightら、EMBO J.、7:1743 (1988)]、この転写体のゲノム地図上における位置を示している。前記の2個の別々に単離されたDNAマーカー類としてのD7S122 (pH131) およびD7S340 (TM58) はおよそ10kbしか離れていないので (図2)、前記歩行およびジャンピングは、本質的に単一点から開始されていた。METおよびD7S8に関する歩行およびジャンピングの方向は、次に、数個の稀にしか切断されない (XhoI、NruI およびNotI) に対するそれらのような、図2参照) 制限エンドヌクレアーゼ認識部位の交差によっておよび J. M. Rommensら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.)、印刷中；A. M. Poustkaら、ゲノミクス (Genomics) 2, 337 (1988)；M. L. Drummら、ゲノミクス (Genomics) 2, 346 (1988) の長い範囲の物理的地図を参考にして確認された。パルスフィールドマッピングデータは、同様に、本発明の発明者らによって同定されたこのNotI部位 (図2参照、113kb位) が、IRP座に関連した先に見いだされたもの (Estivilleら1987、同上) に対応していることを明らかとしていた。その後の遺伝的研究からCFがIRPおよびD7S8の間に位置している可能性 [M. Farrallら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 43, 471 (1988)、B. S. Kerenら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 44, 827 (1989)] が極めて高かったので、歩行および

ジャンピング作業をこの区間のクローニングにのみ向けて継続した。しかし、図2に示した他のコード領域は、例えば、G-2、CF14およびCF16が局在され、さらに、広範囲に研究された。これらのその他の領域のこのような広範囲の研究から、それらが遺伝的データおよび配列解析に基づきCF遺伝子ではないことが明らかとなった。CF遺伝子の位置およびその特徴についての知識がないので、この推定上の周辺コード領域を広い範囲で時間をかけて検討しても、CF遺伝子の検索の方向が進展することはなかった。しかし、これらの研究は、CF遺伝子がそれらの領域内にある可能性を除外するために必要であった。280kbセグメント内の3個の領域が、最初に使用した増幅ゲノムライブラリ中に回収可能でないことが判明した。これらのクローニング可能性が少ない領域はH2.3AおよびX.6DNAセグメントの近傍に位置しており、それぞれ、図2の75-100kb, 205-225kbおよび275-285kb位のコスミドcW44をちょうど越えたところにあった。H2.3Aの近傍の組換えクローン類は極めて不安定であり、細菌培養を数代しか継代しなくてもその後急激な再配列を起こすことが判明した。結果として生成したギャップを充填するため、不安定配列類の繁殖を可能とすると報告されている [A. R. Wyman, L. B. Wolfe, D. Botstein、プロシーディングス・オブ・ナショナルアカデミー・オブ・サイエンス米国 (Proc. Nat. Acad. Sci. USA) 82, 2880 (1985)；K. F. Wertman, A. R. Wyman, K. F. Botstein, D. Barker, C. Helms, W. H. Petri, ジーン (Gene)、49, 263 (1986)] 特定の宿主-ベクター系を使用して1次歩行ライブラリを構築した。コスミドcW44近傍の領域は回収されることには変わりなかったが、X.6近傍の領域はこれらのライブラリによって救援され成功した。

2.2 ゲノムライブラリの構築

ゲノムライブラリは、Manatis (Maniatis?) ら、モレキュラークローニング (Molecular Cloning)：ア・ラボラトリマニュアル (A Laboratory Manual (Cold Spring Harbor Laboratory, Cold Spring Harbor, New York)) に記載の操作の後に構築され、表1に列挙した。これには、8個のフェージ類が含まれており、そのひとつは、T. Maniatis [Fritschら、セル (Cell)、19:959 (1980)] によって提供された；残りは、本研究の部分としてManiatisら、同上に記載の操作に従って構築した。下記製造業者によって供与されたベクター腕によって、4個のフェージライブラリが入DASH (Stratageneから商業的に入手可能) 中にクローニングされ、3個が入

FIX (Stratageneから商業的に入手可能)中にクローニングされた。1個のλDASHライブラリは、ヒト染色体7含有ヒト-ハムスターハイブリッド(4AF/102/K015)由来Sau3A-部分消化DNAから構築され、他のライブラリは、ヒト末梢血またはリンパ芽球性DNAの部分Sau3A, 総BamHI、または総EcoRI消化から構築された。不安定配列類の損失を避けるため、このフェージライブラリの内の5つを組換え-欠失宿主DB1316 (recD-), CES200 (recBC-) [Wymanら、同上、Wertman等、同上、Wyman等、同上] ; またはTAP90 [Pattersonら Nucleic Acids Res. 15:6298 (1987)] 上で繁殖させた。3つのコスミドライブラリを次に構築した。1つでは、ベクターpCV108 [Lauら、プロシーディングズ・オブ・ナショナルアカデミー・オブ・サイエンス米国 (Proc. Nat. Acad. Sci. USA) 80:5225 (1983)] を用いて、部分消化 (Sau3A) DNAを4AF/102/K015 [Rommensら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 43:4 (1988)] をクローニングした。第

2のコスミドライブラリは、部分消化 (MboI) ヒトリンパ芽球性DNAを、インターロイキン-2レセプター- α 鎖のための前記RSV (ラウス肉腫ウイルス) プロモータ駆動cDNA (M. FordisおよびB. Howardによって供与された) をpWE15の新耐性遺伝子の代わりに挿入することによって調製したベクターpWE-IL2R中にクローニングすることによって、調製した [プロシーディングズ・オブ・ナショナルアカデミー・オブ・サイエンス米国 (Proc. Nat. Acad. Sci. USA) 84:2160 (1987)]。追加の部分MboIコスミドライブラリは、SalIリンカーをpWE-EL2RのBamHIクローニング部位に挿入することによって作製された [M. Drumm, 未公表データ] ベクターpWE-IL2-SalI中で調製された; これによって、SalIおよびMboI末端の連結のために部分充填法を使用でき、タンデム挿入を回避する [Zabarovskyら、ジーン (Gene) 42:19 (1986)]。コスミドライブラリは、大腸菌 (*E. coli*) 宿主株DH1または490A中で繁殖させた [M. Steinmetz, A. Winoto, K. Minard, L. Hood, セル (Cell) 28, 489 (1982)]。

表 1

ゲノムライブラリ

ファージ	ヒトDNA 起源	宿主	複雑性	参考文献
λ Charon 4A	HaeIII/AluI- 部分消化 総ヒト肝DNA	LE392	1×10^6 (増幅)	Lawn et al 1980
pCV108	Sau3A- 部分消化 BK1 DNA, 4AF/KO15 由来		3×10^6 (増幅)	
λ dash	Sau3A- 部分消化 LE392 DNA, 4AF/KO15 由来		1×10^6 (増幅)	
λ dash	Sau3A- 部分消化 DB1316 総ヒト 末梢血 DNA		1.5×10^6	
λ dash	BamHI- 消化 総ヒト DB1316 ヒト末梢血 DNA		1.5×10^6	
λ dash	EcoRI- 部分消化 DB1316 総ヒト 末梢血 DNA		8×10^6	
λ FIX	MboI- 部分消化 LE392 ヒト リンパ球性 DNA		1.5×10^6	
λ FIX	MboI- 部分消化 CE200 ヒト リンパ球性 DNA		1.2×10^6	
λ FIX	MboI- 部分消化 TAP90 ヒト リンパ球性 DNA		1.3×10^6	
pWE-IL2R	MboI- 部分消化 490A ヒト リンパ球性 DNA		5×10^5	
pWE-IL2R- Sal	MboI- 部分消化 490A ヒト リンパ球性 DNA		1.2×10^6	
λ Ch3A Δ lac (7.8kb)	EcoRI- 部分消化 MC1061 (24-110 kb) ヒトリンパ球性 DNA		3×10^6	Collins et al 同上 Lanzuzzi et al 同上

このファージライブラリの3種を増殖させ、そして、大腸菌 (*E. coli*) 株 LE392 中で増幅させた。4種のその後のライブラリは、組換え欠損宿主類 DB1316 (recD-) または CES200 (recBC-) [Wyman 1985, 同上; Wertman 1986, 同上; および Wyman 1986, 同上] にまたは1例では TAP90 [T. A. Patterson および M. Dean, *Nucleic Acids Research* 15, 6298 (1987)] に接種された。各ファージまた

はコスミド挿入物末端近傍の(繰り返し要素類を全く有していない)単一コピーDNAセグメント類を精製し、標準的手法による重複DNA断片類を単離するためのライブラリスクリーニングのプローブ類として使用した (Maniatis ら, 同上)。 $1-2 \times 10^6$ ファージクローン類は、適当なインディケータ細菌宿主とともに150mmシャーレ 25-30個に接種後、37°Cで10-16時間インキュベートした。各プレートについて二重”リフト”をニトロセルロースまたはナイロン膜で調製し、記載の条件で予備ハイブリダイズおよび

ハイブリダイズさせた [Rommensら、1988、同上]。プローブは、ランダムプライミング操作 [A. P. FeinbergおよびB. Vogelstein、アナリティカルバイオケミストリ (Anal. Biochem. 132, 6 (1983)] を用いて比放射能 5×10^8 cpm/ μ g を越えるまで 32 P で標識した。このコスミドライブラリをアンピシリン含有プレート上に塗布し同様にスクリーニングした。高いバックグラウンドシグナルを示すDNAプローブ類は、前記プローブをハイブリダイゼーションバッグに入れる前に沸騰したプローブを 250μ g/ml のせん断された変性胎盤DNAとともに60分間前アニリングすることによって、より良好に頻繁に使用できた。各歩行段階について、クローニングされたDNA断片の中身は、その染色体位置を確認するための体細胞ハイブリッドパネルによるハイブリダイゼーションによって、そのゲノムとの同一直線性を確認するための制限マッピングおよびサザンブロット解析によって決定した。単離されたゲノムDNA配列類および重複するcDNAクローン類を全て組み合わせたクローニングされた領域は、500kbを越えて伸長していた。染色体歩行およびジャンピング操作によって単離されたDNAセグメント類は、ゲノム配列と同一直線にあることを立証するため、各セグメントを：

(a) 染色体7の局在を確認するためのヒト-げっ歯類ハイブリッド体細胞によるハイブリダイゼーション解析、(b) パルスフィールドゲル電気泳動、および (c) クローニングされたDNAの制限地図とゲノムDNAのそれとの比較、によって調べた。したがって、単一コピーヒトDNA配列類は、各組換えファージおよびコスミドクローンから単離され、Maniatisら、同上の操作によって行うこれらのハイブリダイゼーション解析のそれぞれにおいてプローブとして使用した。ファージおよびコスミド単離物の大半は正確な歩行およびジャンプクローンを示す一方で、わずかが、クローニングアーティファクトまたはヒトゲノム中の他の領域からの交差ハイブリダイゼーション配列類から、または、前記ライブラリがヒト-ハムスターハイブリッド細胞株から由来する場合ハムスターゲノムから、結果として生成した。正確な位置の確認は、染色体ジャンピングによって単離されたクローン類について特に重要であった。多くのジャンプクローン類を検討し、前記遺伝子から研究の方向をそらすような結論とはならない情報が得られた。

2.3 制限地図の確認

さらに、重複するクローン類の重複物理地図の確認を、パルスフィールドゲル電気泳動を用いて長い範囲の制限マッピング解析によって得た (J. M. Rommens, アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet. 印刷中、

A. M. Poustkaら、1988、同上、M. L. Drummら、1988、同上)。図3Aから3Eまでは、長い範囲の制限マッピング研究の知見を例示しており、その中で、本領域の概略をパネルEに示した。ヒト-ハムスター細胞株4AF/102/K015由来DNAは、酵素 (A) Sal I、(B) Xho I、(C) Sfi I および (D) Nae I によって消化され、パルスフィールドゲル電気泳動によって分離され、そして、ゼータプローブ (Zetaprobe^R) (バイオラッド (BioRad)) に移した。各酵素について、単一ロットを連続して図AからDまでのパネル類のそれぞれの下に示したプローブ類とハイブリダイズさせ、前記ブロットをハイブリダイゼーションの間で切断した。図3Eの各酵素の記号は：A, Nae I ; B, BssH I ; F, Sfi I ; L, Sal I ; M, Mlu I ; N, Not I ; R, Nru I ; および X, Xho I である。Cは、ゲルの圧縮ゾーン領域に対応する。DNA調製物、制限消化、および交差フィールドゲル電気泳動方法が記載されている (Rommensら、印刷中、同上)。図3のゲル類は、0.5XTBE中を20時間、7ボルト/cmで走行させ、(A)、(B) および (C) について10-40秒間直線的に傾斜させて切り替え、8ボルト/cmで20時間、(D) について50-150秒間直線的に傾斜させて切り替えた。ハイブリダイゼーションパターンの解釈図を各パネルの下に示した。断片長さはキロベースとして、そして、オリゴマーとしたバクテリオファージ入DNAおよびサッカロミセス・セレビジアエ (*Saccharomyces cerevisiae*) 染色体との比較によって大きさを分類した。H4.0, J44, EG1.4は、歩行およびジャンピング実験から生じたゲノムプローブ類である (図2参照)。J30は、D7S8からの4つの連続ジャンプによって単離された (Collinsら、1987、同上; Ianuzziら、1989、同上; M. Deanら、公表のために提出)。10-1, B.75, およびCE1.5/1.0は、CF転写体の異なる領域を包含するcDNAプローブ類である：10-1は、エクソン類I-VIを含有し、B.75はエクソン類V-XIIを含有し、およびCE1.5/1.0は、エクソン類XII-XXIVを含有する。図3Eには、全MET-D7S8区間の組成地図を示した。四角の領域は、歩行およびジャンピングによってクローニングされたセグメントを示唆しており、そして、斜線を入れた部分は、CF転写体によって網羅された領域を示唆している。D7S23座に関連したCpG含量の多い領域 (Estivilleら、1987、同上) は、カッコに示したNot I 部位にある。カッコまたはカギカッコに示したこの部位および他の部位は、4AF/102/K015内で切断せず、しかし、ヒトリンパ芽球性細胞株類で観察された。

2.4 CF遺伝子の同定

上記で詳細に述べた長い範囲の制限マッピングの知見に基づき、全CF遺伝子が、380 kbのSal I断片上に含有されることが決定された。パルスフィールドゲル解析から由来する制限部位類の部分重複ゲノムDNAクローン類で同定されたそれらとの配列から、このCF遺伝子の大きさが約250 kbであることが明らかとなった。クローニングされたDNA断片類の地図および長い範囲の制限地図の配列に役だった最も情報に富んだ制限酵素は、Xho Iであった；組換えDNAクローン類によって同定された9個のXho I部位の全てが、ゲノムDNA中の少なくとも部分切断に感受性であるらしかった(図1および2の地図と比較)。さらに、CF遺伝子の3'末端由来プローブ類とのハイブリダイゼーション解析では、2個のSfi I部位が同定され、予測Nae I部位の位置が確認された。これらの知見は、さらに、染色体歩行およびジャンピング操作によって単離されたDNAセグメント類が、真の配列と同一直線にあることを裏付けた。

2.5 同定の基準

1個以上の下記の基準に基づいた陽性の結果は、クローニングされたDNAセグメントが候補遺伝子配列類を含有できることを示唆していた：

- (a) 他種における交差ハイブリダイズ配列類の検出(多くの遺伝子類が進化的保存を示すので)
- (b) 脊椎動物遺伝子類の5'末端を頻繁にマークするCpG島の同定 [A. P. Bird, ネーチャー (Nature), 321, 209 (1986); M. Gardiner-GardenおよびM. Frommer, ジャーナル・オブ・モレキュラーバイオロジー (J. Mol. Biol.) 196, 261 (1987)]、
- (c) CF患者中の罹患組織中での可能なmRNA転写体の検索、
- (d) 対応するcDNA配列類の単離、
- (e) クローニングされたDNAセグメント類の直接配列決定による読みとり枠の同定。

種間ハイブリダイゼーションは、CF14, E4.3およびH1.6をプローブとして用いたときにヒトおよびウシDNAの間に強い配列保存があることを示しており、その結果は、図4A, 4Bおよび4Cに示してある。ヒト、ウシ、マウス、ハムスター、およびニワトリゲノムDNA類は、EcoRI (R), HindIII (H)、およびPstI (P)によって消化され、電気泳動させ、そして、ゼータバインド (Zetabind R) (バイオラド (BioRad)) にブロットされた。Rommensら、1988, 同上のハイブリダイゼーション操作を、55°C、0.2X SSC、および0.1% SDSによる最大緊縮洗浄とともに用いた。図4のハイブリダイゼーションに使用したプローブ類は：(A) 全コスミドCF14, (B) E4.3、

(C) H1.6を含んでいた。図(D)の略図において、影を付けた領域は、種間保存領域を示している。異なるサブセットのバンドがこれらの2つの重複するDNAセグメント類(H1.6およびE4.3)で検出されたという事実は、この保存配列が重複した領域の境界に位置している(図4(D))ことを示唆していた。これらのDNAセグメント類を用いてさまざまな組織からRNA転写体を検出するとき、ハイブリダイゼーションシグナルが検出された。交差ハイブリダイズ領域を理解し、かつ可能な読みとり枠を同定する試みとして、全H1.6のDNA配列類および前記E4.3断片の部分を決めた。結果は、2種の制限酵素(BssHIIおよびSacI)のためのCG含量の多い配列の長い伸長部はしばしば低メチル化CpG島に関連して見られるが、これらを除くと、強い種間ハイブリダイゼーションシグナル類を容易には説明できない短い読みとり枠しかなかったことを示していた。このCpG高含量の領域の配列決定によって明らかとなったメチル化状況を調べるために、繊維芽細胞およびリンパ芽球性細胞から調製したゲノムDNA試料を制限酵素HpaIIおよびMspIによって消化し、ゲルブロットハイブリダイゼーションによって解析した。酵素HpaIIは、第2のシトシンが低メチル化である時にのみDNA配列5'-CCGG-3'を切断し、一方、MspIは、メチル化の状態に関わらずこの配列を切断する。小さいDNA断片類は両酵素によって産生され、このCpG含量の多い領域が実際にはゲノムDNA中において低メチル化であることを示唆していた。E4.3セグメント(図6)によるゲルブロットハイブリダイゼーションによって、両酵素によって極めて小さなハイブリダイズ断片類が明らかとなり、低メチル化CpG島の存在を示唆していた。上記の結果は、この座におけるコード領域の存在を示唆している。本領域から種間ハイブリダイゼーションシグナル類を検出するDNAセグメント類(E4.3およびH1.6)をプローブ類として用いて、数組織および細胞タイプから作成したcDNAライブラリをスクリーニングした。培養上皮細胞からのcDNAライブラリは、下記のようにして調製した。CF患者以外の者およびCF患者から由来する汗腺細胞を、記載のようにして初代継代した [G. Collieら、インビトロセルラー・エンド・デベロップメントバイオロジー (In Vitro Cell. Dev. Biol.) 21, 592, 1985]。外側における整流チャンネルの存在は、これらの細胞中で確認された (J. A. Tabcharani, T. J. Jensen, J. R. Riordan, J. W. Hanrahan, ジャーナル・オブ・メンブレンバイオロジー (J. Memb. Biol.)、印刷中) が、しかし、このCF細胞類は、サイクリックAMPによる活性化に無感受性であった (T. J. Jensen, J. W. Hanrahan, J. A. Tabcha

rani, M. BuchwaldおよびJ. R. Riordan, ペディアトリックパルモノロジー (Pediatric Pulmonology), 補遺2, 100, 1988)。RNAは、それらから、J. M. Chirgwinら (バイオケミストリ (Biochemistry) 18, 5294, 1979) の方法によって単離した。ポリA+RNAが選択され (H. AvivおよびP. Leder, プロシーディングズ・オブ・ナショナルアカデミー・オブ・サイエンス米国 (Proc. Nat. Acad. Sci. USA) 69, 1408, 1972)、オリゴ (dT) 12-18をプライマーとするcDNA合成のための鋳型 (テンプレート) として使用した。第2の鎖は、GublerおよびHoffmanによって合成した (ジーン (Gene) 25, 263, 1983)。これは、EcoRIメチラーゼによってメチル化され、末端は、T4DNAポリメラーゼによって平滑にした。リン酸化されたEcoRIリンカー類をこのcDNAに連結し、EcoRIによって制限した。過剰のリンカーの除去および部分的サイズ分画は、バイオゲル (Bio gel) A-50クロマトグラフィによって達成した。このcDNA類は、次に市販のλZAPのEcoRI部位に連結した。組換え体は、大腸菌 (E. coli) BB4中に封入され増殖させた。この封入された混合物の部分を増幅し、残りは、増幅前にスクリーニングのために保存した。同一操作を用いて、T-84結腸腫瘍細胞株 (Dharmathaphoron, Kら、アメリカンジャーナル・オブ・フィジオロジー (Am. J. Physiol.) 246, G204, 1984) の飽和前培養物から単離されたRNAからライブラリを構築した。3つのライブラリの独立した組換え体の数は、非CF汗腺細胞について 2×10^6 個、CF汗腺細胞について 4.5×10^6 個およびT-84細胞について 3.2×10^6 個であった。これらのフェージ類は、15cmプレート当たり50,000個接種し、プラークリフトは、ナイロン膜 (バイオダイン (Biodyne)) を用いて作成し、そして、DNAポリメラーゼIおよびプライマーとしてのオリゴヌクレオチド類の無作為混合物を用いて ^{32}P で標識したDNA断片でプロービングした。ハイブリダイゼーション条件は、G. M. WahlおよびS. L. Berger (メソッズ・イン・エンザイモロジー (Meth. Enzymol.) 152, 415, 1987) によった。ブルースクリプト (Bluescript[®]) プラスミド類は、M13ヘルパーフェージによる切断によってプラーク生成クローン類から救援した。肺および膵ライブラリは、クロンテックラボラトリ社 (Clontech Lab. Inc.) から購入し、その報告された大きさは 1.4×10^6 および 1.7×10^6 個である独立したクローン類であった。それぞれが $1 \times 10^5 - 5 \times 10^6$ 個の独立したクローン類を有する7種の異なるラ

イブラリをスクリーニングした後、1個の単一クローン (10-1として同定) を、非罹患 (非CF) 者の培養汗腺上皮細胞類から作成したcDNAライブラリからH1.6によって単離した。DNA配列決定解析は、10-1が大きさが920bpの挿入物および1個の長い潜在的読みとり枠 (ORF) を含有することを示していた。本配列の1端はH1.6と完全な配列同一性を有していたので、cDNAクローンがおそらくこの領域から由来していると結論された。しかし、この共通のDNA配列は113bpの長さしかなかった (図1および7を参照)。下に詳細に記したように、この配列は現実には推定CF遺伝子の最も5'側のエクソンに対応していた。短い配列の重複はしたがってライブラリスクリーニングにおける弱いハイブリダイゼーションシグナル類およびRNAゲルプロット解析における転写体の検出不能を説明した。さらに、転写単位の方法は、10-1の推定ORFによるゲノムDNA配列の整列を基準として暫定的に立証された。この対応する転写体は、RNAゲルプロットハイブリダイゼーション実験によって長さがおよそ6500個のヌクレオチドであると推定されたので、さらに、cDNAライブラリスクリーニングがコード領域の残りをクロニングするために必要となった。結腸腫瘍細胞株T84から作製されたcDNAライブラリによるいくつかの連続スクリーニングの結果、正常およびCF汗腺細胞、膵および成人肺、18個のその他のクローン類が単離された (さらに詳細には下記で検討した、図7)。DNA配列解析は、これらのcDNAクローン類のいずれも観察された転写体の長さに対応していないことを明らかとしているが、しかし、重複領域類に基づいて共通配列を誘導することが可能であった。前記転写体の5'および3'末端に対応する付加的cDNAクローン類は、5'および3'プライマー伸長実験から誘導した。これとともに、これらのクローン類は総計で6.1kbにわたりかつ1480アミノ酸残基のポリペプチドをコード可能なORFを含有する。ここで単離されたcDNAクローン類のほとんどは図7の制限地図のさまざまな位置における配列挿入物を含有していたことを観察したことは異常であった。本地図は、CF遺伝子のゲノム構造を詳細に示している。エクソン/イントロン境界が示されており、その中では、単離された全てのcDNAクローン類が図の上半分に概略示されている。これらの余分な配列類の多くは、ゲノムDNA配列類との配列で明らかのように、cDNA構築の間に逆転写されたイントロン領域に明確に対応していた。ライブラリスクリーニングで検出されたCF遺伝子の組換えcDNAクローン類の数はRNAハイブリダイゼーション実験で推定された豊富な転写体から予測されるよりもはるかに少なかったため、異常構造を含有するクローン類が優先して保存され一方適切なクローン類が増殖時に喪失するらしかった。本研究で単離された組換えクローン類の

大半が、この解釈と一致するように、使用したベクターに無関係に増殖不良であることが観察された。cDNAの5' および3' 末端類を得るために使用した操作は、記載されたものと類似していた(M. Frohmanら、プロシーディングズ・オブ・ナショナルアカデミー・オブ・サイエンス米国 (Proc. Nat. Acad. Sci. USA)、85、8998-9002, 1988)。5' 末端クローン類について、総膜およびT84ポリA+RNA試料を、放射性トレーサーを本反応に含めた以外はプライマー伸長反応について記載されたのと同様に、エクソン2に特異的な1個のプライマー(10b)を使用して逆転写した。1次鎖合成のアガロースビーズカラムから採取した分画を、溶出分画のポリメラーゼチェーン反応(PCR)によってアッセイした。使用したオリゴヌクレオチドは、伸長プライマーのちょうど5' の10-1配列内部に(ヌクレオチド145個離れて)あった。PCR産物を生成する最初の分画をプールし、蒸発によって濃縮し、供給者(BRLラボラトリ(BRL Labs.))が推奨するように末端デオキシヌクレチジルトランスフェラーゼ(BRLラボラトリ)およびdATPでその後末端につないだ。次に、2次鎖合成を、Taqポリメラーゼ(シータス(Cetus)社、Ampli Taq^R)によって、末端に連結したリンカー配列5' CGGAATTCTCGAGATC(T)₁₂3'を含有するオリゴヌクレオチドを用いて実行した。次に、前記のリンカー配列、およびEcoRI制限部位をその5'末端に有する伸長プライマーのちょうど内側のプライマーを用いる固定(PCR)実験による増幅を行った。酵素類EcoRIおよびBglIIによる制限およびアガロースゲル精製後、サイズ別に選択した産物を標準的操作によって(Maniatissら、同上) Stratageneから購入可能なプラスミドブルースクリプト(Bluescript)KSへクローニングした。回収されたクローン類の基本的に全てが350個未満のヌクレオチド類挿入物を含有していた。3'末端クローン類を得るため、プライマー伸長のそれに類似の条件で、先に記載の末端連結リンカーオリゴヌクレオチドを用いて、1次鎖cDNAを2μgのT84ポリA+RNAの逆転写によって調製した。PCRによる増幅を前記のリンカーオリゴヌクレオチドおよびクローンT16-4.5の公知の配列類に対応する3つの異なるオリゴヌクレオチド類によって実行した。分取用スケールの反応(2×100μl)を、配列5' ATGAAGTCCAAGGATTTAG3'を有するこれらのオリゴヌクレオチド類のひとつで行った。このオリゴヌクレオチドは、T16-4.5の公知の配列内部のHindIII部位の上流の約70個のヌクレオチドである。PCR産物のHindIIIおよびXhoIによる制限を行い、次に、アガロースゲル精製で1.0-1.4kbのバンドをサイズ選択した。この

産物をその後Stratageneから購入可能なプラスミドブルースクリプトKS中にクローニングした。得られたクローンの約20%をT16-4.5の3'末端部分にハイブリダイズさせた。これらのクローン類から単離されたプラスミド類の10/10が同一制限地図を有しており、その挿入物の大きさは、約1.2kbであった。PCR反応の全てを酵素供給業者が示唆した緩衝液中で30サイクル行った。10-1クローンの5'末端から157ntに位置する伸長プライマーを用いて、推定CF転写体の開始点を同定した。このプライマーの末端を5000キューリー/ミリモルでγ[³²P]ATPおよびT4ポリヌクレオチドキナーゼで標識し、スパンカラムゲルろ過によって精製した。次に、放射性標識プライマーをT-84結腸腫瘍細胞から調製した4-5μgのポリA+RNAと2x逆転写酵素緩衝液中で2時間、60°Cでアニリングした。希釈およびAMV逆転写酵素(ライフサイエンス社(Life Sciences, Inc.))の添加後、41°Cにおけるインキュベーションを1時間行った。試料を次に0.4M NaOHおよび20mM EDTAに調節し、最終的にNH₄OAc、pH4.6で中性とし、フェノール抽出、エタノール沈澱、ホルムアミドによる緩衝液への再溶解、さらに、ポリアクリルアミドシークエンシングゲル上での解析を行った。これらの方法の詳細は、記載されている(メソズ・イン・エンザイモロジー (Meth. Enzymol.) 152, 1987, S. L. Berger, A. R. Kimmel編著, アカデミックプレス(Academic Press), N. Y.)。10-1の5'末端からの157ヌクレオチドで開始する伸長オリゴヌクレオチドプライマーを用いるプライマー伸長実験の結果を、図10のパネルAに示した。HaeIII(BRLラボラトリ)で消化した末端標識φX174バクテリオファージをサイズマーカーとして使用する。2個の主要産物が、216および100ヌクレオチドで観察される。10-1中の100ヌクレオチドに対応する配列は、極めてGC含量の多い配列(11/12)に対応し、これが逆転写酵素停止部位でありうることを示唆していた。5'固定PCR結果は、図10のパネルBに示してある。左に示した1.4%アガロースゲルをプロットし、ゼータベース(Zetabase^R)膜(バイオドララボラトリ(Bio-Rad Lab))に移した。放射性標識10-1とのDNAゲルプロットハイブリダイゼーションは、右に示した。5'伸長産物は、170-280ntまで大きさが変化し、主要産物は約200ヌクレオチドにあることがわかる。PCR対照レーンは、145ヌクレオチドの断片を示している。それは、10-1配列内部の試験オリゴマー類を用いて得られた。示したサイズマーカー類は、サイズ154, 220/210, 298, 344, 394ヌクレオチド類(1kbラダー(ladder))は、B

RLラボラトリから購入した)に対応している。図10のパネルBの下方に示した略図は、図7に示したクローン類PA3-5およびTB2-7を産生するための増幅およびクローニングのために使用した2重鎖cDNAを得るための操作を概略したものである。3'末端を特性解析するための固定PCR実験は、パネルCに示した。図10Cの下方の略図に示したように、互いの相対位置が公知である3個のプライマー類を、逆転写されたT84RNAによる増幅のために記載のように使用した。これらの産物類は1%アガロースゲル上で分離し、上記に記載のようにナイロン膜上にブロットした。T16-4.5クローンの3'部分とのDNA-ブロットハイブリダイゼーションは、使用した特定オリゴマーおよび転写体の3'末端の間の距離に対応する大きさのバンド類を産生した。レーン1、2aおよび3内のこれらのバンド類は、図10のパネルCの下に概略示してある。レーン3のバンドは、このセグメントのヌクレオチド60個しか使用しなかったプローブと重複しないので、弱い。同様に略図に示しかつレーン2bに示したように、固定PCR産物の制限によって産生された産物はクローニングを促進し、図7に示したTHZ-4クローンを産生する。全転写体を網羅するcDNA類の部分でプローブとしたEcoRIおよびHindIII酵素類によって消化したゲノムDNAのDNA-ブロットハイブリダイゼーション解析から、本遺伝子がローマ数字IからXXIVまでとして番号を付けた少なくとも24個のエクソン類を含有することを示唆している(図9参照)。これらは、図7に示した数値1から24までに対応する。各バンドの大きさは、kbで示してある。図7において、白色の四角は、cDNAライブラリのスクリーニングからおよび前記の5'および3'末端をクローニングするために設計された固定PCR実験から22個を越えるクローン類を単離することによって同定された24個のエクソン類のおよその位置を示している。各エクソンによって検出されたEcoRIゲノム断片のkb単位の長さも、また、示した。図7の斜線入り四角は、イントロン配列類の存在を示唆しており、かつ、点線入り四角は、他の配列類を示している。左下に閉鎖四角で示したのは、正常汗腺ライブラリの10⁶個のフェージ中から最初のcDNAクローンを検出するために使用したクローンH1.6の相対位置である。図4(D)および7に示したように、このゲノムクローンH1.6は、部分的に4.3kbのEcoRI断片と重複する。示したcDNAクローン類の全てがゲノムDNAにハイブリダイズし、および/または制限地図上に良好にマッピングされた。このcDNA類内部または対応するゲノム断片類中に出現する制限部位類の例を示した。図9を参照として、ハイブリダイゼーション解析は、プローブ類;すなわち、パネルAについてcDNAクローン類、パネルBについてT16-1(3'部分)、パネルCについてT

16-4.5(中央部分)およびパネルDについてT16-4.5(3'末端部分)を含む。図9のパネルAにおいて、cDNAプローブ10-1は、エクソンIからVIまでのゲノムバンド類を検出している。NruI制限によって作製されたT16-1の3'部分は、パネルBに示したようにエクソンIVからXIIIまでを検出する。このプローブは、10-1と部分的に重複する。パネルCおよびDは、それぞれ、クローンT16-4.5の中央および3'末端EcoRI断片類によって検出されるゲノムバンド類を示している。2個のEcoRI部位がcDNA配列内部に出現し、エクソンXIIIおよびXIXを分割する。カッコ内のエクソン類によって示したように、2個のゲノムEcoRIバンド類がこれらのエクソン類のそれぞれに対応する。他のゲノム断片類への交差ハイブリダイゼーションが観察された。これらのバンド類はNによって示され、それらはヒト染色体7を含有するヒト-ハムスターハイブリッド中に出現しないので、染色体7起源のものではない。カギカッコ中のXIによって示したパネルD中のかすかなバンドは、前記cDNAとの内部相同性による配列類の交差ハイブリダイゼーションが原因であると確信されている。T-84結腸腫瘍細胞株由来RNAのゲルブロットハイブリダイゼーション上で10-1が強いバンドを検出したので、このcDNAを用いてその起源から構築されたライブラリをスクリーニングした。15個の陽性物が得られ、それから、クローン類T6、T6/20、T11、T16-1およびT13-1が精製されかつ配列決定された。同ライブラリをT16-1の3'末端からのBamHI-EcoRI断片0.75kbで再度スクリーニングして、T16-4.5を生成した。T16-4.5の3'末端からの1.8kbのEcoRI断片は、T8-B3およびT12aを生成し、この後者は、ポリアデニル化シグナルおよび末端を有していた。同時に、ヒト肺cDNAライブラリをスクリーニングした;ここで接頭辞"CDL"によって示したものを含めて多くのクローン類が単離された。肺ライブラリを同様にスクリーニングして、クローンCDPJ5を生成した。この転写体コピーをCF患者から得るため、患者1例からの汗腺上皮細胞のcDNAライブラリを、T16-1の3'末端からの0.75kbのBamHI-EcoRI断片によってスクリーニングして、エクソン1を除く全てを包含するクローン類C16-1およびC1-1/5を単離した。これら2種のクローン類は両方ともエクソン10中の3bpの欠損を示し、これは、そのエクソンを有する他の全てのクローンに存在していない。肺ライブラリ由来のCDLS26-1およびT84から単離されたT6/20およびT13-1は、部分処理転写体類から誘導した。このことは、ゲノムハイブリダイゼーションによっておよび各クローンのためのエクソン-イントロン境界を横切る配列決定によって確認した。T11は、同様

に、各末端で付加的配列を有していた。T16-4、5は、イントロン配列に対応しないエクソン類10および11の間の境界近傍で小さい挿入物を有していた。肺ライブラリからのクローン類CDLS16A、11Aおよび13Aは、同様に、未知の起源の外来性配列類を有していた。このクローンC16-1は、また、大腸菌 (*E. coli*) の γ -トランスポゾンの1部分に対応する短い挿入物を含有していた；この要素は、他のクローン中で検出されなかった。脾RNAから作製された5'クローン類PA3-5および固定PCR法を用いてT84RNAから作製されたTB2-7は、図1に示したように5'末端における1個のヌクレオチドの長さにおける差異を除いて同一の配列を有している。T84RNAから得られた3'クローンのTHZ-4は、この領域のゲノム配列に一致する転写体の3'配列を有している。CF遺伝子の推定コード領域を示す組み合わせ配列は、重複するcDNAクローン類から作製された。cDNAクローン類のほとんどが明らかに未処理転写体から誘導されたので、この組み合わせ配列の正確さを確認するためにさらに研究を行った。各cDNAクローンについて、1個のヒト染色体7を含有するヒト-ハムスター体細胞ハイブリッドによるハイブリダイゼーション解析によっておよびバルスフィールドゲル電気泳動によって染色体7に対する局在を最初に試験した。微細な制限酵素マッピングを各クローンについて同様に行った。重複する領域が明らかにクローン類のほとんどについて同定可能であるので、多くが、独自の制限パターンを含有していた。さらにこれらのcDNAクローン類を解析するために、これらをプローブ類としてEcoRIまたはHindIIIで消化したヒトゲノムDNAによるゲルハイブリダイゼーション実験で用いた。図9に示したように、5個乃至6個の異なる制限断片類が、10-1cDNAによって検出でき、かつ、類似数の断片類が他のcDNAクローン類で検出でき、推定CF遺伝子のために複数のエクソン類が存在することを示唆している。このハイブリダイゼーション研究は、また、未処理イントロン配列類を有するcDNAクローン類がゲノムDNA断片類のサブセットに対して優先的なハイブリダイゼーションを示したので、これらを同定した。確認されたcDNAクローン類について、それらの対応するゲノムDNAセグメント類が単離されかつエクソン類および/またはエクソン/イントロン境界が配列決定された。図7に示したように、総計24個のエクソン類が識別された。この情報および物理的マッピング実験の結果に基づいて、遺伝子座が染色体7上で250kbに及ぶと推定された。

2.6 配列

図1は、演繹されたアミノ酸配列とともに、CFTRをコードするクローニングされたcDNAのヌクレオチド配列を示している。最初の塩基位置は、Tb2-7より

もヌクレオチド1個だけ長い5'伸長クローンPA3-5中の最初のヌクレオチドに対応する。矢印は、プライマー伸長解析による転写開始部位の位置を示している。ヌクレオチド6129の後にポリ(dA)鎖(tract)が続く。エクソン結合部の位置は、垂直線によって示唆される。膜を貫通する潜在的セグメント類は、Eisenbergら、ジャーナル・オブ・モレキュラーバイオロジー (*J. Mol. Biol.*) 179:125 (1984) のアルゴリズムを用いて確認した。解析しかつ図11に示した膜をおおう潜在的セグメント類は、図1の四角に囲んだ。図11において、残基9個のペプチド類の平均ヒドロパシー係数 [KyteおよびDoolittle, ジャーナル・オブ・モレキュラーバイオロジー (*J. Mol. Biol.*) 157:105, (1982)] をアミノ酸の数に対してプロットする。Garnierら、(ジャーナル・オブ・モレキュラーバイオロジー (*J. Mol. Biol.*) 157, 165 (1982)) によって予測した2次構造特徴の対応する位置は、下のパネルに示した。推定上のATP結合折り畳みからなるアミノ酸類は、図1でアンダーラインを付けた。プロテインキナーゼA (PKA) またはC (PKC) によってリン酸化が可能な部位は、白丸および黒丸によってそれぞれ示してある。白三角は、CFにおいて欠失している3bp (CTT) 上にある。図1のこのcDNAクローン類は、ジュボンジェネシス (DuPont Genesis) 2000^R 自動DNAシーケンサーにより³⁵S標識ヌクレオチド類を用いたジデオキシチェン法によって配列決定した。組み合わせたcDNA配列は、未翻訳領域の3'末端のポリ(A)テイルを除く6129塩基対を跨いでおり、そして、1480個のアミノ酸のポリペプチドをコード可能なORFを有している (図1)。ATGトリプレット (AUG) が、このORFの最初に存在している (塩基位置133-135)。このコドン (5'-AGACCAUGCA-3') を取り囲むこのヌクレオチド配列は、真核生物翻訳開始部位の共通配列 (CC) A/GCCAUGG (G) の提起された特徴を-3位の高度に保存されたAとともに有しているため、このAUGが推定ポリペプチドの最初のメチオニンコドンに対応すること可能性が極めて高い。転写体の5'末端に対応する配列を得るため、プライマー伸長実験を先にも述べたように実施した。図10Aに示したように、約216個のヌクレオチド類のプライマー伸長産物が観察され、前記転写体の5'末端がcDNAクローン10-の末端の上流の約60個のヌクレオチドで開始することを示唆していた。次に修飾されたポリメラーゼチェーン反応 (固定PCR) を用いて、この5'末端配列類のクローニングを促進した (図10b)。2個の独立した5'伸長クローン類はひとつは脾由来で他方はT84RNA由来であり、DNA配列決定によって特性解析し、長さで1塩基しか違わ

ないことが見いだされ、図1に示したように最も可能性の高い転写開始部位を示唆していた。開始cDNAクローン類のほとんどはmRNA末端を示唆するポリAテイルを有していないので、固定PCRを同様に転写体の3'末端に適用した(Frohmanら、1988、同上)。3個の3'伸長オリゴヌクレオチド類をcDNAクローンT16-4.5の末端部分に対して作製した。図10cに示したように、異なる大きさの3個のPCR産物が得られた。全てが転写体の末端がヌクレオチド5027位IIにおけるHindIII部位の下流のおよそ1.2kbであるという解釈と矛盾していなかった(図1参照)。代表的クローン類から誘導したDNA配列は、T84cDNAクローンT12aのそれ(図1および7参照)、その対応する2.5kbのEcoRIゲノム断片の配列と一致していた。

3.0 CFの分子遺伝学

3.1 発現部位

推定CF遺伝子のための転写体を可視化するため、RNAゲルブロットハイブリダイゼーション実験をプローブとしての10-1 cDNAで行った。RNAハイブリダイゼーション結果は、図8に示した。RNA試料は、外科病理からまたは剖検で得られた組織試料から先に記載の方法にしたがって調製した(A. M. Kimmel, S. L. Berger, 編著、メソツズ・イン・エンザイモロジー(Meth. Enzymol.) 152, 1987)。ホルムアルデヒドゲルをナイロン膜に移した(ゼータプローブ(Zetaprobe[®]); バイオラドラボラトリ(BioRad Lab.))。先に公表された操作(J. Rommensら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス(Am. J. Hum. Genet.) 43, 645-663, 1988)にしたがって、ランダムプライミング法によってこの膜を次に標識されたDNAプローブ類と高比放射能となるまでハイブリダイズさせた(A. P. FeinbergおよびB. Vogelstein、アナリティカルバイオケミストリ(Anal. Biochem.) 132, 6, 1983)。図8は、cDNAクローン10-1による示した組織中における6.5kbの転写体へのハイブリダイゼーションを示している。各組織の総RNA(10 μ g)およびT84結腸腫瘍細胞株のポリ(A)+RNA(1 μ g)は、1%ホルムアルデヒドゲル上で分離した。28Sおよび18S rRNAバンド類の位置を示している。矢印は、転写体の位置を示している。RNAマーカー標準物質(BRLラボラトリ)との比較によって、大きさを決めた。HL60はヒト前骨髄細胞性白血病細胞株であり、T84はヒト結腸癌細胞株である。解析から、T84細胞中において大きさが約6.5kbの顕著なバンドが明らかとなった。同様に、強いハイブリダイゼーションシグナルが臍および鼻ポリープ由来細胞の初代培養中で検出され、推定CF

遺伝子の成熟mRNAが約6.5kbであることを示唆している。おそらく分解産物を示しているのであろう小さなハイブリダイゼーションシグナルが、低サイズ範囲で検出されたが、それらは、異なる実験間で変化していた。同一の結果が、他のcDNAをプローブとしても得られた。ハイブリダイゼーションバンド強度および他の転写体について同一実験条件下で検出されたそれらとの比較に基づき、推定CF転写体がT84細胞中の総mRNAのおよそ0.01%を構成すると推定した。いくつかの他の組織も、10-1遺伝子の発現パターンとCFの病理を相関させるためにRNAゲルブロットハイブリダイゼーション解析によって調べた。図8に示したように、全て同一サイズの転写体が、肺、結腸、汗腺(培養上皮細胞)、胎盤、肝、および耳下腺で見られたが、これらの組織におけるシグナル強度は調製物が異なると変化し、かつ、臍および鼻ポリープ中で検出されるそれよりも一般に弱かった。強度は調製物が異なると変化しており、たとえば、腎におけるハイブリダイゼーションは、図8に示した調製物中で検出されなかったが、以後アッセイを繰り返して識別できる。脳または副腎ではいかなるハイブリダイゼーションシグナルも識別できず(図8)、または、皮膚繊維芽細胞およびリンパ芽球性細胞株でも識別できなかった。要約すれば、CF遺伝子の発現は調べた組織の多くで起こるらしかったが、CFに重篤に罹患している組織中で高レベルであった。この上皮組織特異的発現パターンは本疾患の病理と極めてよく一致している一方で、CFおよび対照組織由来転写体の量および大きさには有意な差が検出されず、CF変異がヌクレオチドレベルにおけるわずかな変化であるという仮定と一致している。

3.2 主なCF変異

図17は、F508欠失におけるDNA配列を示している。左は、(cDNAクローンT16から誘導した)正常配列の塩基位置1649-1664からの配列の逆転写である。このヌクレオチド配列は、ジュボンジェネシス(DuPont Genesis)2000[®] RNA解析システムの2個の光電子増倍管(PMT#1および#2)のそれぞれについて時間(x軸)に対してプロットした(勝手に付けた蛍光強度単位による、y軸)出力として表示されている。対応するヌクレオチド配列は、下方に示されている。右は、(cDNAクローンC16から誘導した)変異配列からの同一領域である。2重鎖プラスミドDNAテンプレートは、アルカリ溶解操作によって調製した。アニーリングを45°Cで30分間行ったことおよび伸長/終止段階を42°Cで10分間行ったことを除いて、DuPontによって推奨されたプロトコールにしたがって、プラスミドDNA5 μ gおよびオリゴヌクレオチドプライマー75ngを各配列決定反応に使用した。非取り込み蛍光ヌクレオチド類は、pH7.0の2.5M酢酸アンモニウムの存在下におけるD

NA配列決定反応産物のエタノール沈澱によって除去し、70%エタノールで1回洗浄した。T16-1配列決定のために使用したプライマーは、塩基位置1708-1731にまたがる特異的オリゴヌクレオチド5' GTTGGCATGCTTTGATGACGCTTC3'であり、C16-1に対するそれは、ブルースクリプトベクター (Stratagene) に対する普遍的プライマーSKであった。図18は、また、手動配列決定によって決定したF508欠失の周りのDNA配列を示している。(cDNA T16-1からの)塩基位置1726-1651からの正常配列を(cDNAC16-1からの)CF配列の側に示した。左のパネルは、Bプライマー(5' GTTTTCCTGGAT-TATGCC TGGGCAC3')によって得られたコード鎖からの配列を示しており、かつ、右のパネルは、Dプライマー

(5' GTTGGCATGCTTTGATGACGCTTC3')による反対鎖のそれらを示している。カギカッコは、CFにはない正常者の3個のヌクレオチド類を示している(矢印先端)。配列決定は、F. Sanger, S. Nicklen, A. R. Coulson, Proc. Nat. Acad. Sci. USA 74; 5463 (1977)に記載のように行った。この欠失を有するCF患者の割合を調べるため、患者およびその親からのゲノムDNA試料をそれぞれこの変異に隣接するオリゴヌクレオチドプライマー類でポリメラーゼチェーン反応で増幅し、正常および推定変異配列類(図2参照)に特異的な³²P標識オリゴヌクレオチド類にハイブリダイズさせた。本解析の結果は、表2に示してある。

表 2

3 b p 欠失の有無によるCFおよび
非CF (N) 染色体の分布

		<u>CF 染色体</u>	<u>N 染色体</u>
a.	欠失無	69	198
	欠失有	145	0
	計	214	198
b.			
		<u>3bp欠失有</u>	<u>欠失無</u>
CF-PI	62	24	
CF-PS	5	9	
未分類	78	16	
計	145 (68%)	69 (32%)	

CF-PI (腓不全) およびCF-PS (腓良好) 染色体のデータは、我々の連結解析で使用したCF家族から誘導した。これらの家族は、当初PIまたはPSの知識もなく選択された;その後同定されたCF-PSの15家族は、この計算の一部には入れなかった。未分類のCF染色体は、トロント小児病院のDNA診断室 (DNA Diagnosis Laboratory at the Hospital for Sick Children) から得られ、それらについての腓機能データは入手できなかった。一般患者群のCF染色体の68% (145/214) は、F508欠失を有していた(表2)。対照的に、N染色体では、この欠失を有するものは皆無であり(0/198)(表2; $\chi^2 = 207$, $p < 10^{-57.5}$)、この配列変化がCFに特異的であることおよびそれが本疾患を起こす主な変異であること

を示唆していた。F508欠失とCFとの間に全く組換えは検出されなかった。配列の他の差異は、正常(T16-4.5)およびCF(C1-1/5)cDNAクローン類との間で見られた。T16-4.5は、塩基位置2629で1個のCを示し、C1-1/5は1個のTを示し、その結果、アミノ酸レベルでロイシン(Leu)からフェニルアラニン(Phe)への変化を起している。-4545で、塩基はT16-4.5でGであるが、C1-1/5ではAであった(ValからMet)。これらの知見は、配列多形性を表すと確信される。患者/家族DNAの特異的オリゴヌクレオチドハイブリダイゼーション解析によって、これらが他の変異可能性として同定されるであろう。さらに、ヌクレオチドにおける差異が、異なるcDNAクローン類とゲノムDNA配列との間の3'未翻訳領域で観察された。配列の

このような差異および認識された他の配列修飾が可能である；たとえば、この差異が正常配列多形性およびクロニングアーティファクトによるものであり、このような差異の全てがその機能およびその商業的適用の観点からして図1に記載のような配列に基本的に等価である。さらに遺伝的および物理的マッピングデータは、染色体上の小セグメントのDNAを中心とする分子クローニング研究に向けられた。CFにおける染色体欠失および再配列（の知識が）が欠けているためおよびCF遺伝子産物のための十分に開発された機能的アッセイがないために、CF遺伝子の同定では、座そのものの詳細な特性解析およびCFおよび正常（N）対立遺伝子間の比較を必要とした。ランダム（遺伝的に浮動性）で表現型では正常な者は、この群において無症状のキャリアが高頻度であることから前記の比較の対照には入れなかった。その結果、それぞれが1個のNおよび1個のCF染色体を有すると定義されているCF患者の両親のみが、本解析に適していた。さらに、CFおよび近接連結DNAマーカーの一部の間で観察された強い対立遺伝子関連の故に、NおよびCFの間に検出された配列差異が本疾

患座に関連する多形性である可能性を除外することが必要になった。

3.3 RFLP類および家族研究の同定

染色体歩行およびジャンピング実験から単離されたDNAセグメント類のそれぞれのCFとの関係を決定するため、制限断片長多形性（RFLP類）を同定しかつCFと他の隣接DNAマーカーとの間に交雑事象が過去に観察されている家族を研究するために用いた。図14に示したように、総計18種のRFLP類が500kb領域に検出された；それらの内の17（E6からCE1.0まで）を表3に列挙した；それらの一部は、先に報告されたマーカー類に対応していた。RFLP類の5つが、すなわち、10-1X.6, T6/20, H1.3およびCE1.0が、推定CF遺伝子から誘導したcDNAおよびゲノムDNAプローブ類で同定された。このRFLPデータは表3に示してあり、METおよびD7S8領域中のマーカー類も比較のために示してある。これらのマーカー間の物理的距離ならびにD7S8に対する関連を図14に示した。

表 3 C F 遺伝子型 R F L P 類

マーカー	消化酵素	消化時間 (分)	N1/L	SE-D1/L	N1/D1	±IC1	参考文献
nestD	BamI	7.4 (kb)	28	48	0.60	0.10	J. E. Spence et al, <i>Am. J. Hum. Genet.</i> 39:729 (1986)
			59	25			
nestD	TaqI	6.2	74	75	0.66	0.06	R. White et al, <i>Nature</i> 318:382 (1985)
			19	4			
nestH	TaqI	7.5	45	49	0.35	0.05	White et al, <i>Science</i>
			38	20			
E6	TaqI	4.4	58	62	0.45	0.06	B. Kerou et al, <i>Am. J. Hum. Genet.</i> 44:827 (1989)
			42	17			
E7	TaqI	3.9	40	16	0.47	0.07	
			51	57			

PH131	Hindi	0.4	81	33	0.73	0.15	J.M. Rommens et al, <i>Am. J. Hum. Genet.</i> 43:645 (1988)
W01.4	Hindi	0.3	18	47			
W01.4	Hindi	20	82	33	0.68	0.13	B. Kerem et al, <i>EMBO</i>
R2.3A	Taqi	10	22	47			
R2.3A	Taqi	2.1	39	53	0.64	0.09	X. Estivill et al, <i>Nature</i> 326:840 (1987); X. Estivill et al, <i>Genomics</i> 1:257 (1987)
(XZC)		1.4	37	11			
E1.4	Hindi	3.8	31	69	0.89	0.17	
E1.4		2.8	56	7			
E1.4	Bjli	20	27	69	0.89	0.18	
JG2E1	Pakl	15	62	9			
JG2E1	Pakl	7.8	69	10	0.88	0.18	X. Estivill et al <i>EMBO</i> and B. Kerem et al <i>EMBO</i>

(XDL9)	6.6	30	70		
E2.6/E.9	MapI	34	6	0.85	0.14
	8.5	26	55		
H2.8A	NcoI	25	55	0.87	0.18
	8	52	9		
E4.1	MapI	37	8	0.77	0.11
	12				G. Romeo, personal communication
(Mp609)	8.5+1.5	38	64		
J44	XbaI	40	70	0.86	0.13
	15+3	44	6		
10-IX.6	NcoI	67	15	0.90	0.24
	3.5+3	14	60		
10-IX.6	HaeIII	14	61	0.91	0.25
	.6	72	15		
T6/20	MapI	56	66	0.51	0.54
	4.3	21	8		
M1.3	NcoI	53	7	0.87	0.15
	1+1.4	35	69		

CEL.0	NsiI	5.5	81	73	0.41	0.03	
J12	SacI	4-7*0.8 15	8 21	3 24	0.17	0.02	M.C. Iannuzzi et al. <i>Am. J. Genet.</i> 44:695 (1989)
J3-11	HspI	6 4.2	47 36	38 38	0.29	0.04	B.J. Wainright et al. <i>Nature</i> 318:384 (1985)
J29	PvuII	1.8 9 6	62 26 55	36 36 36	0.36	0.06	M.C. Iannuzzi et al. <i>EMBO</i>

表3の注

(a) NおよびCF-PI (腓不全CF) 染色体の数は、関連解析に含めた家族の両親から誘導した [Tsuira, コールドスプリングハーバーシンポジウム (Cold Spring Harbor Symp.) クオンティタティブバイオロジー (Quant. Biol.) 51:325 (1986)]。

(b) N染色体中におけるDNAマーカー対立遺伝子分布の変動で余り影響を受けない標準化された関係(A)をここで用いて、ユール(Yule)の連関係数 $A = (ad - bc) / (ad + bc)$ (式中、a, b, cおよびdはN染色体の数であり、それぞれ、DNAマーカー対立遺伝子は1、CFは1、Nは2、CFは2である)を比較した。相対リスクは、関係 $RR = (1 + A) / (1 - A)$ またはその逆数を用いて計算できる。

(c) A. Chakravartiら、アメリカンジャーナル・オブ・ヒューマンジェネティクス (Am. J. Hum. Genet.) 36, 1239、(1984)によって本群におけるCF染色体の頻度を0.02

と想定し計算した対立遺伝子連関(*)は、比較のために含めてある。

本解析で利用できた組換え家族の数が研究したマーカー類とCFとの距離が近接していることから予測されたように少ないために、また、診断過失の可能性のために、さらにCF遺伝子の微細マッピングにおいて別の手法が必要であった。

3.4 対立遺伝子連関

対立遺伝子連関(連関非平衡)は、多くの近接連関DNAマーカー類について検出された。対立遺伝子連関の遺伝子距離測定における用途は不確かである一方で、CFと隣接DNAマーカー類との間で全体としての相関が観察された。CFによる強い関連が、より近接したDNAマーカー類、D7S8およびD7S122について注目され、一方、距離がより離れたマーカー類、MET、D7S8またはD7S24についてはほとんどまたは全く関連が検出されなかった(図1参照)。3にも示したように、DNAマーカー類とCFとの間の連関の程度は、(ユールの連関係数によって測定したように)metHについて0.35からおよびJ32について0.17から10-1X.6について0.91まで(CF-PI患者家族のみを本解析で使用。彼らが、CF-PSよりも遺伝的により均質であるように見えたので。)連関係数は、EG1.4からH1.3で300kbにわたってやや一定しているように見えた;数個の位置で検出された変動は、特にH2.3A、E4.1およびT6/20で最も顕著であったのは、おそらく、N染色体中における対立遺伝子分布の変動が原因であったのだろう(表2参照)。これらのデータは、したがって、組換え家族の研究からの結果と矛盾していなかった(図14参照)。同様に、CF染色体類に関連する伸長されたDNAマーカーハプロタイプ類を調べることによって、類似の結論に至った(下記参照)。しかし、EG1.4とH1.3の長い物理的距離にわたって検出された強い対立遺伝子連関も、CF遺伝子のより詳細なマッピングをさらに可能とすることはなかった。J44は染色体歩行およびジャンピングによってcDNAクローンが同定される前に単離された最後のゲノムDNAクローンであるので、前記のJG2E1-J44区間について検出された強い対立遺伝子連関によって、我々は、この全長にわたり候補遺伝子配列類を検索することになった。最大の対立遺伝子連関が、実際には、CFおよび10-1X.6によって検出された2個のRFLP類の間で主要CF変異近傍領域で検出された。表4は、CFに近接して連関するDNAマーカー類間の対になった対立遺伝子連関を示している。これらの計算で用いた平均染色体数は、75-80であり、CF-PI家族由来染色体のみをCF染色体を数える際に使用した。類似の結果が、ユールの標準化された連関(a)を使用したときに得られた)。

表3 N染色体

	meD	meH	E6	E7	pH131	D1.4	H2.3A	EG1.4	JG2E1	E2.8	H2.8	E4.1	J44	10-1X.6	T6.20	H1.3	CE1.0	J2	J3.11	J29		
meD	0.35	0.49	0.04	0.04	0.05	0.07	0.27	0.06	0.08	0.07	0.14	0.07	0.09	0.03	0.06	0.10	0.03	0.16	0.05	0.07	0.11	0.02
meH	0.21	0.41	0.13	0.15	0.02	0.01	0.02	0.09	0.15	0.11	0.07	0.24	0.03	0.11	0.08	0.02	0.06	0.13	0.15	0.09	0.09	0.05
E6	0.81	0.14	0.01	0.05	0.06	0.06	0.24	0.05	0.08	0.07	0.15	0.07	0.04	0.02	0.02	0.02	0.07	0.02	0.03	0.21	0.04	0.18
E7	0.11	0.30	0.09	0.09	0.07	0.06	0.04	0.02	0.03	0.00	0.19	0.02	0.09	0.19	0.09	0.11	0.09	0.15	0.07	0.11	0.20	0.00
pH131	0.16	0.31	0.02	1.00	0.11	0.09	0.03	0.03	0.04	0.01	0.11	0.00	0.07	0.22	0.01	0.02	0.09	0.13	0.06	0.06	0.16	0.04
D1.4	0.45	0.28	0.23	0.38	0.49	0.09	0.12	0.04	0.06	0.05	0.06	0.03	0.03	0.10	0.12	0.10	0.23	0.10	0.05	0.05	0.10	0.06
H2.3A	0.45	0.28	0.23	0.45	0.47	0.05	0.21	0.02	0.03	0.01	0.06	0.03	0.03	0.10	0.12	0.10	0.23	0.10	0.05	0.05	0.10	0.06
H2.8	0.20	0.11	0.15	0.06	0.11	0.36	0.47	0.06	0.11	0.07	0.42	0.14	0.29	0.07	0.27	0.22	0.20	0.09	0.23	0.04	0.08	0.12
E4.1	0.11	0.08	0.07	0.06	0.07	0.20	0.24	0.06	0.07	0.76	0.68	0.81	0.60	0.07	0.13	0.61	0.56	0.04	0.24	0.14	0.14	0.15
J44	0.03	0.06	0.07	0.06	0.07	0.27	0.40	1.00	0.02	0.77	0.59	0.71	0.55	0.08	0.07	0.56	0.55	0.12	0.28	0.24	0.24	0.20
JG2E1	0.07	0.08	0.09	0.09	0.08	0.30	0.36	0.45	0.03	0.94	0.84	1.00	0.76	0.64	0.11	0.11	0.61	0.57	0.13	0.31	0.26	0.22
E2.8	0.22	0.06	0.07	0.02	0.03	0.39	0.29	0.34	0.61	0.02	0.92	0.83	0.97	0.76	0.56	0.32	0.47	0.70	0.32	0.31	0.25	0.22
H2.8	0.05	0.07	0.01	0.08	0.08	0.31	0.45	0.02	0.30	1.00	0.92	0.74	0.65	0.19	0.18	0.60	0.58	0.10	0.20	0.28	0.28	0.18
E4.1	0.12	0.08	0.07	0.05	0.05	0.25	0.48	0.02	0.06	0.94	1.00	0.03	0.71	0.49	0.49	0.60	0.55	0.27	0.25	0.21	0.21	0.21
J44	0.18	0.05	0.06	0.01	0.01	0.26	0.26	0.45	0.71	0.89	0.80	0.80	0.80	0.85	0.33	0.40	0.65	0.64	0.32	0.24	0.22	0.23
10-1X.6	0.18	0.19	0.34	0.10	0.11	0.42	0.42	0.64	0.54	0.58	0.64	0.70	0.69	0.69	0.59	0.91	0.19	0.38	0.56	0.00	0.02	0.03
T6.20	0.18	0.10	0.25	0.08	0.11	0.41	0.41	0.65	0.64	0.70	0.64	0.70	0.69	0.69	1.00	0.18	0.43	0.62	0.02	0.02	0.02	0.08
H1.3	0.27	0.07	0.34	0.13	0.13	0.23	0.23	0.29	0.05	0.09	0.01	0.07	0.02	0.01	0.11	0.69	0.60	0.58	0.03	0.21	0.18	0.25
CE1.0	0.08	0.06	0.09	0.01	0.30	0.30	0.55	0.71	0.78	0.87	0.90	0.67	0.93	0.92	0.64	0.64	0.12	0.40	0.19	0.13	0.20	0.14
J2	0.08	0.04	0.02	0.11	0.11	0.25	0.25	0.08	0.09	0.59	0.55	0.43	0.55	0.37	0.44	0.24	0.24	0.07	0.40	0.19	0.20	0.14
J3.11	0.03	0.13	0.07	0.17	0.13	0.17	0.24	0.07	0.21	0.24	0.22	0.24	0.21	0.21	0.27	0.26	0.13	0.21	0.16	0.84	0.97	0.71
J29	0.14	0.11	0.15	0.07	0.06	0.05	0.12	0.11	0.10	0.13	0.18	0.19	0.15	0.20	0.28	0.29	0.24	0.14	0.07	0.81	0.71	0.71
J29	0.11	0.12	0.09	0.10	0.10	0.00	0.09	0.10	0.10	0.14	0.17	0.20	0.16	0.16	0.29	0.29	0.23	0.16	0.06	0.85	0.97	0.71

表4 CF

強い対立遺伝子連関は、また、CFおよびN染色体の両方で小群のRFLP類中でも検出された。表4に示したように、互いに物理的に近接しているDNAマーカー類は一般に互いに強い連関を有しているようであった。たとえば、強い（一部の場合では、ほとんど完全な）対立遺伝子連関は、隣接マーカー類E6およびE7の間、pH131およびW3D1.4の間、10-1X.6によって検出されかつEG1.4, JG2E1, E2.6 (E.9), E2.8およびE4.1中で検出されたAcc-およびHaeIII多形性部位類の間で検出された。METおよびD7S8領域中の遠位マーカー類の前記2群は、また、それ自体の間である程度の連関非平衡を示したが、それらは、E6からCE1.0までのマーカー類との連関をほとんど示さず、METとD7S8の遠い位置と矛盾していなかった。一方、物理的に近接しているDNAマーカー間に関連がないことは、組換えホ

ットスポットの存在を示唆するかも知れない。これらの潜在的ホットスポットの例として、E7およびpH131との間、H2.3Aの近傍、J44とプローブ類10-1X.6およびT6/20によって網羅される領域との間の領域が挙げられる（図14参照）。頻度の高い組換え切断点を含有するこれらの領域は、CF領域のための伸長ハプロタイプデータの以下の解析で有用であった。

3.5 ハプロタイプ解析

23個のDNAマーカー類に基づいた伸長ハプロタイプ類は、先に関連解析で使用した収集された家族中のCFおよびN染色体類について作製された。異なるハプロタイプの染色体間の組換えを想定して、観察されたCF染色体類のいくつかの系統を構築すること、および本疾患座の位置を予測することが可能であった。異なるCF変異の性質を理解するために有用な情報をさらに得るた

領域 1-		metD <u>BanI</u>	metD <u>TaqI</u>	meth <u>TaqI</u>
A =	1	1	1	1
B =	2	1	1	2
C =	1	1	1	2
D =	2	2	2	1
E =	1	2	2	-
F =	2	1	1	1
G =	2	2	2	2

領域 2-		E6 <u>TaqI</u>	E7 <u>TaqI</u>	pH131 <u>HinfI</u>	W3D1.4 <u>HindIII</u>
A =	1	2	2	2	2
B =	2	1	1	1	1
C =	1	2	2	1	1
D =	2	1	1	2	2
E =	2	2	2	2	1
F =	2	2	2	1	1
G =	1	2	2	1	2
H =	1	1	1	2	2

領域 3-		H2.3A <u>TaqI</u>
A =	1	
B =	2	

領域 4-		EG1.4 <u>HincII</u>	EG1.4 <u>BglI</u>	JG2E1 <u>PstI</u>
A =	1	1	2	
B =	2	2	1	
C =	2	2	2	
D =	1	1	1	
E =	1	2	1	

領域 5-	E2.6 <u>MspI</u>	E2.8 <u>NcoI</u>	E4.1 <u>MspI</u>
A =	2	1	2
B =	1	2	1
C =	2	2	2

領域 6-	J44 <u>XbaI</u>	10-1X.610-1X.6 <u>AccI</u> <u>HaeIII</u>
A =	1	2
B =	2	1
C =	1	1
D =	1	2
E =	2	2
F =	2	2

領域 7-	T6/20 <u>MspI</u>
A =	1
B =	2

領域 8-	H1.3 CE 1.0 <u>NcoI</u> <u>NdeI</u>
A =	2
B =	1
C =	1
D =	2

領域 9-	J32 <u>SacI</u>	J3.11 <u>MspI</u>	J29 <u>PvuII</u>
A =	1	1	1
B =	2	2	2
C =	2	1	2
D =	2	2	1
E =	2	1	1

CF-PS (F) = F508欠失を有するCF-PS患者からのCF染色体類；

CF-PI = CF-PI患者からの他のCF染色体類；

CF-PS = CF-PS患者からの他のCF染色体類；

N = キャリアー両親から誘導した正常染色体類。

ほとんどの組換えは領域1と2および領域8と9の間で起こることが明らかで、再度、これらの領域間の相対的に長い物理的距離と良好な一致を示していた。より頻度は低いが他の切断点も短距離区間に観察され、それらは、一般に、上記に示した対になった対立遺伝子関連研究によって同定されたホットスポットに対応していた。驚くべき結果として、このF508欠失が、最も頻度が高いCFハプロタイプであるI群とほとんど独占的に関連していたことが挙げられ、この欠失がCFにおける主要な変異を構成しているという見解を裏付けている。さらに重要であることとして、このCF染色体の89% (62/70) で検出され、AAハプロタイプ (前記2個の領域6と7に対応している) が前記欠失に隣接しているが、同一群内部で14N染色体類中で全く見られなかった ($\chi^2 = 47.3$, $p < 10^{-4}$) ことである。このF508欠失は、したがって、I群のハプロタイプのコアに関連した共通の配列多形性ではなかった (表5参照)。F508欠失のための特異的オリゴヌクレオチドプローブによって検出されたCF染色体類のひとつは、異なるハプロタイプ群 (III群) に属していることが判明した。同一群の他の9個のCF染色体または17N染色体類のいずれもこのプローブにハイブリダイズしな

(b) 各群で数えた染色体の数：

CF-PI (F) = F508欠失を有するCF-PI患者からのCF染色体類；

かった。この特異的ハイブリダイゼーション結果は、この染色体に含まれる変異がF508に類似していることを示唆している。組換えまたは遺伝子変換はI群以外のハプロタイプ上における欠失の存在を説明できるメカニズムではあるが、これらの2種のIII群染色体類が再発変異事象、すなわち、βグロビン座におけるβ^Sおよびβ^E変異に類似の状況を表わす可能性が高い。これとともに、前記のオリゴヌクレオチドハイブリダイゼーション研究の結果およびハプロタイプ解析は、本文に述べた遺伝子座がCF遺伝子であること、および前記の3bp (F508) 欠失がCFにおける最も一般的な変異であるという事実を裏付ける。

3.6 他のCF変異

F508欠失の1個の共通及び1個の稀なCFハプロタイプとの連関によって、本患者群に関与している可能性のある変異事象の数についての洞察がさらに得られた。広範囲のハプロタイプデータに基づき、F508欠失が起こっている2個の元来の染色体類が、表5にも示したように、ハプロタイプ-AAAAAAAA-(Ia群)、および-CBAACBA-(IIIIa群)を有しているらしい。この欠失を有している他のI群CF染色体は、おそらく、当初の染色体から誘導した組換え産物類であろう。もし各ハプロタイプ群中のこのCF染色体類が同一起源から誘導されると見なされるならば、3-4個の付加の変異事象しか予測されないであろう(表5参照)。しかし、同一群内のCF染色体類の多くは互いに顕著に異なっているので、各群をさらに細かく群別することが可能である。その結果、より多くの独立した変異事象が考えられ、そして、本データは、少なくとも7個の付加的推定変異もまたCF-PI表現型に関与していることを示唆する(表4参照)。CF-PSサブグループを生む変異類は、おそらくさらに不均質であろう。7個の付加的CF-PI変異は、ハプロタイプ類:-CA

AAAAA-(Ib群)、-CABCAAD-(Ic群)、---BBBAC-(IIa群)、-CABBBAB-(Va群)によって表される。これらの各変異における分子欠損はまだ決定されていないが、これらの変異のいずれも、PCR/ハイブリダイゼーション実験で使用したオリゴヌクレオチド結合部位類に対応する領域に影響を及ぼさないことが明らかである。

3.7 臍良好

CF-PSは、食物消化のための臍外分泌機能が良好であるとして臨床的には定義される；しかし、残りの臍酵素活性の消化系におけるレベルは、患者毎に変化する。先のハプロタイプデータは、CF-PIおよびCF-PS患者が異なる変異対立遺伝子の故に存在することを示唆していた。CFにおける根本的生化学的欠損はまだ明らかとなっていないが、CF-PS患者におけるこの残りの臍酵素活性が変異CF遺伝子産物の活性を直接反映している可能性がある。したがって、穏和な(CF-PS)対立遺伝子によって付与された残りの外分泌機能は正常遺伝子産物のそれよりもはるかに低いが、ほとんどか全く機能を持たないより重篤な(CF-PI)変異のそれをしのぐ優性表現型を構成するのであろう。したがって、重篤対立遺伝子を2コピーしか有していない患者のみがCF-PIであり、かつ、1個または2個の穏和な対立遺伝子を有する患者はCF-PSであるのであろう。上記仮説を試験するため、F508欠失を有するCF患者の割合についての情報を利用することができた。重篤な変異は穏和な変異に対して劣性でかつCF対立遺伝子の患者群での分布がハーディー・ワインバーグ則(Hardy-Weinberg law)に従うと想定して、重篤対立遺伝子の頻度が0.62であり、穏和対立遺伝子(M)のそれは0.08であると推定できた(表6参照)。

表 6

CF-PIおよびCF-PS群解析

	対立遺伝子 (a)	予測頻度 (b)	観察値 (c)	期待値 (d)
臍不全 (PI)	FF	0.459	21	21.1
	FS	0.311	14	15.2
	SS	0.060	4	2.7
	Total	0.850	39	-
臍良好 (PS)	FM	0.106	15 ^(e)	14.8
	SM	0.038	6	6.2
	MM	0.006		
	Total	0.150	21	

(a) 対立遺伝子定義: F=前記の3bp欠失(アミノ酸508位におけるフェニルアラニン欠失); S=未解

析の重篤変異対立遺伝子; M=未解析穏和对立遺伝子。

(b) CF-PI変異表現型は、CF-PS変異表現型

に対して劣性であると想定して、3bp欠失を含むCF-P I変異対立遺伝子の頻度をCF臨床で観察されたCF-P I患者の割合から推定できた[Coreyら、ジャーナル・オブ・ペディアトリックス(*J. Pediatr.*) 115:274(1989)]、すなわち、 $(0.85) = 0.92$ 。観察された総CF群におけるFの対立遺伝子頻度は0.68(表3)である；Sの頻度は $0.92 - 0.68 = 0.24$ である；Mの頻度は $1 - 0.92 = 0.08$ である。各遺伝型の頻度を次に、ハーディー・ワインバーグ則(Hardy-Weinberg law)を用いて計算した。

(c) 各分類のCF-P IおよびCF-PS患者の数は、図15に示したオリゴヌクレオチドハイブリダイゼーションによって得られた。患者は、我々の連関解析で使用したCF家族由来であり、さらに、その他に以後の研究からの14CF-PS患者/家族があった。SMおよびMMは遺伝型または表現型では識別できないが、それらは、本解析でまとめた。

(d) 期待数は、各群内で標準化した後CF-P IおよびCF-PSについて計算した。適合の χ^2 は、0.86であり、d. f. = 3, $0.74 < p < 0.90$ である。

(e) この数値は、もしF508欠失が全CF染色体中でハーディー・ワインバーグ(Hardy-Weinberg)平衡にあるならば、期待されるよりも高い(観察値15対期待値9.6)($\chi^2 = 6.48$, d. f.

= 1, $p < 0.011$)。

CF-P I患者の大半はF508変異に対してホモ接合(F)であることが見いだされたので、この変異が重篤対立遺伝子のひとつに対応すると想定することが論理的であった。調べたCF群におけるFの観察頻度(0.68)を考慮し、残りの重篤対立遺伝子(S)の頻度を誘導できた。FF, SS, MM, FS, FMおよびSM患者の割合を次に計算した。SMおよびMMの各患者は表現型または遺伝型で識別できなかったため、それらを解析でまとめた。表6に示したように、全5群の患者の観察頻度は、この仮説から予測された通りであった。したがって、上記解析から、CF-P Iが2個の重篤対立遺伝子の存在によることおよびCF-PS患者が単一の重篤対立遺伝子かまたは2個の穏和な対立遺伝子のいずれかを有しているという我々の見解の強い裏付けが得られる。このモデルは、同様に、CF-P I群よりもCF-P IにおけるF508欠失の低い頻度および1コピーの欠失を有するCF-PS患者の過剰数を説明する。M対立遺伝子によって付与される予測優性表現型を考慮すれば、M対立遺伝子類を有する者を同定するために、CF-PS患者中におけるCF染色体を検討することが必要であった。表7に示したように、70の代表的CF-PS患者の内の5例が1コピーのF508欠失を有している；少なくとも5種の異なるハプロタイプのCF染色体と関連づけることができた。

表7 CF-PS患者およびMIを有する家族中におけるCF染色体のハプロタイプ

家族#	1	2	3	4	5	6	7	8	9	CF対立遺伝子
(a) CF-PS 個体										
	A	A	A	A	A	A	-	-	A	F (Group Ia)
	D	C	B	A	A	C	B	A	A	M (予測), Group IIIb)
	B	A	A	A	-	A	A	A	A	F (Group Ia)
	B	C	B	B	-	B	A	C	C	M (予測), Group IIA)
	A	B	-	A	A	A	A	A	E	F (Group Ia)
	A	C	-	A	A	A	A	A	A	M (予測), Group Ib)
	A	C	-	C	-	A	A	A	B	F (Group Ia)
	B	A	-	B	-	B	A	A/C	B	M (予測), Group IIA)
	D	A	A	A	A	A	A	A	B	F (Group Ia)
	F	C	B	A	A	C	B	C	A	M (予測), Group IV)
	C	C	A	B	B	B/C	A	C	A	M (予測), Group IIA)
	F	D	A	B	B	B/C	A	C	C	M (予測), Group IIA)
	B	C	A	B	C	C	A	C	A	M or S (予測), Group Vb)
	B	B	A	A	A	C	B	A	A	M (予測), Group IIIb)
(b) MIも有する家族										
	B	A	A	A	A	A	A	A	A	F (Group Ia)
	B	A	A	A	A	A	A	A	A	F (Group Ia)
	D	B	A	A	-	A	-	A	A	F (Group Ia)
	A	D	A	A	-	A	A	A	B	F (Group Ia)
	A	E	B	A	A	A	A	A	E	F (Group Ia)
	B	C	A	A	A	A	A	A	B	S (予測), Group Ib)
	A	A	-	A	A	A	A	A	C	F (Group Ia)
	A	A	-	A	A	A	A	A	B	F (Group Ia)
	B	B	-	A	A	A	-	A	B	F (Group Ia)
	B	A	-	A	A	A	A	A	B	F (Group Ia)
	A	A	A	A	A	A	A	A	B	F (Group Ia)
	A	A	A	A	A	A	A	A	B	F (Group Ia)

(a) ハプロタイプ定義は表5の場合と同様である。
 (b) 対立遺伝子の定義は表6の場合と同様である：F = F508欠失；S = 未解析重篤変異対立遺伝子；M = 未解析穏和変異対立遺伝子。
 これらの後者の観察から、CF-PS患者の大半が複合ヘテロ接合体であることの裏付けがさらに得られる。

4.0 CFTRタンパク質

図1のDNA配列に関して検討したように、重複しているcDNAクローン類の配列の解析から、分子量168,138ダルトンを有するアミノ酸1480個の未処理ポリペプチドが予測された。以下で説明するように、前記タンパク質における多形性の故に、このタンパク質

の分子量は、あるアミノ酸の置換または欠失の可能性のために変化することができる。この分子量は、また、炭水化物単位の付加で変化し、糖タンパク質を形成するであろう。また、前記細胞中の機能的タンパク質が、未処理ポリペプチドに類似であろうと考えられるが、細胞代謝の故に改変されるかもしれない。したがって、本発明は、分子量約170,000ダルトンおよび上皮細胞膜通過(トランスメンブレン)イオン伝導率活性を有することを特徴とする精製された正常CFTRポリペプチドを提供する。この正常CFTRポリペプチドは実質的に他のヒトタンパク質類を全く含んでおらず、上述のDNA配列によって図1の1態様によって、コードされる。

このようなポリペプチドは、正常CFTRポリペプチドの免疫または生物活性を示す。以下でも説明するが、このCFTRポリペプチドまたはその断片類は、化学または酵素ペプチド合成によって作製できるかまたは適当な培養細胞系で発現できる。本発明は、また、ヒト上皮細胞における嚢胞性線維症関連活性を特徴とする精製された変異CFTRポリペプチドを提供する。このような変異CFTRポリペプチドは、他のヒトタンパク質を実質的に含まないので、この変異DNA配列によってコードできる。

4.1 CFTRの構造

前記の予測タンパク質の最も特徴的な特性として、それぞれが膜を数回貫通することが可能な1組のアミノ酸残基類とその後に続く共通配列(ATP)結合折りたたみ(NBFs)に類似の配列で構成されている2種の繰り返し単位が存在していることが挙げられる(図11、12および16)。これらの特徴は、哺乳類多剤耐性P-糖タンパク質およびいくつかの他の膜関連タンパク質類のそれに極めて類似しており、したがって、前記予測されたCF遺伝子産物が膜を横切る物質類(イオン類)の運搬に関与しているらしいことおよびこの膜が膜タンパク質スーパーファミリーの一員であるらしいことを示唆している。図13は、予測CFTRタンパク質の概略モデルである。図13において、円柱は膜を貫通するらせんを示しており、斜線を入れた(hatched)球はNBF類を示している。この点を入れた球は、極性のR領域である。前記分子の各半分における6本の膜を貫通するらせんは、円柱として描かれている。内部の細胞質に対してNBF類は斜線入り球として示されており、スロットは、ヌクレオチドによる流入手段を示している。この2個の半部分を結合する大きい極性R領域は、点入り球によって表される。膜通過(トランスメンブレン)セグメント類内部およびR領域表面上の価電された各アミノ酸類は、電荷の符号を有する小円として描かれている。膜円柱に結合する内部および外部ループ類上およびNBF類の領域上における真の電荷は、白色正方形中に含まれている。プロテインキナーゼAまたはCによるリン酸化の部位類は、それぞれ、黒の三角形および白の三角形で示されている。K, R, H, DおよびEは、それぞれ、アミノ酸類であるリシン、アルギニン、ヒスチジン、アスパラギン酸およびグルタミン酸の標準的命名法である。CFTRタンパク質の予測された膜関連領域のそれぞれは、高度に疎水性でKyteおよびDoolittleのアルゴリズムおよびGarnierら(ジャーナル・オブ・モレキュラーバイオロジー(J. Mol. Biol.) 120, 97 (1978))のアルゴリズムに従って脂質2重層にまたがることが可能な6個のセグメント類から構成されている(図13)。この膜関連領域には、それぞれ、NBF類を含有する大きな親水性領域が続いている。他の公知のヌクレオチド結合タ

ンパク質類との配列整列に基づくと、CFTRにおける推定NBF類のそれぞれは、少なくとも残基150個からなる。CF患者の大半で検出された前記の3bp欠失は、CFTRの第1番目のNBFの最も高度に保存されたセグメント類2個の間に局在している。フェニルアラニン欠失を取り囲む領域といくつかの他のタンパク質類の対応する領域類間のアミノ酸配列同一性から、この領域が機能的に重要であることが示唆される(図16)。通常芳香族側鎖を有するものである疎水性アミノ酸1個が、CFTRタンパク質のF508に対応する位置のこれらのタンパク質類のほとんどに存在している。アミノ酸多形性がDNA多形性の結果として存在できることがわかる。図16は、CFTRの伸長されたNBF類の最も保存されたセグメント類3個の整列と他のタンパク質類の対応する領域類を示している。これらの3個のセグメント類は、CFTRのN末端半分の残基433-473, 488-513, および5432-584およびC末端半分の1219-1259, 1277-1302, および1340-1382から構成されている。厚く線を重ねたところは、類似性最大の領域類を示唆している。ギャップを導入しないで付加的な一般的相同性が見られる。NBF類のタンパク質の構造および配列保存における全体としての対称性にもかかわらず、予測されたCFTRタンパク質の2個の半分の間の配列相同性が中等度である。このことは図12に示されており、アミノ酸1-1480が各軸上に示されている。同一性斜線の片側の線は、内部類似性の位置を示している。したがって、4組の内部配列同一性が、Lawrenceら[C. B. Lawrence, D. A. Goldman, およびR. T. Hood, ブリテン・オブ・マシマティカルバイオロジー(Bull MathBio) 1.) 48, 569 (1986)]によって適用されたDayhoff点数表を用いて図12に示したように検出でき、これらの内の3つのみが、標準偏差の小さい方のしきい値設定値で明らかである。最も強い同一性は、NBF類のカルボキシル末端における配列類の間にある。配列した66個の残基中、27%が同一で、さらに11%が機能的に類似である。全体的に弱い相同性が、遺伝子複製仮説が提示されている(Grosら、セル(Cell) 47, 371, 1986, C. Chenら、セル(Cell) 47, 381, 1986, Gerlachら、ネイチャー(Nature)、324, 485, 1986, Grosら、モレキュラーセルバイオロジー(Mol. Cell. Biol.) 8, 2770, 1988) P-糖タンパク質中においてはるかに高度(>70%)であるのと対照的である。エクソントロン境界の相対的位置における保存の欠如は、CFTRのこのようなモデルに反するとして議論できる(図2)。CFTRのアミノ末端にシグナルペプチドは明らかに存在していないので、最初のトランスメンブラン

配列に先行する高度に電荷を帯びた親水性セグメントは、おそらく細胞質の方向を向いているであろう。2組の疎水性ヘリクスは膜を介して3つのトランスバースループを形成していると考えられ、トランスメンブランセグメント7と8との間の領域を除いて、タンパク質全体の配列のうち、外表面に出ている部分はほとんどないことが考えられる。Nグリコシル結合をできる可能性のある2つの部位は後の領域に含まれることに着目することが大切である。膜会合領域のそれぞれに上記のNBFが後続する。さらに、高度に電荷を帯びた細胞質ドメインは、予想されるCFTRポリペプチドの中央部に見出すことができ、このタンパク質の両半分を連結している。このドメインは、Rドメインと呼ばれ、単一の大きなエクソンによって機能的に限定される。なお、このエクソン中では、241個のアミノ酸のうち69個が、正および負の荷電を交互に繰り返すクラスター中に存在する極性残基である。さらに、プロテインキナーゼA (PKA) によるリン酸化に必要な10個のコンセンサス配列のうち9個、およびCFTRに見られるプロテインキナーゼC (PKC) に対して可能性のある基質領域の7つは、このエクソン中に位置している。

4.2 CFTRの機能

CFTRの性質は、他の膜会合タンパク質との比較から理解される(図16)。哺乳類のp-糖タンパク質との全体的構造類似性に加えて、CFTR中の2つの予想されるドメインのそれぞれは、大腸菌のヘモリシンの単ドメイン構造およびショウジョウバエの白色遺伝子産物に著しく類似している。これらのタンパク質は、ヘモリシン系の溶解ペプチドおよび眼の色素分子の輸送にそれぞれ関与している。大腸菌のビタミンB12輸送系、BtuD、および機能が未知の苔類のクロロプラスト遺伝子も、類似構造のモチーフを有している。さらに、CFTRタンパク質は、グラム陰性菌のペリプラズム溶解輸送系のいくつかと構造的類似性を共有している。なお、そのグラム陰性菌では、トランスメンブラン領域およびATP結合層が、第3の基質結合ポリペプチドと関連して機能する別々のタンパク質に含まれている。CFTR中のトランスメンブラン領域の全構造配列は、最近記載されたウシの脳のアデニレートシクラーゼ、ならびに数種のカチオンチャンネルタンパク質および数種のカチオントランスローケイションATPアーゼに類似している。この位相的分類は、6つのトランスメンブラン領域からなるが、その分類の機能的意義は推測の域を出ない。また、配列を同定する短い領域が、CFTRの想定トランスメンブラン領域と他の膜貫通タンパクとの間で検出されている。興味あることに、CFTRのカルボキシ末端から約50残基に位置する長さ18残基のアミノ酸配列、およびこれらの12位が同一のアフリカ・ツメガエルのrafセリン/スレオニンキナーゼ前癌遺伝子の配列も存在する。最後に、アミノ酸配列の同定(10/1

3保存残基)は、CFTRの高度に電荷を帯びたRドメイン内の親水性セグメント(701~713位)と、ラットの脳およびウナギの両者にみられるナトリウムチャンネルの最初のトランスメンブランループ直前の領域との間で着目されてきた。CFTRの電荷を帯びたRドメインは、位相的に極めて関連したP糖タンパクとの共有点はなく、2つのタンパク質間で241個のアミノ酸連結ペプチドに大きな相違は明らかでない。つまり、CFTRタンパク質の1次構造の特徴は、それが、CFで影響を受けた組織の上皮細胞におけるイオン輸送の調節と制御への関与に適した性質をもっていることである。2つの領域中で膜へ確実に結合することは、細胞膜の細胞質表面近くの3つの主要な細胞内ドメイン(ヌクレオチド結合層1および2ならびにRドメイン)を配置させるに役立つ。そこで、これらのドメインは、CFTRトランスメンブランセグメントまたは他の膜タンパク質によって形成されたチャンネルを通るイオンの移動を調節する。遺伝子データ、組織特異性、およびCFTRタンパク質の想定された性質の観点から、CFTRがCFに直接起因するとの結論が理に適ったものである。しかし、CFTRが上皮細胞の頂端膜のイオン伝導度の制御に関与するか否かは不明である。CFTRがイオンチャンネル自体として機能することが考えられる。図13に示すように、12個のトランスメンブラン領域のうち10個は、電荷を帯びた側鎖を有する1つ以上のアミノ酸、脳のナトリウムチャンネルに類似の特性、およびGABA受容体塩化物チャンネルのサブユニットを含む。そこで、電荷を帯びた残基は、サブユニットすなわち繰り返し単位ごとに6個の各膜会合ドメインうちの4個、および4個のうち3個に存在する。これらトランスメンブランセグメントの両親媒性によって、これら分子のチャンネル形成能が付与されると考えられる。また、CFTRは、イオンチャンネルではないこともあるが、イオンチャンネル活性の調節に役立つ。後者の仮定を支持する上で、脂質膜中の塩化物チャンネルを再構成し得る、気管および腎臓から得られた精製ポリペプチド[Landry et al, Science 224:1469 (1989)]のどれもが、分子量から判断した場合、CFTRとは考えられない。どちらの場合も、CFTR中にATP結合ドメインが存在することは、ATP加水分解が輸送機能に直接関与しかつ必要であることを示唆する。PKAおよびPKCに対する高密度リン酸化部位、ならびにRドメインにおける荷電残基のクラスターは、両者とも上記の活性の調節機能をはたす。NBF中におけるフェニルアラニン残基の欠失によって、ATPの適切な結合または立体配座の変化が起きなくなることがある。なお、これは一般的にはないことであるが、CF頂端塩化物の伝導回路のPKAまたはPKC媒介リン酸化による活性化に対する悲感受性となって認められる。この想定タンパク質は、いくつかのドメインを含

み、他成分分子系の一部として機能することが多い一群のタンパク質に属するので、CFTRは、活性の上皮組織機能またはイオン輸送に無関係の調節にも関与することがある。用手法で単離したCF遺伝子(cDNA)を用いれば、CFにおける基本的な生化学的欠陥を限定することができ、そして更に、一般的な上皮細胞のイオン輸送回路の調節を容易にすることができる。したがって、CFTRの想定構造とは無関係に得られた知識とともにこのタンパク質自体の研究からの知見によって、この疾病の改良された治療法の開発の基礎が得られる。こういった研究では後述のように、CFTRタンパク質に対する抗体がつけられてきた。

4.3 タンパク質の精製

CFTRタンパク質は、その配列から明らかにされたように、性質に基づいて選択された方法によって選択することができる。例えば、それが膜内在性タンパク質の際立った性質を有するために、それが高度に発現される上皮細胞の膜分画は、確立された方法 [J. E. Langride, et al, *Biochim. Biophys. Acts.* 751:318 (1938)] を用いて最初に分離される。これらの膜の周縁タンパク質は、高濃度の塩、高pHまたはジヨードサリチル酸リチウムなどのカオトロピック試薬を用いた抽出によって除去されたものである。次いで、CFTRタンパク質を含む内在性タンパク質のすべては、オクチルグルコシドなどの界面活性剤 (Landryら、上掲)、CHAPS [D. J. Beres, et al, *J. Biol. Chem.* 262:10613 (1987)]、または類似作用の他の化合物を用いて可溶化される。CFTRのヌクレオチド結合ドメインを利用するとともに、シバクロンブルー [S. T. Thompson et al, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 72:669 (1975)] を使って、CFTRタンパク質を結合させ、これを界面活性剤安定化混合物に存在する他の内在性タンパク質から除去する。CFTRが糖タンパクであるため、分別レクチンクロマトグラフィーによって更なる精製が可能である [Riordan et al, *J. Biol. Chem.* 254:1270 (1979)]。続いて、均質化のための最終的精製が、他の標準的な精製手法、例えば、イオン交換クロマトグラフィー、ゲル浸透クロマトグラフィー、吸着クロマトグラフィーまたは必要に応じて等電点電気泳動を用いて行われる。また、CFTRタンパク質 (もしくはその断片) に対する固定化抗体を用いた免疫アフィニティークロマトグラフィーまたはApplied Biosystems社の「230 HPEC System」のような新型装置を用いた調製用ポリアクリルアミドゲル電気泳動など単一の精製法も利用される。p-糖タンパク [Riordan et al, 上掲] の精製、すなわちヌクレオチド結合輸送・会合膜タンパク質による一般的方

法に基づけば、CFTRタンパク質の精製が容易になる。CFTRタンパク質が高度に発現する組織および細胞からの精製法に加えて、上記のようにCF遺伝子(cDNA)を含むベクターで感染させた細胞からCFTRを精製するために類似の手法が用いられる。cDNA配列の修飾型の発現から得られるタンパク質産物を類似の方法で精製する。このように提供されたタンパク質の相同性の範囲には、2次元ゲル電気泳動およびN末端アミノ酸分析などタンパク化学の領域で標準的なものが含まれる。この精製タンパク質は、その2次および3次構造の性質を決定するために用いられ、CFの突然変異型の適切な機能を促進する薬剤の設計に役立つ。タンパク療法で使用するための調製では、有毒と思われる夾雑物質が入らないことが重要である。このタンパク質の疎水性には、操作の全段階で界面活性剤やその他の物質 [V. J. Ambud Karand P. C. Maloney *J. Biol. Chem.* 261:10079 (1986)] などの両親媒性の化合物が含まれていることを必要とする。

5.0 CFのスクリーニング

5.1 DNA診断

ここに記載されたように、主要な突然変異型の知識があれば、キャリアーのスクリーニングおよび出産前の診断を以下のように実施することができる。嚢胞性線維症に対する高リスク集団は、白人である。生殖年齢に達した各白人の女性および/または男性は、彼らがキャリアーであるか否かを判定するためにスクリーニングされることになる (各個人に対して約5%の確率)。両人がキャリアーであれば、彼らは嚢胞性線維症の子供が生まれるリスクが高い夫婦である。リスクの高い夫婦の各子供が嚢胞性線維症にかかる率は25%である。プローブを用いてキャリアーの状態を判定する手法は以下に開示される。正常および突然変異型CF遺伝子のDNA配列に関する1つの大きな応用例は、遺伝子試験、キャリアー検出および出生前診断の領域にある。CF遺伝子の突然変異を有するキャリアー (疾病のキャリアーまたは患者) は、さまざまな手法を使用してDNAレベルで検出することができる。診断に使用されるベノムDNAは、抹消血、尿、唾液、組織生検試料、外科的試料および剖検物質中に存在する細胞など、体内の細胞から得ることもできる。そのDNAは、特異的配列の検出のために直接使用されることもあり、解析に先立ってPCR法 [Saiki et al, *Science* 230:1350-1353 (1985)、Saiki et al, *Nature* 324:163-166 (1986)] を用いてインビトロで酵素的に増幅されることも可能である。RNAまたはそのcDNA型は、同一の目的のために使用されることもある。このテーマに関する最近の総説は、カスキーの文献 [*Science* 236:1223-8: (1989)] およびランデグレンらの文献

[*Science* 242:229-237 (1989)] に提示されてきた。特異的DNAの検出は、特異的オリゴヌクレオチドを用いたハイブリダイゼーション [Wallace et al. *Cold Spring Harbour Symp. Quant. Biol.* 51:257-261 (1986)]、DNAの直接配列決定法 [Church and Gilbert, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 81:1991-1995 (1988)]、制限酵素の使用 [Flavell et al. *Cell* 15:25 (1978); Geever et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 78:5081 (1981)]、変成剤を用いたゲル中での電気泳動的移動度に基づく識別 [Myers and Maniatis, *Cold Spring Harbour Sym. Quant. Biol.* 51:275-284 (1986)]、RNアーゼの保護 [Myers, R. M., Larin, J., and T. Maniatis *Science* 230:1242 (1985)] 化学的開裂 [Cotton et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 85:4397-4401, (1985)] およびリガーゼ媒介型検出法 [Landegren et al. *Science* 241:1077 (1988)] などの方法によって行うこともできる。正常または突然変異型配列に特異的なオリゴヌクレオチドは、市販の機器を用いて化学的に合成され、同位体 (^{32}P など) で放射線標識または非放射線 (ビオチンなどのTaqつき) 標識され [Ward and Langer et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 78:6633-6657 (1981)]、およびドットブロットまたは電気泳動後のゲルからの転写による膜または固体支持体上で固定化された各DNA試料にハイブリダイズさせられる。これら特異的配列の有無は、オートラジオグラフィまたは蛍光反応 [Landegren et al. (1989)、上掲] もしくは呈色反応 [Gebeyehu et al. *Nucleic Acids Reseach* 15:4513-4534 (1987)] などの方法によって肉眼で観察される。このオリゴヌクレオチドスクリーニング法の実例は、ここに記載されるようなF508欠失の検出に応用されてきた。正常と突然変異型との間の配列の差異は、チャーチとギルバートのDNA直接配列決定法 (上掲) によって明らかにされることもある。クローン化DNAセグメントは、特異的DNAセグメントを検出するためにプローブとして使用することもできる。この方法の感受性は、PCR法と組み合わせた場合に大幅に高められる [Wrichnik et al. *Nucleic Acids Res.* 15:529542 (1987); Wong et al. *Nature* 330:384

-386 (1987); Stoflet et al. *Science* 239:491-494 (1988)]。後者の方法では、増幅配列中にある配列プライマーが、2本鎖PCR産物または修飾PCRによって生じる1本鎖型とともに使用される。配列の決定は、放射能標識ヌクレオチドを用いた従来の方法または蛍光Taqを用いた自動配列決定法によって行われる。配列の変更は、適当な酵素での消化の後に行われる従来のゲルブロットハイブリダイゼーション [Southern, J. *Mol. Biol.* 98:503 (1975)] の使用によって明らかにされる偶然的制限酵素認識部位を稀に生じ得る。この部位 (正常または突然変異) を有するDNA断片は、サイズの減少または対応する制限酵素断片数の増加によって検出される。ゲノムDNA試料は、適当な制限酵素を用いた処理に先立つPCRによって増幅されることもあり、異なったサイズの断片は、ゲル電気泳動後の臭化エチジウムの存在下UV光のもとで肉眼で観察される。DNA配列の差異に基づく遺伝的試験は、変成剤の有無にかかわらずゲル中でのDNA断片の電気泳動的移動度の変化を検出することによって行うことも可能である。小さい配列の欠失および挿入は、高解像度のゲル電気泳動によって肉眼で観察することができる。例えば、3bpの欠失を有するPCR産物は、変成剤を含有しない8%のポリアクリルアミドゲル上で正常な配列から明らかに区別される。異なった配列組成物のDNA断片は、異なったDNA断片の移動度が比「部分的溶解」温度に従ったさまざまな位置でゲル中での遅れが生じる変成ホルムアミド勾配ゲル上での区別が可能である (Myers、上掲)。さらに、配列の変更、特に小さな欠失は、3bp (F580) 突然変異および他の実験系で検出されるように、非変成ゲル電気泳動におけるDNAヘテロ2本鎖の移動パターンの変化として検出されることもある [Nagamine et al. *Am. J. Hum. Genet.* 45:337-339 (1989)]。また、単一塩基の置換または他の小変化は、PCRにおける識別プライマーの長さに基づくこともあり得る。例えば、1つの不変プライマーは、突然変異に特異的なプライマーに添加して使用可能である。次いで、正常および突然変異型遺伝子のPCR産物が、アクリルアミドゲル中で別個に検出され得る。特定部位での配列の変化は、RNアーゼの保護 [Myers、上掲]、S1保護 [Berk, A. J., and P. A. Sharpe, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 75:1274 (1978)]、化学的開裂法 [Cotton、上掲] およびリガーゼ媒介型検出法 [Landegren、上掲] などの方法によって解明し得る。従来のゲル電気泳動およびブロットハイブリダイゼーション法に加えて、DNA断片は、個々のDNA試料が膜に固定化されない方法によっても肉眼で観察し得る。このプローブおよび標的配列は双方とも溶液

中に存在することがあり、またはそのプローブ配列が固定化されていることもある [Saiki et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 86:6230-6234 (1989)]. 放射性同位体が関与するオートラジオグラフィ、放射能崩壊の直接検出 (シンチラントの有無にかかわらず)、呈色反応が関与する分光光度法、および蛍光反応が関与する蛍光分析法など、さまざまな方法を使用して特定個人の遺伝子型を同定することもできる。1カ所を超える突然変異がCF遺伝子中に生じていることが予想されるので、マルチプルシステムは、CFキャリアーのスクリーニングおよび特定の突然変異型検出のための理想的なプロトコールである。例えば、複数の特異的オリゴヌクレオチドプライマーおよびハイブリダイゼーションプローブを使用して、起こり得るすべての突然変異を同時に同定することもできる [Chamberlain et al., Nucleic Acids Research 16:1141-1155 (1988)]. この方法には、固定化された配列特異的オリゴヌクレオチドプローブ [Saiki et al. 上掲] が含まれることもある。

5.2 主要な突然変異型の検出

これらの検出法は、羊水細胞および絨毛膜絨毛生検によるか、母体の循環血液から死細胞を分けることによって、出生前の診断に応用することもできる。集団中のCFキャリアーの試験は、共通の疾病に関する大規模な遺伝的試験計画に重要な一環として取り入れることもできる。次いで、この発明の一実施態様によれば、この実施態様に基づく突然変異などの突然変異を検知するDNAセグメント部分、すなわち、F508の欠失の近傍にある部分は、標準的なPCR法 [Science 242:229-237 (1988)] に記された、Landegren, Ulf, Robert Kaiser, C. Thomas Caskey, and Leroy Hoodの総説「DNA診断—分子的手法および自動化」]。使用されるDNAセグメント部分は、単一のDNAセグメントまたは異なったDNAセグメントの混合物であってもよいことが示唆される。この方法の詳細な記載は以下の通りである。ヒトまたは胎児からのゲノムDNAの特定領域がスクリーニングの対象となる。こういった特定領域は、オリゴヌクレオチドプライマーC16B (5' GTTTTCCTGGATTATGCCTGGGCAC3') およびC16D (5' GTTGGCATGCTTTGATTGACGCTTC3') によって限定される。この特定領域は、ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) によって増幅される。CF患者および彼らの親の培養リンパ芽球または抹消血試料から得られた200~400ngのゲノムDNAを、上記のオリゴヌクレオチドプライマーを用いた各PCRで使用した。このオリゴヌクレオチドは、販売元が進める方法に従って、Oligonucleotide Purificati

on Cartridges™ (Applied Biosystems社) またはNENSORB™ PREPカラム (Dupont社) を用いて精製した。このプライマーを62°Cで45秒間アニーリングし、72°Cで120秒 (TaqDNAポリメラーゼ2単位を用いて) かけて伸長させて、Step-Cycleプログラム (1.5分で変換セッティング) を用いたPerkin-Elmer/Cetus自動サーモサイクラー中で28サイクルと7分間の最終サイクルに94°Cで60秒間かけて変成させた。PCR産物の部分を1.4%アガロースゲルの電気泳動によって分離し、標準法に従ってZetabind™ (Biorad社) 膜に転写した。50mM Tris-HCl (pH7.6)、10mM MgCl₂、0.5mMジチオスレイトール、10mM スペルミジン、1mM EDTAおよび30~40μCiのγ[³²P]ATPを含む10μlの反応液に溶けた10単位のT4ポリヌクレオチドキナーゼ (Pharmacia社) で、図15 (各10ng) の2つのオリゴヌクレオチドプローブを別々に37°Cで20~30分間かけて標識した。取り込まれなかった放射能ヌクレオチドを、使用前にSephadex G-25のカラムで除去した。ハイブリダイゼーション条件は、温度を37°Cとした以外は前記 [J. M. Rommets et al. Am. J. Hum. Genet. 43, 645 (1988)] と同様であった。膜は、5×SSCを用いて室温で2回洗浄し、2×SSCを用いて39°Cで2回洗浄した (1×SSC=150mM NaClおよび15mMクエン酸ナトリウム)。オートラジオグラフィを室温で一晩実施した。オートラジオグラフィは、図15に示したように、2つの特異的オリゴヌクレオチドプローブを用いたゲノムDNAのハイブリダイゼーション結果を示す。プローブCは、正常なDNA配列を検出し、プローブFは突然変異型配列を検出する。家族の一人一人から得られたゲノムDNA試料をポリメラーゼ連鎖反応によって増幅させ、産物を1.4%アガロースゲルの電気泳動によって分離してから標準法に従ってZetabind (Biorad社) 膜に転写した。水盲検およびプラスミドDNA、T16およびC16 [それぞれ正常配列 (N) およびF508欠失 (CF) に相当する] を対照として含めた。また、3bpの欠失はポリアクリルアミドゲル電気泳動によって見出された。上記のC16BおよびC16Dプライマーによって生じたPCRを、90mMホウ酸緩衝液 (pH8.3) 中にて20V/cmで2時間8%ポリアクリルアミドゲルにかけたとき、3bpの欠失をとみなわない個人、欠失に対してヘテロ型またはホモ型の個人を明確に検出し得た。さらに、エキストラDNAバンドは、正常DNA鎖と突然変異DNA鎖との間のヘテロ2本鎖であるが、ヘテロ接合体に着目した。また、PCR中に形成されたヘテロ2本鎖のゲル移動度における類似の変更が、小さな欠失が

関与する実験系で報告されている(Nagamine et al. 上掲)。これら移動度のシフトは、非放射性遺伝的スクリーニング試験の基礎として使用されることもある。

5.3 CFのスクリーニング法

キャリアーの70%だけが、この発明におけるこの特別な実施態様の特異的F508プローブを用いて検出可能であることが認識される。したがって、F508プローブを使って試験された個人がキャリアーでなければ、キャリアーの状態を除くことはできず、彼らに前記のような他の突然変異が生じている可能性がある。しかし、試験された個人とその配偶者の双方がF508突然変異のキャリアーであれば、彼らが高リスクの夫婦となることは当然である。ここに開示したような遺伝子配列は、その他の突然変異型を判定するための基本的な必要条件である。出生前の診断は、キャリアースクリーニングの論理的な延長線にある。2通りのうちのいずれかで、夫妻が嚢胞性線維症の子供をもつリスクがあると見られる。彼らが嚢胞性線維症の子供1人をすでにもっているならば、この夫妻はどちらかが、定義によって嚢胞性線維症のキャリアーとみられ、その後から生まれる子供がこの疾患にかかる率は25%である。この発明の主要な利点は、家系分析を必要としない点であり、この発明によれば、上記のような遺伝子突然変異スクリーニング法または他の類似の方法を用いて、機能の変化したタンパク質の産生につながる遺伝的突然変異を同定することができる。これは、疾病の子供から前の家系を確認することにはつながらない。上記のように、胎児のDNA試料、例えば羊水細胞および絨毛膜絨毛検体を得ることができる。次いで、標準的なPCR法による増幅を、この鋳型DNA上で行うことができる。両親がF508欠失をもつキャリアーであることが分かれば、結果の解釈は以下のようなものとなる。正常(図15に示すような非欠失)プローブに対して胎児のDNAがハイブリダイズすれば、この胎児は嚢胞性線維症にかからないであろうが、CFキャリアーである可能性はある(リスクの高い夫婦の1人の胎児に対する確率は50%)。この胎児のDNAがF508欠失プローブとのみハイブリダイズし、正常プローブ(図15に示したように)とはハイブリダイズしなければ、この胎児は嚢胞性線維症に罹患するであろう。CF遺伝子におけるこれらの突然変異について、さまざまな一連の特異的方法を用いて、すべての潜在的CFキャリアーまたは患者に対する完全な診断を行うことができる。3種類の方法を後で十分に記載する。したがって、被験者がCFキャリアーまたはCF患者であれば、この発明によって測定方法および測定用キットが提供される。すなわち、このスクリーニング法は、スクリーニング対象となる被験者の生体試料を提供する工程、ならびにその生体試料中に、正常なCF遺伝子、正常なCF遺伝子産物、突然変異CF遺伝子、突然

変異CF遺伝子産物およびそれらの混合物からなる群より選ばれた少なくとも1つの要素の有無を検出する方法を提供する工程を含む。この方法は、例えば図1のDNAにおける異なったDNA断片、またはヒトの第7染色体の異なったDNA配列断片であり、図1のDNA配列のどちらかの側に位置する少なくとも1つ以上のヌクレオチドプローブを含むことによってもさらに特徴づけることができる。この発明の一実施態様に従って、スクリーニング法での使用に適し、免疫検定法によってCF遺伝子の有無をスクリーニングするためのキットは、以下からなる。

(a) CF遺伝子の遺伝子産物に特異的に結合する抗体、(b) その遺伝子産物に対する抗体への結合を検出する試薬、ならびに(c) その抗体および試薬が、その免疫検定法を実施するに有効量存在する。CF遺伝子の存在を検出するためのキットはまた、ハイブリダイゼーション法によっても提供され得る。このキットは、以下からなる。

(a) CF遺伝子に特異的に結合するオリゴヌクレオチドプローブ、(b) CF遺伝子に対するオリゴヌクレオチドのハイブリダイゼーションを検出する試薬、ならびに(c) このプローブおよび試薬が、そのハイブリダイゼーション法を実施するに有効量存在する。

5.4 CFTRを検定する抗体

上記のように、CFTRタンパク質内のエピトープに対する抗体は、このタンパク質の性質に関する徹底的な知見および他の有意義な知見を提供するために作成される。後者の知見は以下からなる。

1. タンパク質が免疫プロット法(ウエスタン法)、その後のポリアクリルアミドゲル電気泳動によって発現される、細胞および組織中のタンパク質の肉眼での観察を可能とすること。これによって、例えば、オリゴサッカリド鎖およびフォスフェート基などの翻訳後の修飾部分をもった細胞からの影響を含む成熟タンパク質の分子量サイズの推定がなされる。免疫蛍光法および免疫電子顕微鏡法を含む免疫細胞化学的手法を利用でき、細胞膜のタンパク質の細胞質中の局在が確立される。この抗体を利用して、サイズが変化したタンパクの合成を生じる他のいかなるCF突然変異型を検出する上でもう一つの手法を提供することができる。

2. このタンパク質の別のドメインに対する抗体を利用して、細胞膜中でのタンパク質の位相的配列を解明することができる。これによって、薬物療法のための外から投与された調節剤に許容的であるタンパク質のセグメントに関する情報が得られる。

3. このタンパク質のさまざまな部分の構造と機能との関係は、特異的抗体を用いて調べることができる。例えば、細胞中に、トランスメンブラン配列ならびにヌクレオチド結合層の部分およびRドメインを連結させる荷電した各細胞質ループを認識する抗体を導入することがで

きる。タンパク質の機能的パラメータへのこれら抗体の影響を考慮すると、細胞の調節機構の洞察が得られ、CF患者における欠陥タンパク質の活性を調節する手段が示唆される。

4. 適当な結合能を有する抗体は、そのタンパク質の免疫沈降および免疫親和的精製を可能とする。免疫沈降から、合成ならびにATP結合およびリン酸化を含む翻訳後修飾の特徴が容易に解明される。精製は、タンパク質の構造の研究およびその機能の研究に必要であって、タンパク質療法にも必要である。

抗体を調製するために、適切なクローニングベクター中で相当するDNA配列を発現させることによって、CFTRポリペプチドの限定部分を含む融合タンパク質を合成し、一方小さなペプチドを表8に記載された通り化学的に合成した。この融合タンパク質を、例えば、グルタチオン-Aガロースのアフィニティークロマトグラフィーによって精製して、このペプチドをキャリアタンパク質(ヘモシアニン)に結合させ、フロインドアジュバントと混合して、ウサギに注射した。2週間間隔でのブースター注射に続いて、ウサギを放血させて血清を分離した。染色された融合タンパク質を図19aに示す。レーン1は非誘導の対照プラスミド、レーン2はグルタチオン-S-トランスフェラーゼ(GST)を発現するIPTG誘導の対照プラスミド、レーン3はアフィニティー精製した27キログルトン(kD)のGSTバンド、レーン4は非誘導プラスミド、レーン5は誘導プラスミドであり、レーン6は表8の精製された融合タンパク質#1である。図19では、表8(レーン1および2)の融合タンパク質#5ならびに表8(レーン3および4)の融合タンパク質#2を含むpGETプラスミドで形質転換された細菌からの溶解物のゲル電気泳動を示す。図19bのレーン1は非誘導プラスミドに関するものであるが、レーン2は融合タンパク質#5を発現させる誘導プラスミドに関するものである。図19bのレーン3は非誘導プラスミドに関するものであるが、レーン2は融合タンパク質#2を発現させる誘導プラスミドに関するものである。2匹の異なるウサギの2回目の放血から得られた抗血清でプローブした融合タンパク質#1のイムノブロットを図20に示す。染色は、アルカリフォスファターゼ結合第2抗体を用いて行う[Blake et al. Anal. Biochem. 136:175(1984)]。これら免疫染色の両者は、32kDの融合タンパク質を染色するが、プレ免疫血清は染色しない。図21は、CFTR転写物を高レベルで発現させるT84コロニー癌細胞から分離された、膜中のサイズが約200kDのバンドに対するこれら免疫血清のうちの1つとの反応性を示す。このバンドは、翻訳後修飾前の想定分子量169kDを有するCFTRタンパク質で期待し得るサイズ領域にある。ペプチド#2のLKH複合体で免疫したウサギからの血清を、図22で示されるよ

うに純粋なペプチドとKLHの両者に対してスクリーニングした。この図では、Hはヘモシアニンを、P1はペプチド#1を、P2はペプチド#2を示す。ngでドットされたタンパク質またはペプチドの量を示す。この抗血清は、そのペプチドを1ng程度の少量まで検出し、対照タンパク質#1とは全く反応しない。したがって、CFTRタンパク質の部分および配列の短いセグメントに相当するペプチドを含む両融合タンパク質に特異的なポリクローナル抗体を作成することが可能である。同様に、マウスに表8のペプチド1、2および7のKLH複合体を注射し、CFTRタンパク質のこれらのセグメントに対するモノクローナル抗体を産生させることができる。モノクローナル抗体は、同様にCFTRタンパク質の他のドメインに対しても作成することができる。ポリクローナル抗体の産生に関して、CFTRタンパク質に対するモノクローナル抗体(mAbs)作成用の免疫原は、CFTRポリペプチドの部分または配列の短い(アミノ酸12ないし25個の長さ)セグメントに相当する合成ペプチドを含む細菌の融合タンパク質[Smith et al. Gene 67:31(1988)]。基本的な方法論は、コーラーとミルシュタインのもの[Naure 25:495(1975)]である。BALB/cマウスを、不完全フロインドアジュバントに溶けた純粋な融合タンパク質または合成ペプチド500μgの腹腔内注射によって免疫する。2回目の注射は14日後に行い、21日後に3回目、そして28日後に4回目の注射を行う。こうして免疫した各動物を、最終の注射から1、2および4週後に解剖する。脾臓を摘出し、その細胞をばらしてから回収し、文献[Gefter et al. Somatic Cell Genetics 3:231(1977)]に従ってSp2/O-Ag14黒色腫細胞と融合させた。この融合混合物を融合細胞の増殖用培地に播種し、融合細胞を、それらが約25%コンフルエンスに達するまで増殖させる。同時に、培養上清に対して、特定のCFTR抗原と反応する抗体の存在を調べる試験を行う。次いで、アルカリホスファターゼ標識抗マウス第2抗体を使って陽性のものを検出する。さらに、陽性の培養穴からの細胞を培地中で増殖させ、更なる試験のために上清を回収し、細胞は凍結保護剤含有培地中で凍結させた。大量のmAbを得るために、産生細胞を動物あたり細胞濃度 5×10^6 で腹腔に注射し、腹水を得る。精製は、文献[Ey et al. Immunochimistry 15:429(1977)]に従ってプロテインGおよびプロテインAアガロースのクロマトグラフィーによって行う。CFTRタンパク質とこれらmAbの反応性は、CFTRタンパク質が発現される上皮細胞から分離された膜のポリアクリルアミドゲル電気泳動、およびイムノブロット[Towbin et al. Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 76:4350(197

9)] によって確認される。CFTRタンパク質の異なった各ドメインに特異的なモノクローナル抗体の使用してそれら個々の機能を調べることに加えて、その他のmAbは、CFTRタンパク質の正常と突然変異型との間の識別することが可能だが、鼻粘膜の生検検体「ブルッシュリング (brushings) 」 [R. DeLough and J. Rutland, *J. Clin. Pathol.*, 42, 613 (1989)] または汗腺を含む皮膚の生検検体など、患者から得られた上皮細胞試料中の突然変異タンパク質を検出するために用いられる。この識別可能な抗体は、アミノ酸位508 (例えば、GTIKENIIFGVSY) にフェニルアラニンを含むペプチドまたはF508を欠く以外同一のペプチド (GTIKENIIGVSY) で免疫化した何組かの対のマウスからのハイブリドーマを識別的にスクリーニングすることによって得られる。F508欠失が加わったかまたはそれを欠いた患者に存在するCFTRタンパク質の他の突然変異型を認識し得るmAbは、類似のモノクローナル抗体産生法を使って得られる。CFTRタンパク質およびそのセグメントの正常およびCF型に対する抗体は、免疫細胞化学および免疫蛍光光学顕微鏡

法ならびに免疫電子顕微鏡法による診断に使用され、CF患者、CFキャリアーおよび非CFキャリアーの人の器官内におけるCFTRの細胞および細胞下分布が示される。CF患者およびCF患者の細胞におけるCFTRタンパク質の活性を促進させることによって、治療面で調節を行うのに抗体が用いられる。こういった調節様式には、多価抗体とCFTRタンパク質分子との架橋による刺激、ならびにインシュリン受容体 [O'Brien et al. *J. Biol. Chem.*, 258:846 (1983)]、上皮成長因子受容体 [Schreiber et al. *J. Biol. Chem.*, 258:846 (1983)] などの種々の細胞表面の膜受容体、およびCD4 [Veillette et al. *Nature*, 338:257 (1987)] などのT細胞受容体関連分子の刺激が関与する。CFにおいて欠陥CFTRタンパク質を発現する細胞への治療薬の運搬を規定するために抗体が用いられる。この目的には、抗体は、薬剤などの治療薬または正常遺伝子を運ぶリポソーム [Matthay et al. *Cancer Res.*, 46:4904 (1986)] などのビークルに取り込まれる。

表 8

抗体作成に使用されたCFTR断片

CFTR残基を含む	図13における
GAS ^a 融合タンパク質	CFTRドメイン
1. 204-249	TM3、Ext.2、TMA
2. 347-698	NBF-1、N末端1/2Rドメイン
3. 710-757	負電荷のRドメイン中央部
4. 758-796	正電荷のRドメインセグメント
5. 1188-1480	NBF-2をもつC末端ドメイン
CFTRペプチドを含む	
KLH ^b 複合体	
1. 28-45	細胞質のN末端
2. 58-75	細胞質のN末端
3. 104-117	1番目の細胞外
4. 139-153	2番目の細胞質
5. 279-294	3番目の細胞質のN末端
6. 500-512	NBF-1; F508欠失近傍
7. 725-739	荷電したRドメインの中央部
8. 933-946	5番目の細胞質
9. 1066-1084	6番目の細胞質

a文献 [Smith et al. Gene 67:31 (1988)] で確認されたように、pGEXプラスミド発現ベクター中で、日本住血吸虫 (*Schistosoma japonicum*) のグルタチオンS-トランスフェラーゼの3'末端に連結したこれら断片をコードする制限酵素切断断片。

b文献 [Green et al. Cell 28:477 (1982)] に従って、キャリアータンパク質のキーホール・リンペットのヘモシアニン (KLH) にN末端システインを介して結合したペプチド。TMはトランスメンブタン配列を示す。

5.5 RFLP分析

この発明は、ただちに実際的用途が見い出されるCF遺伝子の発見および特徴決定から直接由来する多くの利点を提供する。CFTRのアミノ酸配列から、CFTRが関与し、嚢胞性線維症で欠陥を提示する分子的機構と同様に、このタンパク質の構造および機能の洞察が可能で

ある。この知見によれば、この疾病に対する研究および治療において、いっそうの手段および概念の形成される。この発明の用途のうちには、キャリアーの検出、DNA診断、家系図調査などが挙げられる。従来のDNAを基準とする遺伝的試験は、疾病のある子供をもった家族およびその近親者に対して主に利用されてきた。DNA配列レベルでCF突然変異が知られれば、いかなる個人の試験も任意に行える。われわれの推定によれば、過去の家系が分からないCF患者の46%は、DNA解析によって正確に判断可能であって、母集団中のCFキャリアーの68%がF508欠失によって確認できる。北アメリカの母集団におけるキャリアーの頻度を1/20とすれば、例えば、キャリアーの状態に関して生殖年令の女性および/または男性のすべてをスクリーニングすることが妥当である。F508欠失に特異的なプローブを用いたキャリアーの検出は、キャリアーの70%まで見い出されよう。残りのキャリアーは、上記でさまざま

なハプロタイプ群に特異的な一群のプロープによって検出されよう。F508欠失は全CF突然変異型の約70%を構成するので、RFLP分析は、CF患者の家族または近親者に対する直接検出試験を補足するものとして使用が可能である。F508突然変異が起きていないCF患者の約55%がわれわれのCFリンケージ家族の事後分析に基づいてDNAマーカーJG2E1 (KM19) [Kerem et al. *Am. J. Hum. Genet.* 44:827-834 (1989); Estivell et al. *Genomics* 1:257 (1987)] から知見が得られるものと予想され、E6 (TaqI) [Kerem et al. 掲] およびJ3.11 (MspI) [Wainright et al. *Nature* (1985)] も試験された場合、さらに39%の知見が得られるであろう。すなわち、H2.3 (XV2C-TaqI) [Kerem et al. 掲; Estivell et al. *Nature* (1987)], E2.6 (E.9) (MspI) [必要に応じて入手可能なプロープ]、E4.1 (Mp6d.9) (MspI) [必要に応じて入手可能なプロープ]、Estivell et al. *Am. J. Hum. Genet.* (1989)、J44 (E3.1) (XbaI) [必要に応じて入手可能なプロープ] およびmetD (BanI) [Spence et al. *Am. J. Hum. Genet.* (1989); ATCC#40219] が含まれる場合、ほぼすべての親から知見が得られることになる。これらプロープの有用性は、これらが多形の制限酵素切断部位を認識するという事実にある。したがって、これらのプロープは一般に、多形部位を介してこれらの配列によって限定されず、隣接配列の知見に基づいて利用されるので、当該分野の技術者には既に知られているように、問題の領域におけるポリメラーゼ連鎖反応(PCR)を可能とする。例えば、プロープE2.6 (MspI) は、2つの隣接オリゴマー(5' GTGATCCAGTTTGCTCTCCA3'、および5' GGAATCACTCTCTTCCCTGATAT3')によって完全に限定される。MspIの多形性を検出するE2.6 PCR産生プロープを使用することによって、MspI部位の有無に応じて、2つの異なった対立遺伝子(850kbの断片、または490bpおよび360bp断片)が検出されよう。同様に、プロープJ44 (E3.1) (XbaI) は、2つの隣接オリゴマー(5' CAATGTGATTGGTGAACACTA3'、および5' CTTCTCCTCCTAGACACCTGCAT3')によって完全に限定される。XbaIの多形性を検出するE2.6 PCR産生プロープを使用することによって、XbaI部位の有無に応じて、2つの異なった対立遺伝子(860kbの断片、または610bpおよび250bp断片)が検出されよう。連結されたRFLPは、F508

欠失をもたない個人に対するリスクの計算に使用することもできる。一般的なリスクの推定法は、文献[Beaudet et al. *Am. J. Hum. Genet.* 44:319-326]で考察されている。出生前診断には、微小絨毛性小腸酵素の分析を行って、DNA診断が不完全な場合に診断の信頼性を高めることもできる。DNA診断は現在、胎児が嚢胞性線維症にかかっているか否かを判定するために使用されているが、歴史的には、特定の両親に確実なキャリアと同定された1人の嚢胞性線維症児が生まれた後にだけ実施されてきた。しかし、上記のようなキャリア検出と組み合わせ、キャリアの夫妻でのすべての妊娠に対してDNA診断を行うことは可能であろう。両親がすでに1人の嚢胞性線維症児をもっていれば、広範なハプロタイプ分析を行うことができ、疑陽性または疑陰性の比率が大幅に減少されよう。嚢胞性線維症には臨床的異質なものがあると多年考えられてきたが、現在では、いわゆる健全な膵臓(CF-PS)および膵臓不全(CF-PI)という2分類が登場している。これらの疾病の概念に関連した突然変異の特徴がよく解明されれば、この疾病の臨床的表現形をもった特定の突然変異に結び付けることができる。これによって、各患者の治療が変えられる。したがって、突然変異の特徴から、ある程度まで、患者の診断が予測され、特定の治療方針が定まるであろう。

6.0 嚢胞性線維症の分子生物学

CFTRが、イオンチャンネル、特にCFにおける機能的欠陥として意味付けられる塩素チャンネルの外向きへの機能を調節し得るという仮説は、アフリカルメガエルの卵細胞においてインビトロで転写された完全な長さのCFTR mRNAの注入および翻訳によって調べることができる。卵細胞の膜を通過するイオン流の確かな変化は、電位が固定弁で調節されるので、測定することができる。CFTRは内在性卵細胞のチャンネルを調節することができ、またはチャンネルタンパク質の翻訳を規定するために上皮細胞RNAを導入させるためにも必要であり得る。この発明によって提供されるように、正常なCFTRおよび突然変異型CFTRをコードするmRNAの使用によって、これらの実験が可能となる。異質細胞系における他の発現様式によっても、構造-機能の関係の解明が容易になる。プラスミド発現ベクターに連結された完全なCFTRのDNA配列は、細胞を感染させるために使用される結果、イオン輸送に対する影響を判定することができる。特定部位で修飾された配列部分とともに正常CFTR配列の一部を有するプラスミド発現ベクターは、調節機能に決定的なCFTRタンパク質の部分を同定するために行われるインビトロでの突然変異実験に使用することができる。

6.1 DNA配列の発現

このDNA配列は、その遺伝子および産物の発現を理解する研究、ならびに機能的解析、抗体産生および患者の

治療のために大量のタンパク質を産生させる研究において操作可能である。この配列の変化は、相対量、組織特異性および機能的特性の面で発現パターンを変えることも変えないこともある。部分的または完全な長さのcDNA配列は、目的とするタンパク質をコードし、修飾または未修飾のものがあり、以下のような細菌の発現ベクターに連結することも可能である。例えば、従来考察されたタンパク質の精製法に従って分離し得る対応のタンパク質の産生のために大腸菌細胞に導入可能なpRIT [Nilsson et al. EMBO J. 4:1075-1080 (1985)]、pGEX [Smith and Johnson, Gene 67:31-40 (1988)] またはpATH [Spindler et al. J. Virol. 49:132-141 (1984)] の各プラスミドである。このDNA配列を本来の配列から他のクローニングベクター、例えば、他のプラスミド、バクテリオファージ、コスミド、動物ウイルス、酵母の合成染色体(YAC) [Burke et al. Science 236:806-812, (1987)]、体細胞、ならびに細菌、苔 [Timberlake and Marshall, Science 244:1313-1317 (1989)]、無脊椎動物、植物 [Gasser and Fraley, Science 244:1293 (1989)] および豚 [Pursel et al. Science 244:1281-1288 (1989)] などの他の下等および高等生物に移入させることもできる。哺乳類細胞における発現では、このcDNA配列を、サルウイルス(SV)40、pSV2ベクター中のプロモーター [Mulligan and Berg, Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 78:2072-2076 (1981)] などの異質プロモーターに連結することもでき、サルのCOS-1細胞 [Gluzman, Cell, 23:175-182 (1981)] などの細胞に導入して、一過性または長期にわたって発現させることもできる。キメラ遺伝子構成体の安定な組込みは、ネオマイシン [Southern and Berg, J. Mol. Appln. Genet. 1:327-341 (1981)] およびマイコフェノール酸 [Mulligan and Berg, 上掲] を使った生化学的選択によって哺乳類細胞中で維持することもできる。DNA配列の操作は、制限酵素での消化、DNAポリメラーゼを用いた挿入、エキソヌクレアーゼによる欠失、末端デオキシヌクレオチドトランスフェラーゼによる伸長、合成またはクローン化DNA配列の連結、1本鎖バクテリオファージ中間体またはPCRと組み合わせた特異的オリゴヌクレオチドの使用による部位特異的配列の変更などの標準的な方法で行うことができる。cDNA配列(もしくはそれに由来する部分)またはミニ遺伝子(イントロンおよびそれ独自のプロモーターを

有するcDNA)を、従来の手法によって真核細胞の発現ベクターに導入される。cDNAの転写を開始および昂進させ、その適切なスプライシングおよびポリアダニル化を保証する調節配列を提供することによって真核細胞中でcDNAを転写させるように、これらのベクターが設計される。サルウイルス(SV)40のプロモーターおよびエンハンサー領域、またはラウス肉腫ウイルスのLTR、ならびにポリアダニル化およびSV40からのスプライシングシグナルを含むベクターは容易に入手できる [Mulligan et al. Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 78:1078-2076 (1981); Gorman et al. Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 79:6777-6781 (1982)]。また、CFTRの内在性プロモーターも使用できる。cDNAの発現レベルは、この型のベクターを用いて以下のいずれかの方法によって操作することができる。すなわち、さまざまな活性(例えば、バキュロウイルスpAC373は、S. フルギペルダ(Frugiperda)細胞中で高レベルのcDNAを発現し得る [M. D. Summers and G. E. Smith "Genetically Altered Viruses and the Environment" (B. Fields, et al. 編) vol. 22 no319-328, Cold Spring Harbour Laboratory Press, Cold Harbour, New York, 1985])を有するプロモーターを使用するか、調節を受け易いプロモーター(例えば、マウスの乳癌ウイルス [Lee et al. Nature 294:228 (1982)] から得られるグルココルチコイド反応性プロモーターを含むベクター)を使用する。cDNAの発現は、レシピエント細胞中で導入後24~72時間モニター可能である(一過性発現)。さらに、ベクターの中には、選択可能なマーカー(gpt [Mulligan et Berg, 上掲])または化学的選択によって細胞を分離させるneo [Southern and Berg J. Mol. Appln. Genet. 1:327-341 (1982)] 細菌遺伝子も含まれ、これらは、レシピエント細胞中で安定で長期間ベクターを発現させる。これらベクターは、パピローマ [Sarver et al. Mol. Cell Biol. 1:186 (1981)] またはエプシュタインバーバル [Sugden et al. Mol. Cell Biol. 5:410 (1985)] などのウイルスの調節エレメントを用いて、自由に複製するエピトープなどの細胞中で維持することができる。また、このベクターをゲノムDNAに組み込んだ細胞系を産生することもできる。これら両型の細胞系は、遺伝子産物を連続的に産生する。ベクターのコピー数(したがって、cDNAのコピー数も)を増幅させ、高レベルの遺伝子産物を

産生し得る細胞系を創製することもできる [Alt et al. *J. Biol. Chem.* 253:1357 (1978)]。真核細胞、特にヒトまたは他の哺乳類細胞へのDNAの転移は、現在では一般的方法である。ベクターは、例えば、リン酸カルシウムを用いた沈澱 [Graham and vander Eb, *Virology* 52:466 (1973)]、リン酸ストロンチウム [Brash et al. *Mol. Cell Biol.* 7:2013 (1987)]、電気穿孔法 [Neumann et al. *EMBO J* 1:841 (1982)]、リポフェクション (lipofection) [Felgner et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 84:7413 (1987)]、DEAEデキストラン法 [McCutchan et al. *J. Natl. Cancer Inst.* 41:351 (1968)]、マイクロインジェクション法 [Muller et al. *Cell* 15:579 (1987)]、プロトプラスト融合法 [Sshfner, *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 72:2163] またはペレットガン法 [Klein et al. *Nature* 327:70 (1978)] によって、純粋なDNAとしてレシピエント細胞中に導入 (移入) される。また、cDNAは、ウイルスベクターを用いた感染によって導入することができる。例えば、レトロウイルス [Bernstein et al. *Genetic Engineering* 7:235 (1985)]、アデノウイルス [Ahmad et al. *J. Virol* 57:267 (1986)] またはヘルペスウイルスを使ったシステムが開発されている。これら真核細胞の発現系は、CF遺伝子およびCFTR産物に関する多くの研究に使用することができる。これらには、以下のような研究が挙げられる。例えば、(1) 遺伝子が適切に発現されているか否か、および完全な生物学的活性が適切に現れるか否かの測定。(2) CF遺伝子の5'末端に位置する調節エレメント、ならびにCF遺伝子発現の組織制御および一時的制御における調節エレメントの役割の確認。(3) 分離および精製のため大量の正常タンパク質の産生。(4) CFTRタンパク質に対する抗体を調べる測定系または薬剤の有効性を試験する測定系としてCFTRタンパク質を発現する細胞の使用。(5) 正常で完全なタンパク質、タンパク質の特定部分、または天然に存在する突然変異型タンパク質もしくは人工的に産生された突然変異型タンパク質の機能の研究。天然に存在する突然変異型タンパク質はCF患者に存在する一方、人工的に産生された突然変異型タンパク質は、部位特異的配列を変更することによって設計可能である。これら後者の研究では、アミノ酸をコードするヌクレオチドを突然変異させることによってタンパク質中の目的とするいかなるアミノ酸残基の機能も調べることができる。上記の

方法を用いて、CF遺伝子配列またはその断片を含む発現ベクターを、必要に応じてヒトの細胞、ヒト以外の哺乳類細胞または非哺乳類細胞に導入することができる。細胞の選択は、処理の目的によって決められる。例えば、高レベルのSV40T抗原を産生し、複製のSV40源を含むベクターを複製させるサルのCOS細胞 [Gluzman, *Cell*, 23:175 (1981)] を使用することができ、この細胞を使用して、機能は要求されないので、ベクターがタンパク質産物を発現し得ることを示すことができる。類似の処理は、チャイニーズハムスターの卵巣 (CHO) またはマウスのNIH3T3線維芽細胞、またはヒトの線維芽細胞もしくはリンパ芽球を用いて行うことができよう。この発明の組換えクローニングベクターは、適切な宿主中での発現に対してこの発明のDNA配列の中から選定されたDNAを含む。DNAをベクターに連結させ、発現の対照配列は、原核または真核細胞の遺伝子ならびにそれらのウイルスおよびそれらの組合わせの発現を調節するさまざまな配列からなる群より選ばれてもよい。発現対照の配列は、lac系、trp系、tac系、trc系、 λ ファージの主要オペレーターおよびプロモーター領域、fdコートタンパク質の対照領域、SV40の初期および後期プロモーター、ポリオーマ、アデノウイルス、レトロウイルス、バキュロウイルスおよびサルウイルスから由来するプロモーター、3-フォスホグリセレートキナーゼのプロモーター、酵母の酸性ホスファターゼのプロモーター、酵母の α -対合因子のプロモーター、ならびにそれらの組合わせからなる群より特に選ばれてもよい。この発明のベクターで感染させることもできる宿主細胞は、大腸菌、シュドモナス、枯草菌、バチルス・ステアロサーモフィリスまたは他の桿菌、他の細菌、酵母、苔、昆虫、マウスもしくは他の動物、植物宿主、またはヒトの組織細胞からなる群より選ばれてもよい。突然変異DNA配列では、類似の系を使用して突然変異産物を発現および産生させることは当然である。

6. 2 タンパク質機能の考察

CFTRタンパク質の機能を研究するには、レシピエントとしての上皮細胞を使用することが好ましい。適切な機能の発現には、他の経路またはこの種の細胞中でのみ発現される遺伝子産物が必要だからである。使用可能な細胞の例としては、健常者もしくはCF被験者由来のT84 (ATCC#CRL248) もしくはPANC-1 (ATCC#CCL1469) などのヒト上皮細胞系、またはT43不動化CF鼻上皮細胞系 [Jettan et al. *Science* (1989)]、および初代 [Yanhuskes et al. *Ann. Rev. Resp. Dis.* 132:1281 (1985)] もしくは形質転換 [Scholte et al. *Exp. Cell Res.* 182:559 (1989)] ヒト鼻ポリープもしくは気道細胞、脾臓細胞

[Harris and Coleman J. Cell Sci. 87:695 (1987)]、または汗腺細胞 [Collie et al. In Vitro 21:597 (1985)] が挙げられる。CF細胞は、突然変異CF遺伝子の機能的活性を調べるために使用することができる。現在利用可能な機能測定法には、細胞中AMPレベルを上昇させ、塩素チャンネルを活性化する試薬によって、細胞の刺激機能として細胞膜を通過するアニオン (Cl⁻またはI⁻) の移動試薬が含まれる。その他の測定法には、細胞全体もしくは分離された膜のパッチクランプによる細胞電位の変化の測定 [Frizzell et al. Science 233:558 (1986); Welsch and Liedtke Nature 332:467 (1986)]、またはコンフルエント細胞の上皮層におけるイオン流の試験 [Widdicombe et al. Proc. Natl. Acad. Sci. USA 82:6167 (1985)] が含まれる。また、CF遺伝子から作成されたRNAは、アフリカツメガルの卵細胞に注入し得る。この卵細胞はRNAをタンパク質に翻訳するので、この試験が可能となる。その他のより特異的な測定法も開発されているので、感染されたCFTRタンパク質の試験にも使用できる。CFTRとヒトの多剤耐性p-糖タンパクとの間の「ドメイン交換」実験は、CFTRタンパク質の更なる研究で行うことができる。これらの実験では、プラスミド発現ベクターは、これら2つのタンパク質の各部分を含むタンパク質がプラスミドで感染された宿主細胞によって合成されるように、CFTR配列の断片およびDNAリガーゼで連結されたp-糖タンパクの配列断片から通常の方法によって構成される。この手法には、多剤耐性に関連した多くの実験的パラメータが測定可能であるという利点がある。したがって、CFTRのセグメントがこれらパラメータに及ぼす影響力を評価することができる。イオン輸送に関するCFTRの影響を調べるこれらの実験は、上皮輸送の分野を分子論的に解明するに役立つであろう。これは、完全な1次構造を示す上皮細胞から第1輸送に関連した分子である。CFTRの知識は、この分野における上皮細胞膜の特徴を分子レベルでより理解するために利用できる。例えば、CFTRに最も類似した分子は、架橋実験によって判明することができる。CFTRの役割がイオンチャンネルを調節することであるという仮説は、必ずしもこのカテゴリーにあてはまらないであろう。CFTR cDNAのクローニングのために構成させた大きな高品質のcDNAライブラリーも、共輸送、逆輸送および能動輸送系と同様に他のチャンネルを含む他の輸送系を構成するポリペプチドのcDNAのクローニングに有用であろう。

6.3 治療法

この発明の組成物を用いたさまざまな生化学的試験の主

要な目的は、CF疾患を克服する治療法の開発であって、薬理学的手段といわゆる遺伝子療法の両者が試みられる。薬理学的手段では、CF疾患を克服する薬剤が探求される。最初は、基本的には化合物がランダムにスクリーニングされるので、多くの候補化合物から識別するためのスクリーニングシステムが必要である。この発明は、さまざまな突然変異CF遺伝子を発現する宿主細胞系を提供し、第1段階のスクリーニングシステムとして使用するに最適である。好ましくは、CF発生突然変異型を含むCFTRタンパク質のコードDNA配列からなる発現ベクターを感染させた哺乳類細胞 (ヒトの細胞が最も好ましい) を使った細胞培養系スクリーニング法に用いられる。候補にあがった薬剤は、その薬剤の存在下で細胞をインキュベーションし、CFTRに依存するこれらの細胞性機能を測定すること、特にトランスメンブラン電位が固定弁でクランプされるイオン流を測定することによって試験される。しかし、多数の測定試料を扱うには、例えば、イオン感受性蛍光色素の使用に基づいたより簡便な測定法がある。塩素イオン濃度SPQまたはその類似体の変化を検出することが有用である。また、無細胞系も使用可能である。精製されたCFTRは、人工膜中で再構成され、薬剤が無細胞系でスクリーニング可能となる [Al-Aqwatt, Science, (1989)]。第2段階では、動物試験が必要である。マウスなどの動物でCF遺伝子に相対する遺伝子の正常な発現を阻害することによってCFのモデル実験の開発が可能である。動物の胚に遺伝子の突然変異型を導入することによる遺伝子の「ノックアウト」によって、CF様症候群の動物系統が得られる。これによって、第1段階の細胞レベルでのスクリーニングで有望とみられる薬剤の試験が可能である。タンパク質の性質とその機能について更に詳しい知識が得られるので、CFTRタンパク質と相互作用するタンパク質または他の化合物の構造を予測することができよう。これに続いて、このタンパク質と相互作用し、患者の治療になんらかの効果がみられるような薬剤に関するある種の子想が可能となろう。すなわち、この種の薬剤は設計が可能であり、CFTRのドメインとの相互作用が要求される仮想の構造に基づいて化学的に合成され得る。この試みは、総説 [Capsey and Delvatte, Genetically Engineered Human Therapeutic Drugs, Stockton Press, New York, 1988] にまとめられている。これら可能性のある薬剤は、このスクリーニング系で試験されねばならない。

6.3.1 タンパク質置換療法

CFの治療は、欠陥タンパク質を正常なタンパク質で置換すること、欠陥タンパク質の機能を調節すること、または生理学的異常を矯正するためにCFTRが関与する経路のもう一つの段階を修飾することによって行うこと

ができる。この欠陥タンパク質を正常なもので置換可能とするには、大量の純粋なCFTRタンパク質を当然得ねばならない。初めに記載したように、純粋なタンパク質は培養細胞系から得られる。疾病に侵された気道にこのタンパク質を運搬するには、細胞膜中にこのタンパク質を容易に取り込ませる脂質含有ビークル中にこれをパッケージングする必要がある。少なくとも肺胞細胞では、当然この機能を発揮する、SAP (Val) またはSAP (Phe) などの界面活性タンパク質のようなタンパク質を取り込むビークルを使用することが妥当といえよう。[PCT特許出願 WO/8803170, Whitsett et al. 1988年5月7日; PCT特許出願 WO89/04327, Benson et al. 1989年5月18日]。このCFTR含有ビークルは、CFの治療に現在使用されている方法である吸入または刺激によって気道に導入される [Boat et al. 上掲]。

6.3.2 薬物療法

CFTR機能の調節は、治療薬(薬物)を使用して行うことができる。これらは、欠陥CFTRタンパク質を調節する際の有効性がインビトロでモニターされるスクリーニング法を用いてランダムな手段で確認することができる。このスクリーニング法では、そこで欠陥CFTRタンパク質が発現される培養細胞系が用いられる。また、CFTRタンパク質の構造と機能との相関に関する知見、ならびにさまざまなCFTR突然変異タンパク質の特定の欠陥に関する知見 [Capsey and Delvatte, 上掲] から、CFTR活性を調節するために薬物を設計することができる。各突然変異CFTRタンパク質は、特定の調節のために異なった薬物を必要とすることが考えられる。したがって、薬物療法を開始する前に各CF患者で特異的な突然変異を同定する必要がある。薬物を設計して、CFTRタンパク質の構造または機能に関して異なった観点で相互作用を起こさせることができる。例えば、薬物(または抗体)は、タンパク質の折り畳み構造に結合して欠陥構造を修正することができる。また、特定の機能をもつ残基に結合して、基質またはコファクターに対する親和性を増す薬剤もある。CFTRが構造的に相同性をもつタンパク質群の要員は、さまざまな薬物と相互作用し、これに結合し、これを輸送するので、薬物関連療法がCFの治療に有効であることが当然予想される。有効な薬物の活性を高める第3の機構があるとすれば、細胞中でCFTRの産生または安定性を調節することであろう。CFTR量の増加によって、その欠陥機能の代償となり得る。薬物療法は、CFTR機能の発現にとって必要な生理学的または生化学的経路の他の成分との相互作用によってCFTRの欠陥機能を補うためにも利用され得る。これら相互作用は、付随タンパク質の活性の減少または増加に結び付き得る。これら薬物の同定法は、CFTR関連薬物に関

して上記で記載したものと類似しているであろう。他の遺伝的疾患では、食餌を改良することによって正常な機能の変化または欠損による状況を改善することができる。これは、フェニルケトン尿症の場合のように代謝産物の除去という形をとる。その疾病では、知的発育の遅れを防ぐため、生後5年間食餌からフェニルアラニンが除かれる。または、アデノシンデアミナーゼ欠損症の場合のように、大量の代謝産物を食餌に添加することもある。この疾病では、食餌に酵素を添加することによって、酵素活性の機能的修復をはかることができる。したがって、CFTR機能の詳細が解明され、CFの基礎的欠陥が定義されれば、食餌の調節によって治療を行うこともできる。第2の重要な治療法は、いわゆる「遺伝子療法」であって、これでは、罹患した組織の重要な上皮細胞において正常なタンパク質を好適にコードするように、患者にCF遺伝子の正常なコピーが導入される。気管の気道上皮細胞にこれを到達させる試みが最も重要である。CF遺伝子は、それが取り込まれ、調節機能を与えるに十分なタンパクをコードし得る形態で、これらの細胞に運ばれる。結果として、患者の生命の質と長さが大幅に伸びる。勿論、この遺伝子をすべての罹患した組織に運ぶことが究極の目的である。

6.3.3 遺伝子療法

CFの療法の一つは、罹患した患者の気道上皮に正常な形のCF遺伝子を挿入することである。呼吸器系がCFにおける罹患率と死亡率の主要な原因であり、肺臓疾患は主要な性質であるが、今日この疾患は酵素の補充によって比較的よく治療されることに着目するのは重要である。したがって、気道を標的とする体細胞の遺伝子療法 [総説として、T. Friedmann, Science 244:1275 (1989)] は、CFに関連した最も重篤な疾患を軽減するであろう。

A. レトロウイルスのベクター。レトロウイルスは、感染効率が高く、安定な組込みおよび発現を有し、体細胞遺伝子療法における実験で好ましいベクターと見られてきた [Orkin et al. Prog. Med. Genet 7:130 (1988)]。欠点があるとすれば、レトロウイルスの組込みにとって細胞の分裂を要し、その結果、細胞周期にある気道の標的細胞をレトロウイルスの感染に先立って化学的手段によって引き出す必要があることである。完全な長さのCF遺伝子のcDNAは、レトロウイルス中にクローニングすることができ、その内在性プロモーターまたはレトロウイルスのLTRから抜く出すことができる。ウイルスの投与は気管へのエアロゾル噴霧または滴下によって行うことができよう。

B. その他のウイルスベクター。利用可能な他の運搬系としては、アデノウイルス [AAV, McLaughlin et al. J. Virol 62:1963 (1988)]、ウシパピローマウイルス [Rasmu

ssen et al. *Methods Enzymol* 139:642 (1987)] またはエプシュタイン-バルウイルスなどのヘルペスウイルス群の員 [Margolske et al. *Mol. Cell Biol* 8:2937 (1988)] が挙げられる。これらの基礎的な生物学を知る必要性は大きい、気管支に対する天然の向性を有するウイルスベクター (例えば、呼吸器シンシチアルウイルス、エコウイルス、コクサックウイルスなど) を使用するという考え方も可能である。

C. 非ウイルス遺伝子の運搬

呼吸器上皮細胞へのCF遺伝子の他の挿入方法は生産的であり、これらの多くは効率が低く、インビトロでの感染、トランスフェクタントの選択、および再移植を潜在的に必要とする。これには、リン酸カルシウム、DEAEデキストラン、電気穿孔、およびプロトプラスト融合が含まれる。特に興味深い概念は、リポソームの使用であって、これはインビボでの実施が可能である [Ostro, *Liposomes*, Marcel-Dekker, 1987]。

DOTMA

[Felger et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 84:7413 (1987)] などの合成カチオン性脂質は、効率を高め、この方法の実施を容易にすることもある。

6.4 CFの動物実験モデル

CFに対するマウスまたは他の動物実験モデルの作成は、この疾病および可能性のある治療法を理解するに重要であろう [動物実験モデル作成の一般的総説: Erickson, *Am. J. Hum. Genet.* 43:582 (1988)]。現在では、CFの動物実験モデルは全くない。図4に示すように、進化におけるCF遺伝子の保存性 (E4.3およびH1.6に対して交差種のハイブリダイゼーションプロットで示される) は、マウスにおけるオートログス (orthologous) 遺伝子の存在を示し (以降、mCFと標記され、それに相当するタンパク質はmCFTRと標記される)、これは、ヒトのCF遺伝子を用いてマウスのゲノムおよびcDNAライブラリーにクローニングすることが可能である。F508突然変異に類似したマウスの遺伝子中の特定突然変異の形成は表現型を再生産するために最適であるが、mCFTRの完全な不活化は、有効な突然変異といえることが期待される。

A. 突然変異誘起。受精後のマウスのmCF遺伝子の不活化は化学薬品 [例えば、Johnson et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 78:3138 (1981)] またはX線突然変異誘起 [Popp et al. *J. Mol. Biol.* 127:141 (1979)] によって行われる。次いで、mCFTRの不活化に対する異質の子孫はサザン法によ

って同定され、用量によって1つの対立遺伝子の欠損が示され、RFLPマーカーが評価されるならば、1匹の親の対立遺伝子を受け継がない。この方法は従来、マウスにおいて α -グロブリン [Whiney et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 77:1087 (1980)]、フェニルアラニンヒドロキシラーゼ [McDonald et al. *Pediatr. Res.* 23:63 (1988)]、およびカルボニックアンヒドラーゼII [Lewis et al. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 85:1962 (1988)] の突然変異型を同定するために用いられてきた。

B. トランスジェニック

卵細胞インジェクションの標準法を用いて、CFTRまたはmCFTRの正常型または突然変異型をマウスの生殖系に挿入することができる [Camper, *Trends in Genetics* (1988)]、mCF遺伝子を不活化または置換することが望ましければ、胚の幹 (ES) 細胞 [Capecchi, *Science* 244:1288 (1989)] を使って同族の組換え系を利用することができる。

1. 卵細胞インジェクション。マウスの生殖系にランダムに位置する正常または異常mCFの1つ以上のコピーの置換は、受精したマウス卵細胞の前核へのマイクロインジェクションによって行なうことができ、続いて、疑妊娠の養母に再移植する。新生マウスのインテグラントを、ヒトCF遺伝子配列の存在に対して尾のDNAの解析によってスクリーニング可能である。同一のプロトコルを使って、突然変異mCF遺伝子に挿入することができる。マウスの実験モデルを作成するには、突然変異誘起 (上記参照) または同質的組換え (下記参照) によって、内在性mCFが不活化されているマウスにこのトランスジーンを挿入することを考えるであろう。このトランスジーンは次のいずれかであり得る。
a) 完全なゲノム配列であるが、このサイズ (約250 kb) では、このトランスジーンを酵母の人工染色体または染色体断片に注入する必要がある。
b) 天然のプロモーターまたは異質プロモーターを有するcDNA。
c) コード領域のすべて、ならびにイントロン、プロモーターおよび最適発現に必要とみられる3'末端隣接エレメントなどの他のさまざまなエレメントを含む「ミニ遺伝子」。

2. 初期胚のレトロウイルス感染

この代わりに方法は、レトロウイルスベクターにCFTRまたはmCFを挿入し、発生の初期段階にあるマウスの胚に直接感染させ、キメラを作成することである [Soriano et al. *Cell* 46:19 (1986)]。このうちの少なくともいくつかは、生殖系トランスミッションに結び付くであろう。

3. ES細胞および相対的組換え

胚の幹細胞方法 [Capecci, 上掲; Capecci, Trends Genet 5:70 (1989)] によって、遺伝子トランスフェアを行える確率が得られ、スクリーニングが可能となり、全形成能細胞が生じて、希な相同的組換体を確認できる。一度確認されれば、これらの組換体を使って、マウスの芽球の注入によってキメラが生じ、得られるマウスの比率は、組換体系から生殖系への伝達を示す。これがCFに関するマウスの実験モデルの作成に有用であり得るいくつかの方法がある。

a) mCFの不活化は、neoなどの選択可能なマーカーに隣接するmCFTRエクソンからの配列を含むDNA断片を設計することによって好適に行われる。相同性組換えは、エクソンの中央部でのneo配列の挿入につながり、mCFTRを不活化するであろう。この相同性組換体 (通常約1/1000) は、個々のクローンのDNA解析 [通常PCRを使う。Kim et al. Mucleic Acids Res. 16:8887 (1988); Joyner et al. Nature 338:153 (1989); Zimmer et al. 上掲p. 150]、または異質組換体に対する負の選択 [構成体の末端でHSVTK遺伝子の使用に続いてガンシクロビル (Gancyclovir) 選択など、Mansour et al. Nature, 336:348 (1988)] によって異質のものから確認される。次いで、この不活化mCFTRマウスは、突然変異CF遺伝子またはF508異常もしくは他のいかなる目的とする突然変異をも含むmCF遺伝子を導入するために使用され得る。

b) mCFTRの特定の突然変異を1段階で生起させることができる。例えば、5'末端にmCFイントロン9配列、中央部に選択可能なneo遺伝子、および3'末端にイントロン9+エクソン10 (F508突然変異のマウス型を含む) を含む構成体を作成することができる。相同的組換体はイントロン9におけるneo遺伝子の挿入および突然変異型でのエクソン10の置換につながる。

c) イントロン中の選択可能なneoマーカーの存在がmCF遺伝子の発現を変更させる場合、第2の相同再組換段階におけるその切り出しが可能である。

d) 目的とする突然変異型を含むオリゴヌクレオチドの注入および得られた細胞のPCRによるスクリーニングによってマウスの生殖系に突然変異を誘起させることができる。

この発明のこの実施態様は、嚢胞性線維症に関するマウスの実験モデルと主に考えられてきた。図4は、マウスのDNAだけでなく、ウシ、ハムスター、およびニワトリのDNAに対する種間ハイブリダイゼーションを主に示す。したがって、オルソロガス遺伝子は他の多くの種類にも存在するものと考えられる。そこで、類似の手法

を用いて他の動物実験モデルを作り出すことができよう。この発明の好ましい実施態様がここで詳細に記載されているが、当該分野の技術者には、この発明の精神または添付の請求の範囲の領域から逸脱することなく、それに対してさまざまな変更を行えることが理解されよう。

【図面の簡単な説明】

図1は、CF遺伝子のヌクレオチド配列およびCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。図2は、CF遺伝子の制限地図および前記遺伝子への染色体歩行およびジャンピングに使用された略手段である。図3は、前記CF遺伝子を含みかつ取り囲む領域のパルスフィールドゲル電気泳動地図である。図4A、4Bおよび4Cは、種間ハイブリダイゼーションによる保存されたヌクレオチド配列類の検出を示している。図4Dは、プローブ類E4、3およびH1、6の重複するセグメント類の制限地図である。図5は、ゲノムおよびcDNAプローブ類を用いたRNAプロットハイブリダイゼーション解析である。繊維芽細胞、気管 (正常およびCF)、膵、肝、HL60、T84、および脳RNAへのハイブリダイゼーションを示している。図6は、前記CF遺伝子の5'末端におけるE4、3クローニング領域のメチル化状況である。図7は、cDNAのゲノムDNA断片類への配列を示したCFTR cDNAの制限地図である。図8は、CFTR cDNA (クローン10-1) の部分による6.5 kbのmRNA転写体への種々のヒト組織中におけるハイブリダイゼーションを示したRNAゲルプロット解析である。図9は、EcoRIおよびHindIIIで消化したゲノムRNAへのCFTR cDNAクローン類によるハイブリダイゼーションを示したDNAプロットハイブリダイゼーション解析である。図10は、CFTR cDNAの5'および3'末端を特性解析したプライマー延長実験である。図11は、ヒドロパシープロファイルであり、かつ、CFTRの予測2次構造を示している。図12は、予測されたCFTRポリペプチド中における内部相同性のドットマトリックス解析である。図13は、予測されたCFTRタンパク質の略モデルである。図14は、CF遺伝子に緊密に連結した制限断片長多形性 (RFLP類) の略図であり、その中で、倒立三角形は、F508 3塩基対欠失の位置を示している。図15は、正常配列を検出するプローブNおよびCF変異配列を検出するプローブFによるオリゴヌクレオチドハイブリダイゼーションによるF508変異の検出を示したものである。図16は、CFTRの延長NBF類の最もよく保存されたセグメント類と他のタンパク質類の匹敵する領域類との配列を示したものである。図17は、F508欠失周辺のDNA配列である。図18は、F508欠失におけるDNA配列を示したヌクレオチド配列決定ゲルを示したものである。図19aおよび19bは、pGEXプラスミド類によって形質転

換された細菌溶解物 (JM101) からのタンパク質の電気泳動後クーマシーブルー (Coomassie Blue) 染色ポリアクリルアミドゲル類である。図20は、2匹の異なるウサギから得た免疫前および免疫血清による融合タンパク質 #1 含有細菌溶解物のイムノプロ

ットである。図21は、図20のウサギ#1からの免疫血清を用いたT-84膜類のイムノプロットである。図22は、表8のペプチド#2とKLHとの結合物で免疫したウサギ由来免疫前血清および免疫血清で探索したイムノプロットである。

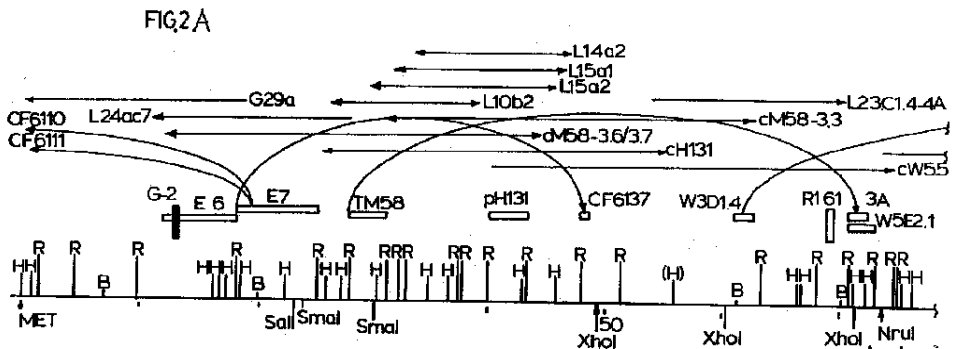
【FIG. 1A】

1 AATGGAGCAAAATGACATCAGCAGGTGACAGAAAAGGGTTGAGCGGCGAGCACCGA
61 GAGTAGTAGTCTTTGGCATTAGGAGCTGAGCCGACAGCCCTAGCAGGACCCCGAC
121 N Q R S P L E K A S V Y S K L F
181 F S N T R P I L R K G Y R O R L E L S D
241 I Y O I P S V D S A D N L S E R K L E R P
301 W D R E L A S K K N P K L I N A L R R C
361 F P H R F N F Y G I F I V L G E Y T K A
421 V G E L L L G R I I A S Y D P D N K E E
481 R S I R I Y I G I G I C I L P I V R T I
541 L L H P A I F G L S H I C M O M R I A N
601 F S L L I Y K K I L K L S S R V L D N I S
661 I C Q L V S L L S N N L N K F D E I G L A
721 L A H F V W I A P L O V A L L M G L I N
781 E L L Q R S R F C G I G F I V T A I R
841 D A G L G R M H M K Y R D O R A C K I S
901 E R L V I T S E M I E N I Q S V X A Y C
961 W E E A M E X H I E N L R Q T E L K L I
1021 R K A A Y V R Y F N S S A F F S G F P
1081 V V F S V L P Y A I T G S I L R K I
1141 F T T I S F C I V L R N A V T R Q F W
1201 A V G I N V D S L G A I N K I Q D F L Q
1261 K O E Y K T L E Y N L T T E V V M E N
1321 V T A F W E E I G F G E L F E K A K O N N

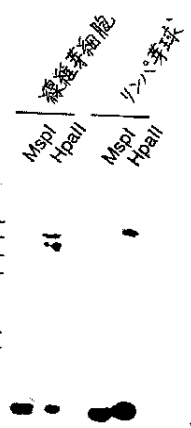
【FIG. 1B】

1381 N N R K T S N G D D S L F F S N E E L L
1441 G F P V L K D I N F K I E R G O L L A V
1501 A S T G A S K T F L L M H M Y G E L E
1561 P S E G K I F E G R I S Y C S O F S W
1621 I N F G I I E N I I F G V S Y D E Y R
1681 Y R S V I K A C O L E W I D I S K F A E H
1741 D N I V E S E G G T T L S G G O R A R Y
1801 S E A N A V Y K D R D I V D S F F G
1861 Y L D V L T E K E I F E S C V C K L M A
1921 N K T R I L V T S K M E H L K K A D K I
1981 L I L N E G S S Y F Y G T F S E L O N I
2041 Q P D F S S K L H G C D S F D Q F S A E
2101 R R N S I L T E T L H R F S L E G D A P
2161 V S M T E S K K Q S F K Q T G E F G E R
2221 R K N S I L N P I N S I R K F S I V O K
2281 T P L O M N G I E E D S D E P L E R R L
2341 S L V P D S E Q G E A I L F P R I S V I S
2401 T G P T L O A R R R O S V L N L N T H S
2461 V N Q G O N I H R K T T A S T R K V S L
2521 A P O A N L T E L D I Y S R R L S O E T

【FIG. 2A】



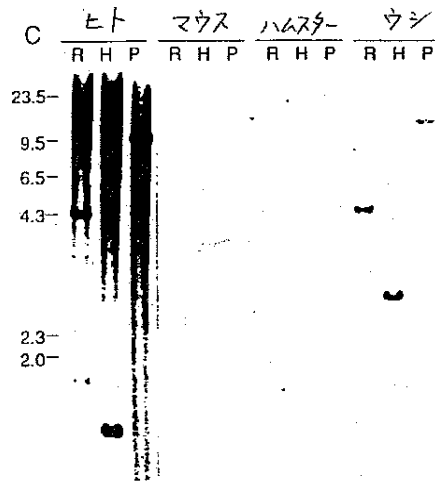
【第6図】



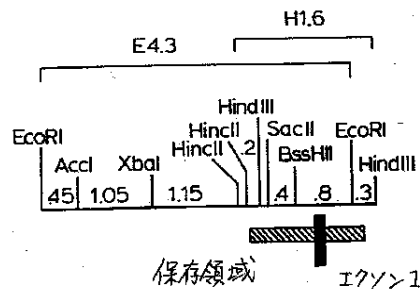
【FIG. 1C】

2581 GLEISEEIN EEDLMECLFDD 836
 GCCTTGGAAATAAGTGAAGAAATTAACGAAGAAGACTTAAAGGAGTGCCTTTTGTGAT
 2641 HESIPAVTTWNTYLRVITVH 856
 ATGGAGACATACCAGCAGTGTACTACATGGAACACATACCTTCGATATATTACTGTCCAC
 KSLIFVLIHCVIPVVA 876
 2701 AAGAGCTTAATTTTGGCTAATTTGGTCTTAGTAATTTTCTGGCAGAGTGGCTGCT
 SLVVLNMLLGNTPLODKGNST 896
 2761 TCTTTGGTGTGCTGTGGCTCCTTGGAAACTCCTCTTCAAGACAAAGGGAATAGTACT
 HSRNNSYAVIITSTS SVVVF 916
 2821 CATAGTAGAAATAACAGCTATGCAGTGAATTCACCAGCACCAGTTCGTATTATGTGTTT
 VYVYVGVADTLLAMGFPRGLP 936
 2881 TACATTTACGTGGGAGTAGCCGACACTTTCCTTGCATATGGGATTCCTCAGAGTCAACCA
 LVETLITVSKILHHKMLHSV 956
 2941 CTGGTACTACTTAATCACAGAGTGTGCAAAATTTTACCACCAAAATGTTACTTCTGT
 LQAPMSTLNLTKAEGILNRF 976
 3001 CTTCAAGCACCTATGTCAACCTCAACAGCTTGAAGCAGTGGGATTCATAATAGATTC
 SKDIAILDLLFLTFIDPFIQ 996
 3061 TCCAAAGATAFAGCAATTTGGATGACCTTCTGCCTTACCATATTGACTTCATCCAG
 LLLIVIGATAVAVVVOPIYIF 1016
 3121 TGTATTAATTTGATGAGCTATAGCAGTGTGCGAGTTCACACCTTACATCTT
 VATVPEVIVAFINLRAYFDIQT 1036
 3181 GTTCAACAGTGGCAGTGTAGTGGCTTTTATTATGTTGAGAGCAATTTCTCCAAACC
 SSQLKQLESEGRSPIFTHLV 1056
 3241 TCACAGCACTCAACACTGGAATCTGAAGGCAGGAGTCCAAATTTCACTCATCTGTT
 TSLKGLWTLRAFGROPYFET 1076
 3301 ACAAGCTTAAAGSACTATGGACACTTGTGCCTTCGGACGGCAGCCTTACTTGAACCT
 LFHKAALNLHTANWFLYLSL 1096
 3361 CTGTTCCACAAGCTCTGAATTTACATAGTCCCACTGGTCTGTACTGTCAACACTG
 RWFQMRTEHIFVIFPIAVTBE 1116
 3421 CGCTGGTCCAAATGAGAATAGAAATGATTTTGTGATCTTCTCATTTGCTTACCTTC
 ISILTTREGEGERVGIITL 1136
 3481 APTTCCATTTACACAGAGCAAGGAGCAAGGAGTGGTATTATCTGACTTATGCC
 HWIMSTLQWAVNSIDVDSL 1156
 3541 ATGAATATCATGACTACATTTGCACTGGCTGTAACCTCCAGCATAGATGTGGATAGCTTB
 HRSVSRVFRKFDHPTEGKPT 1176
 3601 ATCGGATCTGTGAGCCGAGTCTTTAAGTTCATTGACATGCCAAGAAAGTAAACCTACC
 KSTKPYRNGQLSKVHIENS 1196
 3661 AAGTCAACCAACCATACAAGAAATGGCCACTCTCGAAGTATGATATTGAGAATTC
 NVKKDDIMPSSGGQNVKDLT 1216
 3721 CACGTGAGAAAGATGACATCTGGCCCTCAGGGGCCAAATGACGTCAAGATCTCACA
 AKYTEGGWAILLNISFISF 1236
 3781 GCAAAATACACAGAAAGTGGAAATGCCATATTAGAGAACTTCTCTCAATAAGTCTCT
 GORVGLLGRGTGSKFTLLSA 1256
 3841 GGCCAGAGGTGGGCTCTTGGGAAGACTGGATCAGGAGAGTACTTTGTATCACT

【第4図】

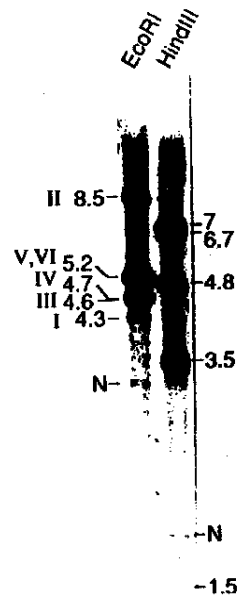
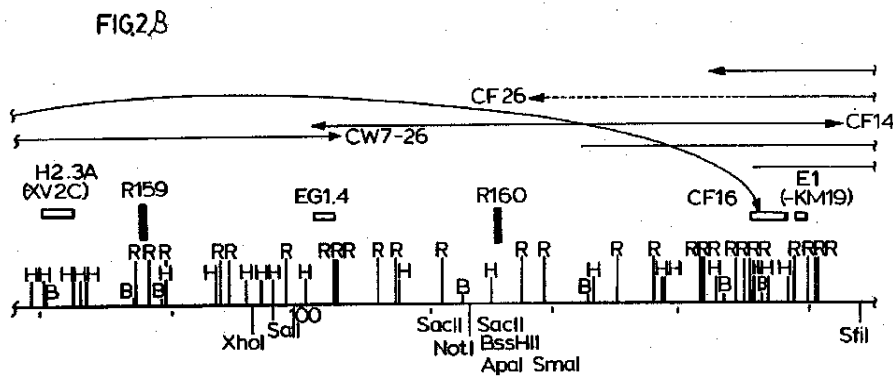


【第4D図】



【FIG. 9A】

【FIG. 2B】



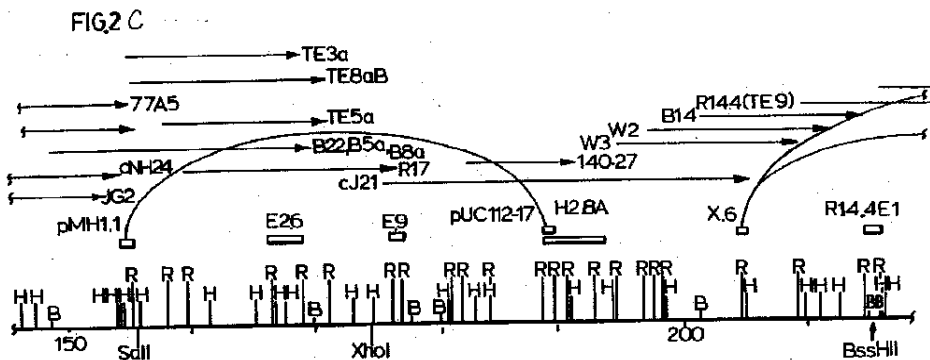
【FIG. 1D】

```

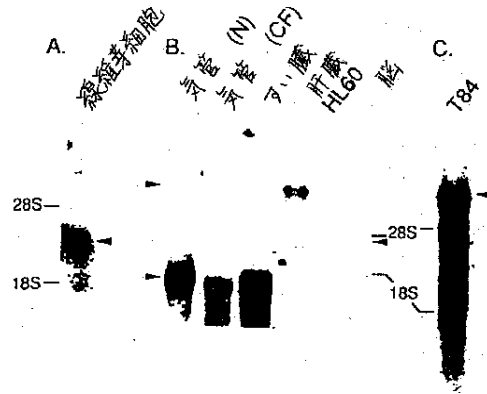
3901  F L R L L N T E G E I Q I D G V S W D S 1276
      T T T T G A G A C T A C T G A A C A C T G A A G G A G A A A T C C A G A T C G A T G G T G T C T T G G G A T T C A
3961  J T L Q O V R K A F E V I P O R V T I F 1296
      A T A A C T T T G C A A C A G T G G A G G A A A G C C T T T G G A G T G A T A C C A C A G A A A G T A T T T A T T T T
4021  S G F R R K L D P Y E Q W E D O N I W 1316
      T C T G G A A C A T T T A G A A A A A A C T T G G A T C C C T A T G A A C A G T G G A G T A T C A G A A A T A T G G
4081  K V A D E I V G L R S V I E O F F G K L D 1336
      A A A G T T G C A G A T G A G E T T G G G C T C A G A T C T G T G A T A G A A C A G T T T C C T G G G A A G C T T G A C
4141  F V L V D E G C V L S E G N K O L M C V 1356
      T T T G T C C T T G T G G A T G G G G G C T G T G C C T A A G C C A T G G C C A A G C A G T T A T G T G C T T G
4201  A R S V L S F A K I L L L D E P S A N I 1376
      G C T A G A T C T G T T C T C A G T A A G G C C A A G A C T T T G C T G T T G A T G A A C C C A G T C C A T T T G
4261  D P W T Y O T I R R L K O A P A D C T 1396
      G A T C C A G T A C A T A C C A A A T A A T T A G A G A A C T C T A A A A C A A G C A T T T G C T G A T T G C C A
4321  V I L C E E R I E A M L E C Q O F L V I 1416
      G T A A T T C T C T G T G A A C A C A G G A T A G A G C A A T G C T G G A A T G C C A A C A A T T T T T G T C A T A
4381  E E N K V R O Y D S I O K L L N E R S L 1436
      G A A G A G A C A A A G T G C G C A G T A C G A T T C C A T C C A G A A A C T G C T G A A C G A G A G A G C C T C
4441  F R Q A I S P S D R V K L F P H R N S S 1456
      T T C C G C A A G C C A T C A G C C C C T C C G A C A G G G T G A A G C T T T T C C C A C C G A A C T C A A G C
4501  K C K S K P Q I A A L K E E T E E V Q 1476
      A A G T G C A A G T C T A A G C C C A G A T T G C T G C T G T G A A A G A G G A C A G A A G A G A G G T G C A A
4561  D T R L = 1480
      G A T A C A A G G C T T T A G A G A G C A G C A T A A A T G T T G A C A T G G G A C A T T T G C T C A T G G A A T T G G
4621  A G C T G T G G G A C A G T C A C C T C A T G G A A T T G G A G C T C G T G G A C A G T T A C C T C T G C C T C A G
4681  A A A C A A G A T G A A T T A G C T T T T T T A A A A A G A A A A C A T T T G G T A A G G G A A T T G A G G
4741  A C A C T A T A D O G C T T G A T A A A T G C C T T C C G C A A T A G T C A A A T T G T G T G A A A G G T A C
4801  T C A A A T C C T T G A A G A T T A C C A C T T G G T T T T G C A A G C C A G A T T T C C T A A A A C C C T T
4861  C C C A T G C T A G T A A T T G G A A A G C A G C T C T A A A T G T C A A T C A G C C T A G T G A T C A G C T T
4921  A T T G T C T A G T G A A A C T G T T A A T T T G T A G T T G G A G A A A C T G A A A T C A T A C T T C T T A
4981  G G G T A T G A T A A G T A A G T A A C T G G A A A C T C A G C G G T T A T A T A A G C T T G T A T T C C T
5041  T T T C T C C T C T C C C C A T G A T G T T A G A A A C A C A C T A T A T T G T T G C T A A G C A T T C C A
5101  A C T A T C T C A T T C C A A G C A A G T A T T A G A A T A C C A C A G G A C C A C A A G A C T C C A C A T C A A A
5161  A T A T G C C C A T T C A C A C A T C T A G T G A G C A G T C A G G A A A G A G A C T C C A G A T C C T G G A A A T
5221  C A G G G T A G T A T T G C C A G G C T A C C A A A A T C T C A A T A T T C A G A T A A T C A C A A T A C A T
5281  C C C T A C T T G G C A A A G C C T G T A T A T C T T T C A C A G G C A C A G A T G T C C C C T G A T G
5341  A R E A G T T G A T A T G C T T T T C C A A C T C A G A A A G T G C A G C T C A C A G A C C T T T A A C T
5401  A G A G T T A G C T G A A A A G T A T G T T A G T G C A A A T T G C A G A C A G C C C T T C T T T C A G A
5461  G A A G C T C C A G S T A G A G G G T G T A A G T A G A T A G S C A T G G C A C T G G G T A G A C A C A C A
5521  T G A A T C C A A G C A T T A G A T G T A T A G G T T A T G T G T A T G T T T C A G C T A G A G A T G A T G
5581  T A C T T C A T G C T G T A C A C T A A G A G A A T G A G A G A C A C A C T G A A G A A G C A C A A T C A T G
5641  A A T A G T T T A T A T G C T T C T G T T T A T A T T T T G A A G C A A A A T T T T C T C T A G G A A A
5701  T A T T A T T T A A T A A T T T C A A A C A T A T A T T A C A A T G C T G A T T T A A A A A A A T G A T T A
5761  T G A A T T A C A T T T G T A T A A A A A A T T T T A T A T T T G A A A T A T T G A C T T T T A T G G C A C T A G
5821  T A T T T T A T G A A A T A T A T G T T A A A C T G G A C A G G G A A C C T A G G G T A T A T T A A C C
5881  A G C G C A A G A A C A C C T T T G C T T G A G G A A G C C T T G G C T G A T C A G T T G T C C
5941  C A G C T C A T G A T T C C G A C C A G C A G C C C T T T A T C C A G T T C T G A A G A A T G T G
6001  A C C A C A G T C T A C T G T T C A T C A A G G G T A C A C T G C C T T C A C T C A A A C T A C T C T
6061  T A A G A A G C T G C A T A T A T T T A T T A C T G T A G A A A A T A T C A C T T G T C A A T A A A A T C C A T A
6121  C A T T T G T G T (A) n

```

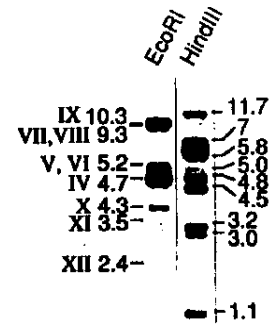
【FIG. 2C】



【第5図】

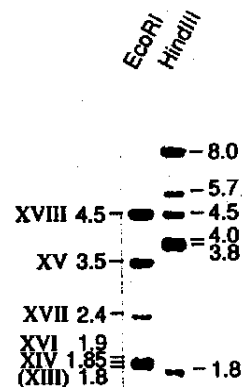


【FIG. 9B】



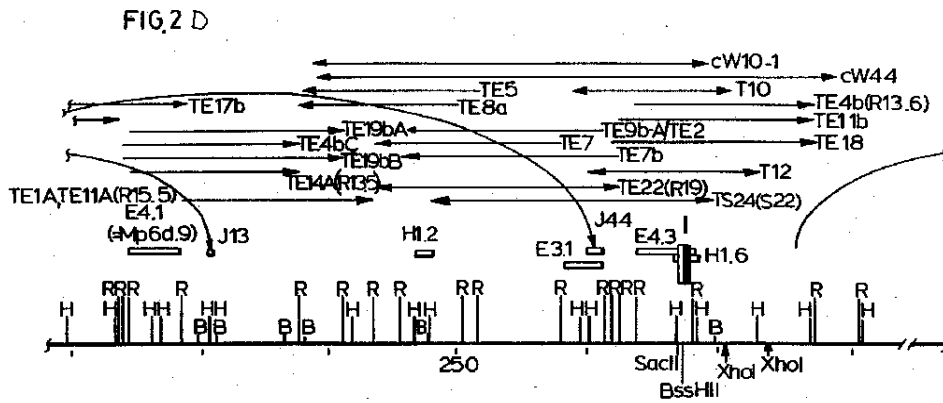
(XIII) 0.5-

【FIG. 9C】

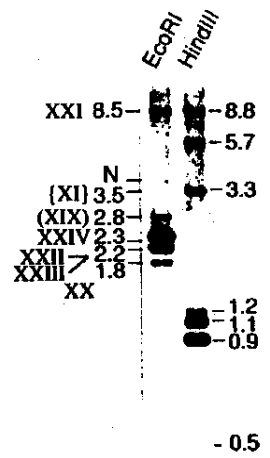


(XIX) 1.0-

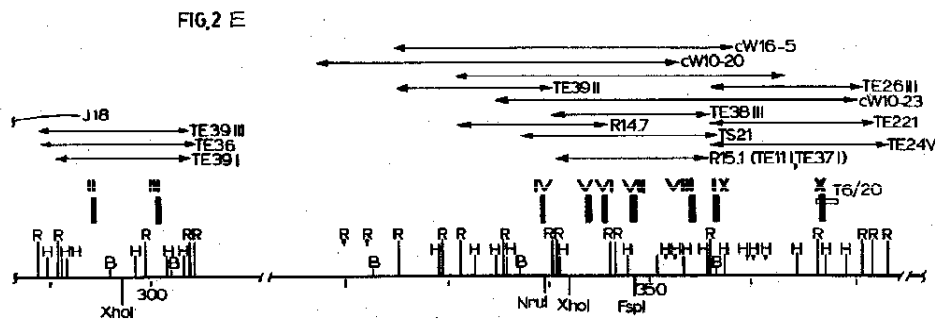
【FIG. 2D】



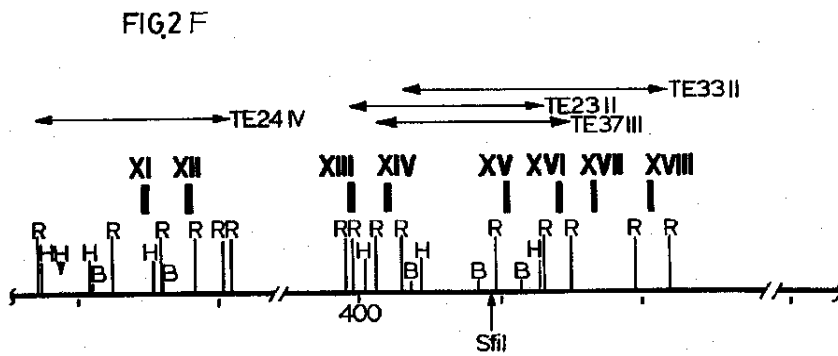
【FIG. 9D】



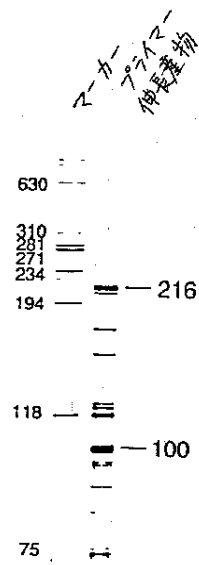
【FIG. 2E】



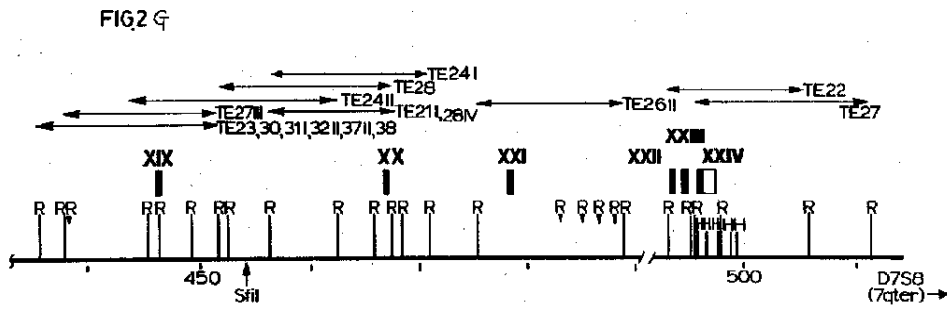
【FIG. 2F】



【第10A図】

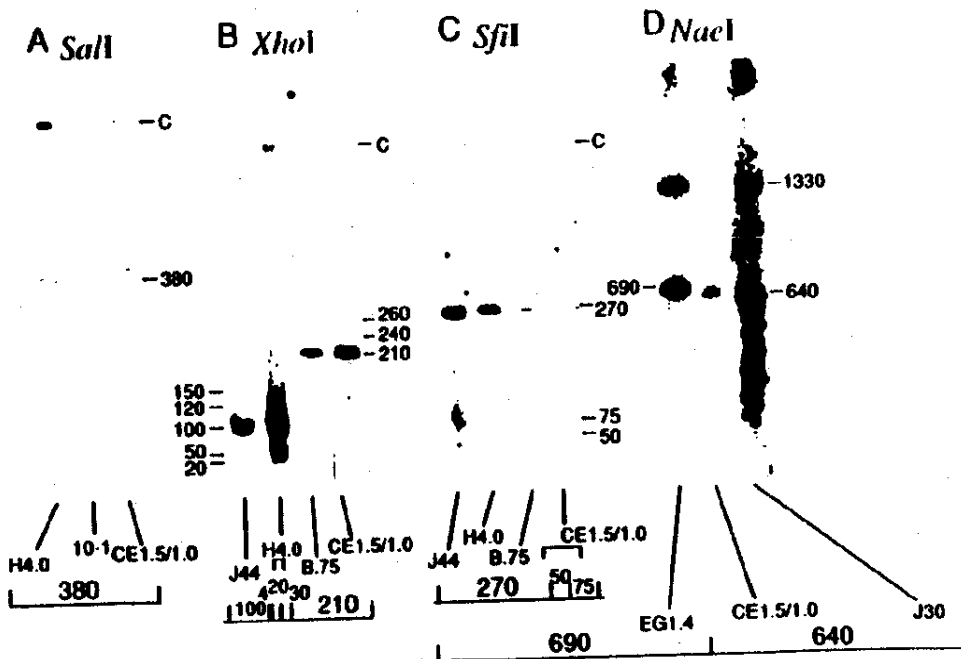


【FIG. 2G】



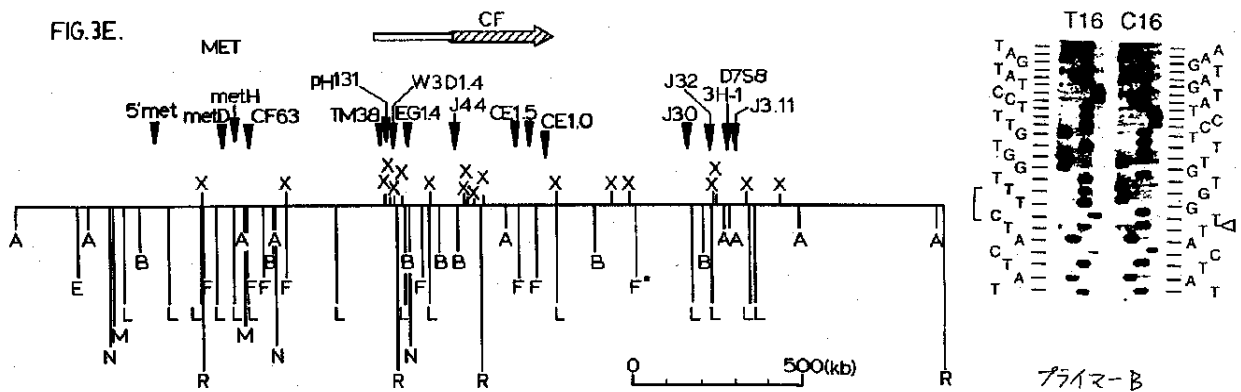
【FIG. 3】

Fig. 3

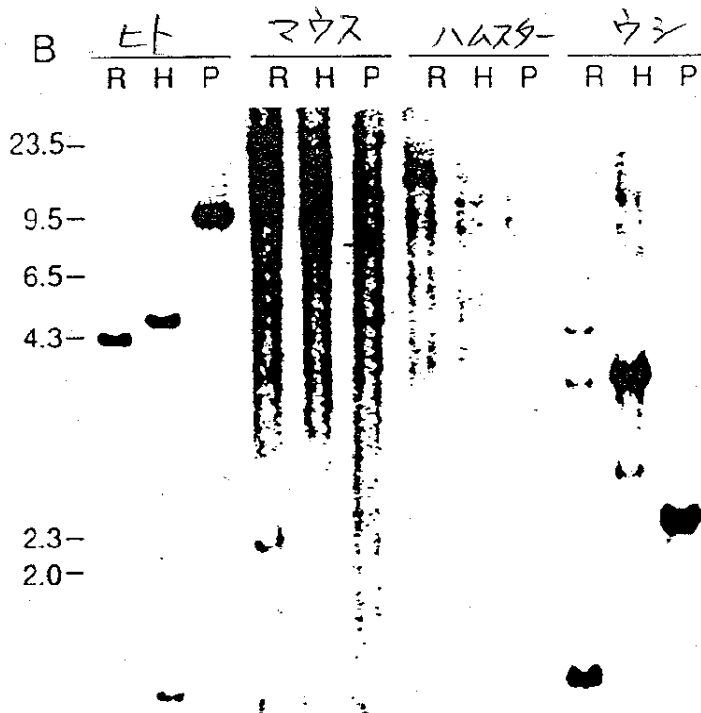
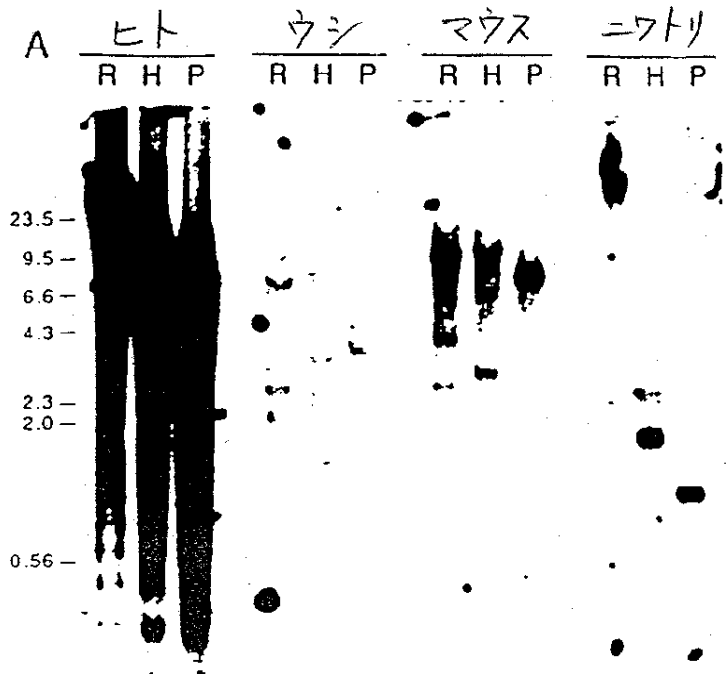


【FIG. 3E】

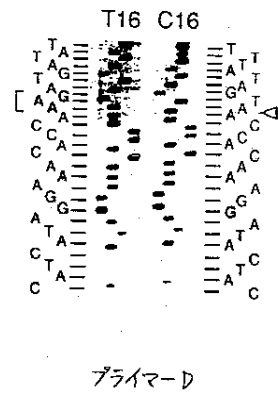
【第18A図】



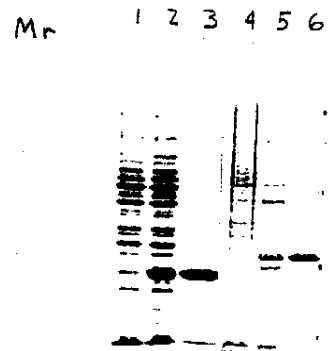
【第4図】



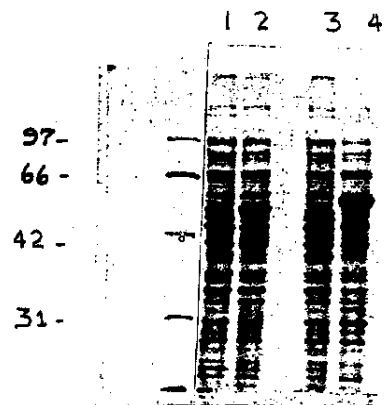
【第18B図】



【FIG. 19A】



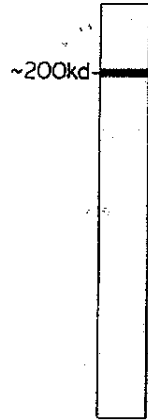
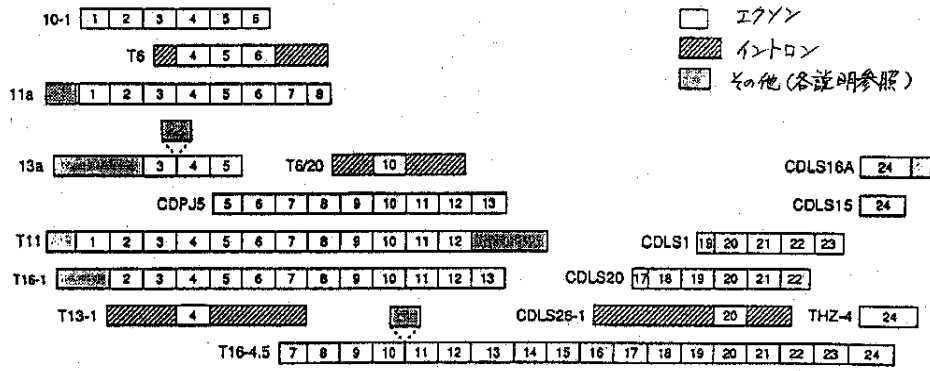
【FIG. 19B】



【第7A図】

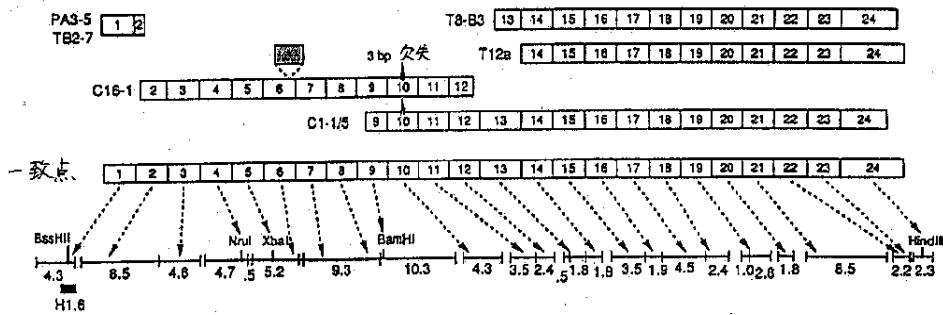
【第21図】

第7A図



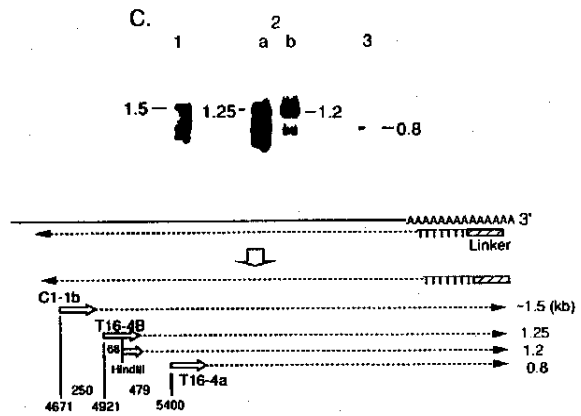
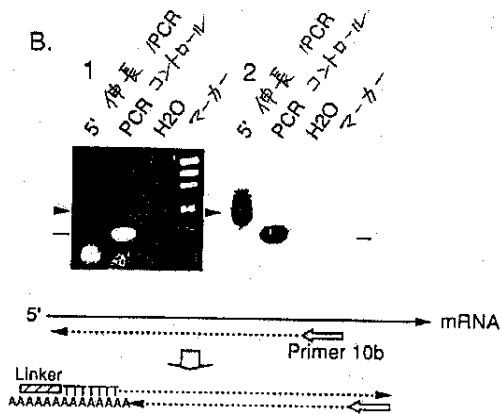
【第7B図】

第7B図



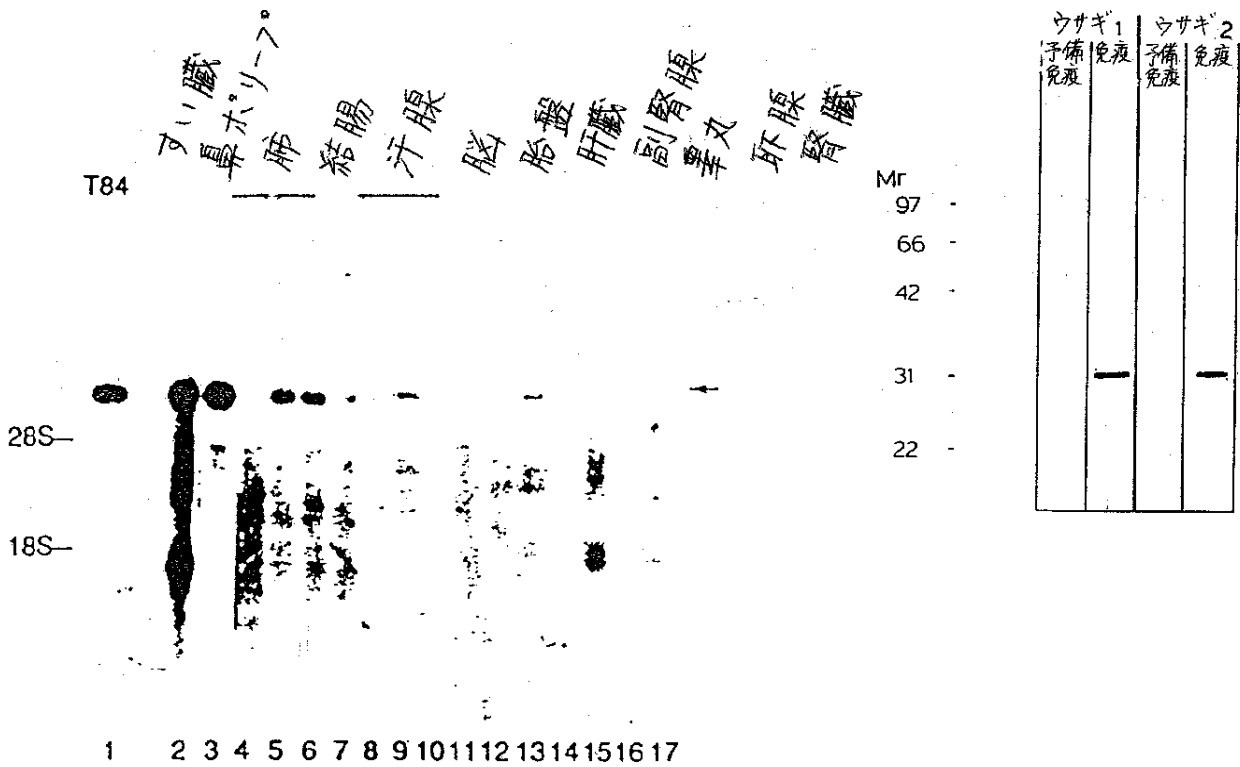
【第10B図】

【第10C】



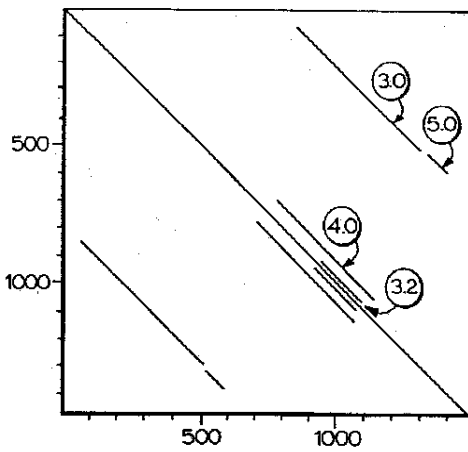
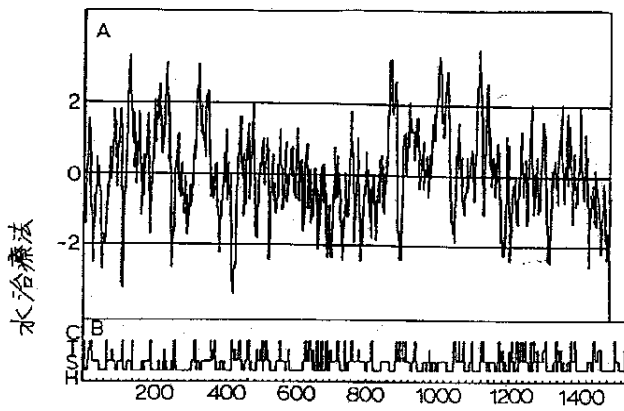
【第8図】

【第20図】



【第11図】

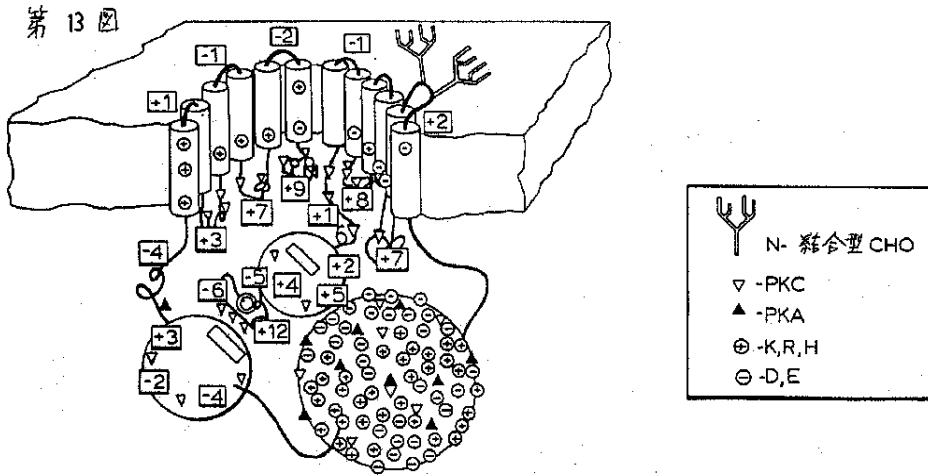
【第12図】



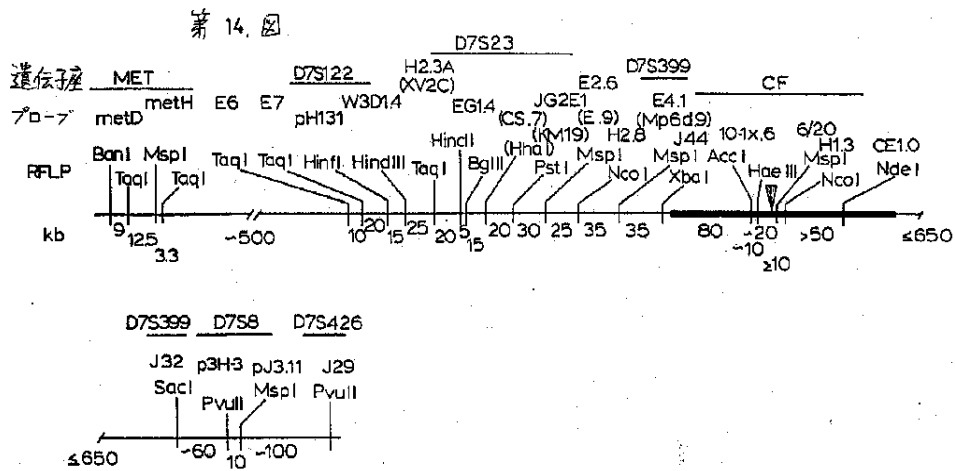
【第22図】

予備免疫	免疫	
ng	ng	
100	100	•
10	10	•
1	1	•
0.1	0.1	•
H P ₁ P ₂	H P ₁ P ₂	

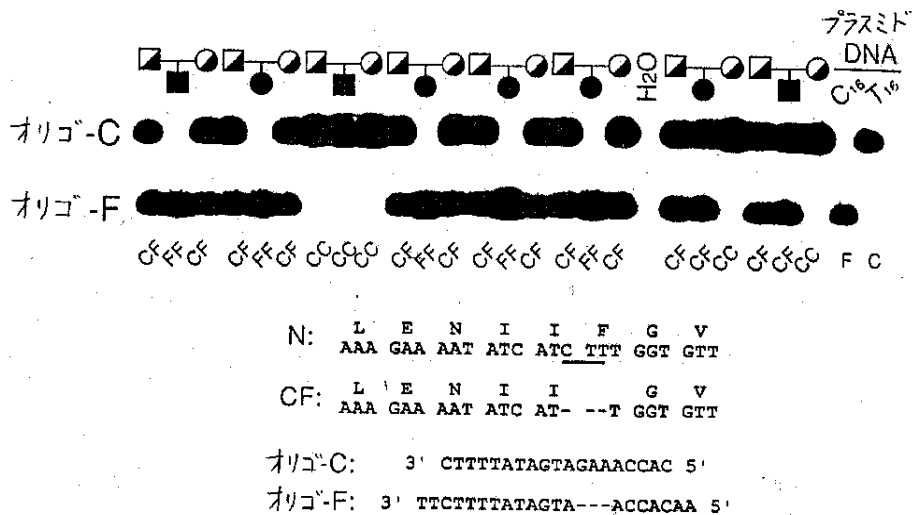
【第13図】



【第14図】



【第15図】



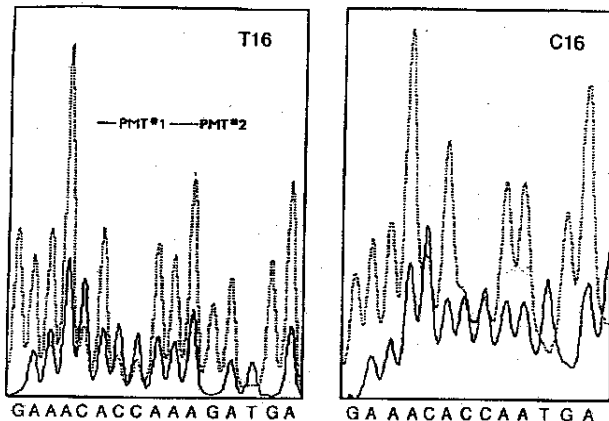
【FIG. 16A】

CFTR (N)	FSLLGTPVLKIDINFKIERGQLLAVAGSTGAGKTSLLMMIMG	ISFCSQFSWIMPGTIK-ENIIFGVSYD
CFTR (C)	YTEGGNAILENISFSISPGQRVGLLGRVSGSKSTLLSAFLR	DSITLQQWRKAFGVIPQKVFIFSGTFR
hmdr1 (N)	PSRKEVKILKGLNLRVQSGQTVALVGNSSGCGKSTTVQLMQR	IGVVSQEPVLFATTI-AENIRYGRNV
hmdr1 (C)	PTRPDIPVLQGLSLEVKGGQTLALVGNSSGCGKSTTVQLLER	LGIVSQEPILFDCSI-AENIAYGDNDR
hmdr1 (N)	PSRSEVQILKGLNLRVQSGQTVALVGNSSGCGKSTTVQLMQR	IGVVSQEPVLFATTI-AENIRYGRNV
hmdr1 (C)	PTRPNIPVLQGLSLEVKGGQTLALVGNSSGCGKSTTVQLLER	LGIVSQEPILFDCSI-AENIAYGDNDR
hmdr2 (N)	PSRANIKILKGLNLRVQSGQTVALVGNSSGCGKSTTVQLLOR	IGVVSQEPVLSFTTI-AENIRYGRNV
hmdr2 (C)	PTRANVPLQGLSLEVKGGQTLALVGNSSGCGKSTTVQLLER	LGIVSQEPILFDCSI-AENIAYGDNDR
p fmdr (N)	DTRKDVETIKDLSFTLLKEGKTYAFVGESEGGKSTILKLIET	IGVVSQEPVLSFTTI-AENIRYGRNV
p fmdr (C)	ISRPNVPIYKNSLFTCKSKTTAIVGETSGGKSTFMNLLLR	FSIVSQEPLFMNSI-YENIKFGREDA
STE6 (N)	PSRPEAVLKNVSLNFSAGQTFIVKSGSGKSTLNLNLLR	ITVVEQRCFTLNDTL-RKNILLGSTD
STE6 (C)	PSAPTAIFYKNNMDFMFCQQTGLIGESGKSTLVLLTK	ISVVEQKPELLNGTI-RDNLTYGLQDE
hlyB	YKPDSEVILDNINISIKQGEVIGVGRSGSKSTLKLQIR	VGVVLQDNVLRNSI-IDNLSLAPGMS
White	IPAPRKHLLKNVCGVAYPGELLAVMSSGAGKTTLLNALAF	RCAYVQQDDLF IGLIAREHLIFQAMVR
MbpX	KSIGNLKLDRVLSLYVPKFSLIALLGPGSGKSSLLRILAG	MSFVQHYALFKHMTVYENISFGLRLR
BtuD	QDVAESTRLGPLSGEVFRAGRIHLVGNPAGKSTLLARIAG	YLSQQQTPPFATPVVWHYTLHQHDKTR
PstB	FYVYGFHALKKNLDTAKNQVAFIPGSGCGKSTLLRTPNK	VMVFPKQPTFPMSI-YDNIAFGVRLF
hisP	RRYCGHEVLKGVSLQARAGVVISIIGSSGSGKSTFLRCINF	GIMVFPQHFNLWSHMTVLENVMEAPIQV
malK	KAWGEVVVSKDINIDHEGEFVVVPGSGCGKSTLLRMIAG	VMVFPQSYALYPLHSVAENMSFGLKPA
oppD	TPDGDVTAVNDLNFTRAGETLGLVGESEGGKSTAFALMG	ISMIFQDPMTSLNPFYMRVGEOLMEVEM
oppF	QPKTKLAVDGVTLRLYEGETLGVVGESEGGKSTFARAIIQ	IQMIFQDPLASLNPFRMTIGELIIEPLR
RbsA (N)	KAVPGKALSGAALNVYPGRVMALVGENGAGKSTMKVLTG	AGIINQENLIPQLTIAENIFLQRETV
RbsA (C)	VDNLGCGCVNDVSTFLRKEITLGVSLMAGRTEMLKVLVYG	ISEDRKRDGLVLMGSVKENMSLTAIYR
UvrA	LTGARCNLKDVTLPVLPVLFCTIGVSGSGKSTLINDTLF	TYTVFTVRELFAGVESHARGYTPG
NodI	KSYGCKIVVNDLSFTIAGECFGLLSPNGAGKSTIIRMLIG	IGIVSQEDNLDLEPTVRENLLVYGRFF
FtsE	AYLGGRQALQGVTFHMQPGEMAFITGHSAGKSTLLKLICG	IGMIFQDHHLLMDRTVYDVAIPLTIA

【FIG. 16B】

CFTR (N)	GEGGITLGGQRARISLARAVYKADLYLLDSDFGYLDVLTTEK
CFTR (C)	VDGCVLSSHGHKQMLCLARSVLSKAKILLLDEPSAHLDPVTYQ
hmdr1 (N)	GERGAQLSGGQKORIAIARALVRNPKILLLDEATSALDTESEK
hmdr1 (C)	GDKGTLTSGGQKORIAIARALVRPHILLLDEATSALDTESEK
hmdr1 (N)	GERGAQLSGGQKORIAIARALVRNPKILLLDEATSALDTESEK
hmdr1 (C)	GDKGTQLSGGQKORIAIARALVRPHILLLDEATSALDTESEK
hmdr2 (N)	GDRGAQLSGGQKORIAIARALVRNPKILLLDEATSALDTESEK
hmdr2 (C)	GDKGTQLSGGQKORIAIARALVRPHILLLDEATSALDTESEK
p fmdr (N)	GSNASKLGGQKORISIAIARIMRNPKILLLDEATSALDTESEK
p fmdr (C)	PYKGS-LSGGQKORIAIARALLREP KILLLDEATSALDTESEK
STE6 (N)	GTGGVTLGGQQQRVAIARAFIRDTPILFLDEAVSALDIVHRN
STE6 (C)	RIDTTLTSGGQAQRLCIARALLRKS KILLLDEATSALDTESEK
hlyB	GEQAGLSSGGQRORIAIARALVNNPKILLLDEATSALDYASEH
White	PGRVKGSLSGGERKRLAFASEALTDPPILLICDEPTSGLDSFTAH
MbpX	FEYPAQLSGGQKORVALARSIAIQPDLIL-DEPFGALDGEIRR
BtuD	GRSTNQLSGGEWQRVRLAAVVLQITILLLDEPMNSLDVAQQA
PstB	HQSGYSLSGGQQRLCIARGIATRPEVLLDEPCSALDPISTG
hisP	GKYPVHLSSGGQQRVSIARALAMEPDLVLEDEPTALDPELVG
malK	DRKPKALSGGQRORVAIGRTLVAEPSVFLLEDEPLSNLDAALRV
oppD	KMYPHEFSGCMRQRVMIAMALLCRPKLLIADPTALDVTVOA
oppF	NRYPHEFSGGQCORIGIARALILEPKLIICDDAVSALDVSIOA
RbsA (N)	DKLVGDLSIGDQQMVEIAKVLVSFESKVIIMDEPTCALIDTETE
RbsA (C)	EQAIGLSSGGNQQRVAIARGLMTRPKVLLDEPTPGVDVGAKK
UvrA	QOSATLSSGGEAQRVKLARELSKRGYILDEPTTGLHFADIQQ
NodI	NTRVADLSSGMKRRLLTAGALINDPQLLILDEPTTGLDHFARH
FtsE	KNFPIQLSSGGEQQRVGIARAVVNKPAVLLADEPTGNLDDALSE

【第17図】



【手続補正書】

【提出日】平成13年12月28日(2001.12.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 正常または変異囊胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質(CFTR)の製造法であって、

(a) 組換えクローニングベクターでトランスフェクシ

ョンされた宿主細胞を培地中で正常または変異CFTRタンパク質の発現に好ましい条件下で培養し、(b)発現された正常または変異CFTRタンパク質を単離する過程を有し、

前記組換えクローニングベクターが、

以下の(a)~(e)からなる群より選択されるDNA配列からなる精製DNA分子:

(a) 以下に示す配列1:

配列1:

【化1】

↑↑

```

1  AATGGAAAGCAAATGACATCACAGCAGGTCAGAGAAAAGGGTTGAGCGGCAGGCACCCA
61  GAGTAGTAGGTCTTTGGCATTAGGAGCTTGAGCCAGACGGCCCTAGCAGGGACCCACGC
121  GCCCAGAGACCATGACAGGTCGCCTCTGGAAAAGCCAGCGTTGTCTCCAAACTTTTT
181  TTCAGCTGGACCGACCAATTTGAGGAAAGGATACAGACAGCCGCTGGAATTGTCAGAC
241  IYQIPSVDSADNLS*EKLEHE 56
ATATACCAATCCCTCTCTGTTGATTCTGCTGACAATCTATCTGAAAAATGGAAAGAGAA
301  W D R E L A S K K K N P K L I N A L R R C 76
TGGGATAGAGAGCTGGCTTCAAAGAAAATCCTAAACTCATTAAATGCCCTTCGGCGATGT
361  F F W R F M F Y G I F L Y L G E V T K A 96
TTTTCTGGAGATTATGTTCTATGGAATCTTTTATATTTAGGGGAAGTCACCAAAGCA
421  V O P L L L G R I I A S Y D P D N K E E 116
GTACAGCCTCTTACTGGGAAGAATCATAGCTTCTCTATGACCCGGATAACAAGGAGGAA
481  R S I A I Y L G I G L C L L F I V R T L 136
CGCTCTATCGCGATTTATCTAGGCA TAGGCTTATGCCCTCTCTTATTTGTGAGGACACTG
541  L L H P A I F G L H H I G M Q M R I A M 156
CTCCTACACCCAGCCATTTTGGCCCTCATCACATGGAAATGAGATGAGAATAGCTATG
601  F S L I Y K K T L K L S S R V L D K I S 176
TTAGTTGATTTATAAGAAGACTTTAAAGCTGTCAGCCGTTCTAGATAAAAATAAGT
661  I G Q L V S L L S N N L N K F D E G L A 196
ATTGGACAACCTGTTAGTCTCCTTCCAAACACCTGAACAATTTGATGAAGGACTTGCA
721  L A H F V W I A P L O V A L L M G L I W 216
TTGGCACATTTGCTGTGGATCGCTCCTTTGCAAGTGGCACTCCTCATGGGGCTAATCTGG
781  E L L O A S A F C G L G F L I V L A L F 236
GAGTTGTCAGGCGCTCGCCTCTGTGGACTTGGTTTCTGATAGTCCCTTGGCCCTTTT
841  O A G L G R M M H K Y R D Q R A G K I S 256
CAGGCTGGCTAGGGAGAATGATGATGAAGTACAGAGATCAGAGAGCTGGGAAGATCAGT
901  E R L V I T S E M I E N I Q S V K A Y C 276
GAAAGACTTGTGATTACCTCAGAAATGATTGAAAATATCCAATCTGTTAAGGCATACTGC
961  W E E A M E K M I E N L R Q T E L K L T 296
TGGGAAGAAGCAATGGAAAAATGATTGAAAACCTTAAGACAAACAGAACTGAAACTGACT
1021  R K A A Y V R Y F N S S A F F F S G F F 316
CGGAAGGCAGCCTATGTGAGATACTCAATAGCTCAGCCTTCTTCTCTCAGGGTCTTT
1081  V V F L S V L P Y A L I N G I I L R K I 336
GTGGTGTTTTATCTGTGCTTCCCTATGCACTAATCAAAGGAATCATCCTCCGGAAAATA
1141  F T T I S P C I V L R M A V T R O F P W 356
TTCACCACCATCTCATTCTGCATTGTTCTGGCATGGCGGTCACCTCGGCAATTTCCCTGG
1201  A V Q T W Y D S L G A I N K I Q D F L Q 376
GCTGTACAAACATGGTATGACTCTCTTGGAGCAATAAACAATAACAGGATTTCTTACAA
1261  K Q E Y K T L E Y N L T T T E V V H E N 396
AAGCAAGAAATATAAGACATGGAAATATACTTAACGACTACAGAAGTAGTGATGGAGAAT
1321  V T A F W E E G F G G E L F E K A K Q N N 416
GTAACAGCCTTCTGGGAGGAGGATTTGGGAATTTTGGAAAGCAAAACAACAAT

```

【化2】

1381 N N R K T S N G D D S L F F S N F S L L 436
 AACAATAGAAAACCTCTAATGGTGATGACAGCCTCTCTCAGTAATTTCTCACTTCTT
 1441 G T P V L K D I N F K I E R G O L L A V 456
 GGTACTCCTGCTCTGAAAGATATTAATTTCAAGATAGAAAAGGACAGTGTGGGGT
 1501 A G S T G A G K T S L L M M I M G E L E 476
 GCTGGATCCACTGGAGCAGGCAAGACTTCACTTCTAATGATGATTATGGGAGAAGTGGAG
 1561 P S E G K I K H S G R I S F C S O F S W 496
 CCTCAGAGGGTAAAATTAAGCACAGTGGAGAATTTCAATTCGTCTCAGTTTCTCTGG
 1621 I M P G T I K E N I I F G V S Y D E Y R 516
 ATTATGCCTGGCACCATTAAAGAAAATATCATCTTTGGTGTTCCTATGATGAATATAGA
 1681 Y R S V I K A C O L E E I D I S K F A E K 536
 TACAGAAGCGTCATCAAAGCATGCCAAGTAGAAGAGACATCTCCAAGTTGCGAGAGAA
 1741 D N I V L G E G G I T L S G G O R A R I 556
 GACAATATAGTCTTGGAGAAGGTGGAATCACACTGAGTGGAGGCTCAACGAGCAAGAATT
 1801 S L A R A V Y K D A D L Y L L D S E F C 576
 TCTTAGCAGAGCAGTATACAAAGATGCTGATTGTATTATTAGACTCTCCTTTTGG
 1861 Y L D V L T E K E I F E S C V C K L M A 596
 TACCTAGATGTTTAAACAGAAAAGAAATATTTGAAAGCTGTGTCTGTAACATGATGGCT
 1921 N K T R I L V T S K M E H L K K A D K I 616
 AACRAAACTAGGATTTGGTCACTTCTAAAAAGAACATTTAAAGAAAGCTGACAAAATA
 1981 L I L H E G S S Y F Y G T F S E L Q N L 636
 TTAATTTGATGAAGTAGCAGCTATTTTTATGGGACATTTTCAGAACTCCAAATCTA
 2041 Q P D F S S K L M G C D S F D Q F S A E 656
 CAGCCAGACTTAGCTCAAACTCATGGGATGTGATTCTTTGACCAATTTAGTGCAAAA
 2101 R R N S I L T E T L H R F S L E G D A P 676
 AGAAGAAATCAATCCTAACTGAGACCTTACACCGTTCTCATAGAAAGGAGATGCTCCT
 2161 V S W T E T K K Q S F K Q T G E F G E K 696
 GTCTCCTGGACAGAAACAAAAACAATCTTTTAAACAGACTGGAGAGTTGGGGAAAAA
 2221 R K N S I L N P I N S I R K F S I V Q K 716
 AGGAAGAATCTATCTCAATCCAATCAACTCTATACGAAAATTTCCATTGTGCAAAAG
 2281 T P L Q M N G I E E D S D E P L E R R L 736
 ACTCCCTTACAAATGAATGGCATCGAAGAGGATCTGATGAGCCTTAGAGAGAAGGCTG
 2341 S L V P D S E O G E A I L P R I S V I S 756
 TCCTTAGTACCAGATTCTGAGCAGGAGAGGCGATACTGCCCTGCATCAGCGTATCAGC
 2401 T G P T L Q A R R R Q S V L N L M T H S 776
 ACTGGCCCCACGCTTCAGGCACGAAGGAGGAGTCTGTCTCTGAACCTGATGACACTCA
 2461 V N Q G Q N I H R K T T A S T R K V S L 796
 GTTAACCAAGTTCAGAACATTCACCGAAAGACACAGCATCCACGAAAAGTGTCACTG
 2521 A P Q A N L T E L D I Y S R R L S Q E T 816
 GCCCTCAGGCAACTTGACTGAAGTATATATTTCAAGAGGTTATCTCAAGAACT

【化3】

2581 G L E I S E E I N E E D L K E C F F D D 836
 GCCTTGGAAATAAGTGAAGAAATTAACGAAGAAGACTTAAAGGAGTGCCTTTTTTGTGAT

2641 H E S I P A V T T W N T Y L R Y I T V H 856
 ATGGAGAGCATACCAGCAGTGACTACATGGAACACATACCTTCGATATATTACTGTCCAC

2701 K S L I F V L I W C L V I F L A E V A A 876
 AAGAGCTTAATTTTTGTGCTAATTTGGTGTCTAGTAAATTTTCGGCRGAGGTGGCTGCT

2761 S L V V L W L L G M T P L Q D K G N S T 896
 TCTTTGGTTGTCTGTGGCTCCTTGAAAACACTCCTCTTCAAGACAAAGGAATAGTACT

2821 H S R N N S Y A V I I T S T S S Y Y V F 916
 CATAGTAGAAATAACAGCTATGCAGTGATTATCACCAGCACCAGTTCGTATTATGTGTTT

2881 Y I Y V G V A D T L L A M G F F R G L P 936
 TACATTTACGTGGAGTAGCCGACACTTTGCTTGTCTATGGGATTCCTTCAGAGGTCTACCA

2941 L V H T L I T V S K I L H H K M L H S V 956
 CTGGTGCATACTCTAATCACAGTGTGAAAATTTACACCACAAAATGTACATTCCTGT

3001 L Q A P H S T L N T L K A E G I L N R F 976
 CITCAAGCACCTATGTCAACCCTCAACACGTTGAAAAGCAGTGGGATTCCTAATAGATTC

3061 S K D I A I L D D L L P L T I F D F I Q 996
 TCCAAAGATATAGCAATTTGGATGACCTTCTGCCCTTACCATATTTGACTTCATCCAG

3121 L L L I V I G A I A V V A V I Q P Y I F 1016
 TTGTTAATAATTTGATTTGGAGCTATAGCAGTTGTCGCGAGTTTACAACCCTACATCTTT

3181 V A T V P V I V A F I M L R A Y F L Q T 1036
 GTTCAACAGTGCAGTGATAGTGGCTTTTATTATGTTGAGAGCATATTTCCCTCCAAACC

3241 S Q Q L K Q L E S E G R S P I F T H L V 1056
 TCACAGCAACTCAACAACCTGGAATCTGAAGCCAGGAGTCCAAATTTCACTCATCTTGT

3301 T S L K G L W T L R A F G R Q P Y F E T 1076
 ACAAGCTTAAAAGGACTATGGACACTTCGTGCCCTTCGGAAGCCAGCCTTACTTTGAAACT

3361 L F H K A L N L H T A N W F L Y L S T L 1096
 CTGTTCCACAAAGCTCTGAATTTACATACTGCCAACTGGTCTTGTACCTGTCAACACTG

3421 R W F Q M R I E M I F V I P P I A V T F 1116
 CGCTGGTTCCAATGAGAATAGAAATGATTTTGTGATCTTCTTCTTCTTCTTCTTCTTCT

3481 I S I L T T G E G E G R V G I I L T L A 1136
 ATTTCCATTTTACAACAGGAGAAGGAGAGGAAGAGTGGTATTATCTGACTTTAGCC

3541 H N I M S T L O W A V N S S I D V D S I 1156
 ATGAATATCATGAGTACATTTGCAGTGGGCTGTAACCTCCAGCATAGATGGATAGCTTB

3601 M R S V S R V F K F I D M P T E G K P T 1176
 ATGCGATCTGTGAGCCGAGTCTTTAAGTTCATTGACATGCCAACAGAAAGSTAAACCTACC

3661 K S T K P Y K N G O L S K V M I I E N S 1196
 AAGTCAACCAACCATACAAGAATGGCCAACCTCTCGAAAGTATTGATTATTGAGAATTCA

3721 H V K K D D I W P S G G Q M T V K D L T 1216
 CACGTGAAGAAAGATGACATCTGGCCCTCAGGGGGCCAAATGACGTCAAAGATCTCACA

3781 A K Y T E G G N A I L E N I S F S I S P 1236
 GCAAAATACACAGAAGGTGGAATGCCATATTAGAGAACATTTCTTCTCAATAAGTCTT

3841 G Q R V G L L G R T G S G K S T L L S A 1256
 GGCCAGAGGTGGGCCCTTGGGAAGAACTGGATCAGGGAAGAGTACTTTGTTATCAGCT

【化4】

3901 F L R L L N T E G E I Q I D G V S W D S 1276
 TTTTGGACTACTGAACACTGAAGGAGAAATCCAGATCGATGGTGTCTTGGGATTCA
 3961 I T L Q Q H R K A F G V I P Q K V F I F 1296
 ATAACCTTGGCAACAGTGGAGGAAAGCCTTTGGAGTGATACCCACAGAAAGTATTATTTT
 4021 S G T F R K N L D P Y E Q W S D Q E I W 1316
 TCTGGAACATTTAGAAAAACTTGGATCCCTATGAACAGTGGAGTGATCAAGAAATATGG
 4081 K V A D E V G L R S V I E Q F P G K L D 1336
 AAAGTTGCAGATGAGCTTGGGCTCAGATCTGTGATAGAACAGTTTCTGGGAAGCTTGAC
 4141 F V L V D G G C V L S H G H K Q L M C L 1356
 TTTGTCCTTGTGGATGGGGCTGTGTCTTAAGCCATGGCCACAAGCAGTTGATGTGCTTG
 4201 A R S V L S K A K I L L L D E F S A H L 1376
 GCTAGATCTGTTCTCAGTAAGGCGAAGATCTTGTGCTGATGAACCCAGTGCCTCATTG
 4261 D P V T Y Q I I R R T L K Q A F A D C T 1396
 GATCCAGTACATACCAAATAATTAGAAAGACTCTAAAACAGCATTGCTGATTGACCA
 4321 V I L C E H R I E A M L E C Q Q F L V I 1416
 GTAATTCCTGTGTAACACAGGATAGAAGCAATGCTGGAATGCCAACAAATTTTGTGCATA
 4381 E E N K V R Q Y D S I Q K L L N E R S L 1436
 GAAGAGAACAAGTGCAGCAGTCCATCCAGAACTGTGTAACGAGAGGAGCCCTC
 4441 F R Q A I S P S D R V K L F P H R N S S 1456
 TTCCGGCAAGCCATCAGCCCTCCGACAGGGTGAAGCTCTTCCCCACCGAACTCAAGC
 4501 K C K S K P Q I A A L K E E T E E E V Q 1476
 AAGTGAAGTCTAAGCCCAAGATTCCTGCTCTGAAAGAGGAGACAGAAAGAGGTGCAA
 D T R L = 1480

のアミノ酸残基位置1から1480までに対応するDNA配列、(b)上記配列1のアミノ酸残基位置1から1480までの配列を有する正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質(CFTR)をコードするDNA配列、(c)上記配列1のアミノ酸残基位置1と1480の間にある少なくとも16個の連続するヌクレオチドからなる一部分のDNA配列、(d)少なくとも16個のヌクレオチドからなり、上記配列1のアミノ酸配列の部分断片をコードするDNA配列および(e)上記配列1のアミノ酸残基位置1と1480の間の少なくとも18個の連続するヌクレオチドによってコードされるエピトープを含む以下の部分:アミノ酸残基204~249の配列、アミノ酸残基347~698の配列、アミノ酸残基710~757の配列、アミノ酸残基758~796の配列、アミノ酸残基1188~1480の配列、アミノ酸残基28~45の配列、アミノ酸残基58~75の配列、アミノ酸残基104~117の配列、アミノ酸残基139~153の配列、アミノ酸残基279~294の配列、アミノ酸残基500~512の配列、アミノ酸残基725~739の配列、アミノ酸残基933~946の配列またはアミノ酸残基1066~1084の配列をコードするDNA配列;及び(f)前記(a)、(b)または(c)の精製DNA分子であって、更にヒト体細胞内で発現した際に嚢胞性線維症に関連する細胞機能の変化に関するDNA配列の変化、欠損または非機能性変異部分を含み、該DNAの変化、欠損または非機能性変異部分が、前記配列1におけるアミノ酸残基位置508のフェニルアラニン残基をコードするヌクレオチドの欠失を含む精製DNA分子;から選択された精製DNA分子を含むことを特徴とする正常または変異CFTRタンパク質の製造方法。

【請求項2】 約170,000ダルトンのペプチド分子量、および細胞膜透過イオンコンダクタンス作用活性

を有し、請求項1に記載の配列1におけるアミノ酸残基1~1480のアミノ酸配列を有する精製された正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質。

【請求項3】 約170,000ダルトンのペプチド分子量、および細胞膜透過イオンコンダクタンス作用活性を有し、請求項1の配列1におけるアミノ酸残基1~1480のアミノ酸配列を有する精製された正常な嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質の変異体であって、アミノ酸残基位置508のフェニルアラニンの欠失を含み、ヒト細胞中での嚢胞性線維形成活性を有する、精製された変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質。

【請求項4】 請求項1の(a)~(f)から選択されたDNA配列にコードされ、正常または変異嚢胞性線維症膜通過伝導率制御タンパク質(CFTR)の免疫学的または生物学的活性を示すポリペプチド。

【請求項5】 請求項4の正常または変異CFTRタンパク質を該タンパク質を含む細胞から単離する方法であって、(a)該正常または変異CFTRタンパク質が発現している細胞の選択された細胞膜にあるタンパク質を可溶化して、該CFTRタンパク質の溶液を提供し、

(b)基体に固定された該正常または変異CFTRタンパク質に対する抗体に、該溶液を接触させて、該溶液から該CFTRタンパク質を分離し、(c)該基体を洗浄して該抗体に結合しなかったタンパク質を除去し、

(d)該抗体から該CFTRタンパク質を離して、該CFTRタンパク質を単離し、(e)該CFTRタンパク質を精製して、他の残留している哺乳動物性タンパク質を除去する過程を有する正常または変異CFTRタンパク質の単離方法。

【請求項6】 請求項2または3に記載の正常または変異CFTRタンパク質に特異的なモノクローナル抗体を生産するハイブリドーマ。

【請求項7】 請求項1の組換えクローニングベクター

を含む異種細胞系を有し、該ベクターが嚢胞性線維症の症候を誘導するものであるヒトを除く動物。

【補正方法】追加

【補正内容】

【手続補正2】

【図33】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図33

↑↑

1 AATTGGAAGCAAATGACATCACAGCAGGTCAGAGAAAAAGGTTGAGCGGCAGGCACCCA

61 GAGTAGTAGGCTCTTGGCATTAGGAGCTTGAGCCCAGACGGCCCTAGCAGGGACCCCAGC

121 GCCCAGAGACCATGACAGGTCGCCCTCGGAAAAGCCAGCGTGTCTCCAACCTTTT 16

M Q R S P L E K A S V V S K L F

181 F S W T R P I L R K G Y R Q R L E L S D 36

181 TTCACCTGGACCAGACCAATTTGAGGAAAGGATACAGACAGCGCCTGGAATTGTCAGAC

241 I Y Q I P S V D S A D N L S E K L E H E 56

241 ATATACCAAAATCCCTTCTGTGATTCTGCTGACAATCTATCTGAAAAATGGAAAAGAGAA

301 W D R E L A S K K N P K L I N A L R R C 76

301 TGGATAGAGAGCTGGCTTCAAAGAAAAATCCTAAACTCATTAAATGCCCTTCGGCGATGT

361 F F W R F M F Y G I P L Y L G E V T K A 96

361 TTTTCTGGAGATTATGTTCTATGGAATCTTTTATATTAGGGGAAGTCACCAAAAGCA

421 V Q P L L L G R I I A S Y D P D N K E E 116

421 GTACAGCCTCTCTACTGGGAAGAAATCATAGCTTCCTATGACCCGGATAACAAGGAGGAA

481 R S I A I Y L G I G L C L L F I V R T L 136

481 CGCTCTATCCGATTTATCTAGGCATAGGCTTATGCCTCTCTTTATTGTGAGGACACTG

541 L L H P A I F G L H H I G M Q M R I A M 156

541 CTCTACACCCAGCCATTTTGGCCTTCATCACATTGGAATGCAGATGAGAAATAGCTATG

601 F S L I Y K K I T L K L S S R V L D K I S 176

601 TTTAGTTGATTTATAAGAAGACTTTAAAGCTGTCAAGCCGTGTTCTAGATAAAAATAGT

661 I G Q L V S L S N N L N K F D E G L A 196

661 ATTGACAACTTGTTAGTCTCCTTCCAACAACCTGAACAATAATTGATGAAAGACTTGCA

721 L A H F V N I A P L O V A L L M G L I W 216

721 TTGGCACATTCGTGTGGATGCTCCTTGCAGTGGCACTCCTCATGGGGCTAATCTGG

781 E L L Q A S A F C G L G F L I V L A L F 236

781 GAGTTGTTACAGGCGTCTGCCCTCTGTGGACTTGGTTCTCTGATAGTCTTGGCCCTTTT

841 O A G L G R M M M K Y R D Q R A G K I S 256

841 CAGGCTGGGCTAGGGAATGATGATGAAGTACAGAGATCAGAGAGCTGGGAAGATCAGT

901 E R L V I T S E H I E N I Q S V K A Y C 276

901 GAAAGACTTGTGATTACCTCAGAAATGATTGAAAATATCCAATCTGTTAAGGCATACTGC

961 W E E A M E K M I E N L R Q T E L K L T 296

961 TGGGAGAAGCAATGGAAAAATGATTGAAAACITAAAGCAACAGAACTGAAACTGACT

1021 R K A A Y V R Y F N S S A F F F S G F F 316

1021 CGGAAGGCAGCCTATGTGAGACTTCAATAGCTCAGCCTTCTTCTCTCAGGGTCTTT

1081 V V F L S V L P Y A L I K G I I L R K I I 336

1081 GTGGTGTTTTATCTGTGCTTCCCTATGCCTAATCAAAGGAATCATCCTCCGAAAATA

1141 F T T I S F C I V L R M A V T R Q F P W 356

1141 TTCACCACCATCTCATTCTGCATTGTCTCGCCATGGCGGTCACTCGGCAATTTCCCTGG

1201 A V Q T W Y D S L G A I N K I Q D F L O 376

1201 GCTGTACAAACATGGTATGACTCTCTGGAGCAATAAACAATAACAGGATTTCTTACAA

1261 K Q E Y K T L E Y N L T T T E V V M E N 396

1261 AAGCAAGATATAAGACATTGGAATATAACTTAACGACTACAGAAGTAGTGATGGAGAAT

1321 V T A F W E E G F G E L F E K A K Q N N 416

1321 GTAACAGCCTTCTGGGAGGAGTGATTGGGAATTATTGAGAAAGCAAAAACAAACAAAT

【手続補正3】

【補正内容】

【補正対象書類名】明細書

【図34】

【補正対象項目名】図34

【補正方法】追加

1381 N N R K T S N G D D S L F F S N F S L L 436
 AACAAATAGAAAACCTTCTAATGGTGATGACAGCCCTCTTCTCAGTAAATTCCTCAGTTCTT
 1441 G T P V L K D I N F K I E R G O L L A V 456
 GGTACTCCTGTCTGAAAGATATTAATTCAGATAGAAAAGAGGACAGTTGTTGGCGGTT
 1501 A G S T G A G K I T S L L H M I H G E L E 476
 GCTGGATCCACTGGAGCAGGCAAGACTTCACITCTAATGATGATTATGGGAGAACTGGAG
 1561 P S E G K I K E S G R I S Y C S O F S W 496
 CCTTCAGAGGGTAAAATTAAGCACAGTGGAGAATTTCAATCTGTCTCAGTTTCCCTGG
 1621 I M P G T I K E N I I P G V S Y D E Y R 516
 ATTATGCCCTGGCACCATTAAAGAAAATATCATCTTTGGTGTTCCTATGATGAATATAGA
 1681 Y R S V I K A C O L E E I D I S K F A E K 536
 TCACAGAAGCGTCATAAGCATGCCAAGTAGAAGAGGACATCTCCAAGTTGCAGAGAAA
 1741 D N I V L G E G G I T L S G Q R A R I 556
 GACAATATAGTTCTTGGAGAAGGTGGAATCACACTGAGTGGAGGTCACAGCAAGAAAT
 1801 S L A N A V Y K D A D L Y L L D S P F G 576
 TCTTTAGCAAGGAGCAGTATACAAAGATGCTGATTGTATTATTAGACTCTCCTTTTGGAA
 1861 Y L D V L T E K E I F E S C V C K L M A 596
 TACCTAGATGTTTAAACAGAAAAGAAAATATTGAAAGCTGTGTCTGTAACCTGATGGGT
 1921 N K T R I L V T S K M E H L K K A D K I 616
 AACAAACTAGGATTTGGTCACITCTAAAATGGAACATTTAAAGAAAAGCTGACAAAATA
 1981 L I L H E G S S Y F Y G T F S E L Q N L 636
 TAAATTTGCATGAAGGTAGCAGCTATTTTATGGGACATTTTCAGAAGCTCCAAAATCTA
 2041 Q P D F S S K L M G C D S F D Q F S A E 656
 CAGCCAGACTTGTAGCTCAAACTCATGGGATGTGATTCTTTCCGACCAATTTAGTGCAGAA
 2101 R R N S I L T E T L H R F S L E G D A P 676
 AGAAGAAATTCATCCTAAGTACTGAGACCTTACACCGITTCATTAGAAGGAGATGCTCCT
 2161 V S W T E T K K Q S P K Q T G E F G E K 696
 GTCTCCTGGACAGAAAACAAAACAATCTTTTAAACAGACTGGAGAGTTGGGGAAAAA
 2221 R K N S I L N P I N S I R K F S I V Q K 716
 AGGAAGAATTCATCTCAATCCAATCAACTCTATACGAAAATTTCCATTGTGCAAAAAG
 2281 T P L Q M N G I E E D S D E P L E R R L 736
 ACTCCCTTACAAAATGAATGCCATCGAAGAGGATTCGTATGAGCCTTTAGAGAGAAGGCTG
 2341 S L V P D S E Q G E A I L P R I S V I S 756
 TCCTTAGTACCAGATTCTGAGCAGGGAGAGGGGATACTGCCTGCATCAGCGTATCAGC
 2401 T G P T L Q A R R R Q S V L N L M T H S 776
 ACTGGCCCCACGCTTCAGGCACGAAGGAGGAGCTGTCTGTAACCTGATGACACACTCA
 2461 V N Q G Q N I H R K T T A S T R K V S L 796
 GTTAACCAAGGTCAGAACATTCACCGAAAGACAACAGCATCCACACGAAAAGTGTCACTG
 2521 A P Q A N L T E L D I Y S R R L S Q E T 816
 GCCCCTCAGGCAAACTTGAAGTGAATATATATTCAAGAAGGTTATCTCAAGAAAAT

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図35

【補正方法】追加

【補正内容】

【図35】

2581 G L E I S E E I N E E D L K | E C F F D D 836
GCCTTGGAAATAAGTGAAGAAATTAACGARGAAGACTTAAAGGAGTGCCTTTTTTGATGAT

2641 M E S I P A V T T W N T Y L R Y I T V H 856
ATGGAGAGCATACCAGCAGTACTACATGGAACACATACCTTCGATATATTACTGTCCAC

2701 K S L I F V L I W C L V I F L A E V A A 876
AAGAGCTTAATTTTGTGCTAATTTGGTGCCTAGTAATTTTCTGGCAGAGGTGGCTGCT

2761 S L V V L W L L G N T P L Q D K G N S T 896
TCITGGTGTGCTGTGGCTCCTTGGAAACACTCCTCTCAAGACAAAGGGAAATAGTACT

2821 H S R N N S Y A V I I T S T S S Y Y V F 916
CATAGTAGAAAATAACAGCTATGCAGTGATTATCACCAGCACCAGTTCGTATTATGTGTTT

2881 Y I Y V G V A D T L L A M G F F R G L P 936
TACATTTACGTGGAGTAGCCGACACTTTGCTTGCATGGGATTCCTCAGAGGTCTACCA

2941 L V H T L I T V S K I L H H K M L H S V 956
CTGGTGCACTCTAATCACAGTGTGAAATTTTACACCACAAATGTTACATTCGTGT

3001 L O A P M S T L N T L K A G G I L N R F 976
CTCAAGCACCTATGTCAACCCCTCAACACGTTGAAAGCAGTGGGATTCCTAATAGATTC

3061 S K D I A I L D D L L P L T I F D F I O 996
TCCAAAGATATAGCAATTTGGATGACCTTCTGCTTACCATAATTGGACTTCATCCAG

3121 L L L I V I G A I A V V A V I Q P Y I F 1016
TTGTTATTAATTTGTGATGGAGCTATAGCAGTGTGCGCAGTTTACAACCTACATCTTT

3181 V A T V P V I V A F I M L R A Y F L Q T 1036
GTTGCAACAGTCCAGTGATAGTGGCTTTTATTATGTTGAGAGCATATTTCTCCAAACC

3241 S O Q L K O L E S E G R S P I F T H L V 1056
TCACAGCACTCAACAACCTGGAATCTGAAGGCAGGAGTCCAAATTTCACTCATCTGTT

3301 T S L K G L W T L R A F G R O P Y F E T 1076
ACAAGCTTAAAGGACTATGGACTTCGTGCTTCGGACGGCAGCCTTACTTTGAAACT

3361 L F H K A L N L H T A N W F L Y L S T L 1096
CTGTTCCCAAAGCTCTGAATTTACATACTGCCAACTGGTCTTGTACCTGTCAACACTG

3421 R W F Q M R I E M I P V I P P I A V T F 1116
CGCTGGTTCCAAATGAGAATAGAAATGATTTTGTGATCTTCTTCAATGCTGTACCTTC

3481 I S I L T T G E G E G V G I I L T L A 1136
ATTTCCATTTTAAACAACAGGAGAAGGAGAAGGAGAGTGGTATTATCCTGACTTTAGCC

3541 M N I M S T L O W A V N S S I D V D S L 1156
ATGAATATCATGACTACATTTGCAGTGGGCTGTAAACTCCAGCATAGATGGATAGCTTS

3601 M R S V S R V F K F I D H P T E G K P T 1176
ATGGGATCTGTGAGCCGAGTCTTTAAGTTCATTGACATGCCAACAGAAGGTAAACCTTACC

3661 K S T K P Y K N G O L S K V M I I E N S 1196
AAGTCAACCAACCATAACAAGAATGGCCAACTCTCGAAAGTATGATTATTGAGAATCA

3721 H V K K D D I W P S G G Q H T V K D L T 1216
CACGTGAAGAAGATGACATCTGGCCCTCAGGGGCCAAATGACTGTCAAAGATCTCACA

3781 A K Y T E G C H A I L E N I S F S I S P 1236
GCAAAATACACAGAAGGTGGAAATGCCATATTAGAGAACATTTCTTCTCAATAAGTCCCT

3841 G O R I V G L L G R T G S G K S T L L S A 1256
GGCCAGAGGTGGGCTCTTGGGAAGAACTGGATCAGGGAAGAGTACTTTGTTATCAGCT

【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】図36
【補正方法】追加

【補正内容】
【図36】

F L R L L N T E G E I Q I D G V S W D S 1276
 3901 TTTTGGACTACTGAACACTGAAGGAGAAATCCAGATCGATGGTGTCTTGGGATTCA
I T L Q Q W R K A F G V I P O K V F I F 1296
 3961 ATAACCTTGGCAACAGTGGAGGAAAGCCCTTGGAGTGATACCACAGAAAGTATTTATTTT
S G T F R K N L D P Y E Q W S D O E I W 1316
 4021 TCTGGAACATTTAGAAAACCTGGATCCCTATGAACAGTGGAGTGATCAAGAAATATGG
K V A D E I V G L R S V I E O F P G K L D 1336
 4081 AAAGTTGCAGATGAGTGGGCTCAGATCTGTGATAGAACAGTTCCCTGGGAAGCTTGAC
F V L V D G G C V L E H G H K O L M C L 1356
 4141 TTTGTCTTGGATGGGGCTGTCTCCTAAGCCATGGCCACAAGCAGTTGATGTGCTTG
A R S V I S K A K I L L L L D E P S A H L 1376
 4201 GCTAGATCTGTTCTCAGTAAGCGAAGATCTTCTGCTTGATGAACCCAGTGCCTCATTG
D E V T Y Q I I R R T L K Q A F A D C T 1396
 4261 GATCCAGTACATACCAATAATTAGAAGAACTTAAACCAAGCATTGCTGATTGCACA
V I L C E H R I E A M L E C Q Q F L V I 1416
 4321 GTAATCTCTGTGAACACAGGATAGAAGCAATGCTGGAATGCCAACATTTTGTGCATA
E E N K V R Q Y D S I Q K L L N E R S L 1436
 4381 GAAGAGAACAAAGTGGGGCAGTACGATTCCATCCAGAACTGCTGAACGAGAGGAGCCTC
F R Q A I S P S D R V K L F P H R N S S 1456
 4441 TTCCGGCAAGCCATCAGCCCTCCGACAGGGTGAAGCTCTTCCACCAGGAACTCAAGC
K C K S K P Q I A A L K E E T E E E V Q 1476
 4501 AAGTCAAGTCTAAGCCCCAGATTGCTGCTCTGAAAAGAGGAGACAGAAGAGAGGTGCAA
D T R L - 1480
 4561 GATACAAGCCTTAGAGAGCAGCATAAATGTTGACATGGGACATTTGCTCATGGAATGG
 4621 AGCTCGTGGACAGTCACTCAAGGAAITGGAGCTCGTGGAACAGTTACCTTGCCTCAG
 4681 AAAACRAGGATGAATTAAGTTTTTTTAAAAAGAAACATTTGGTAAGGGGAATTGAGG
 4741 ACATGATATGGGCTGTGATAAATGGCTTCTGGCAATAGTCAAATTTGTGAAAGGTAC
 4801 TTCAAATCCTTGAAGATTTACCACTTGTGTTTGGCAAGCCAGATTTTCTGAAAACCTT
 4861 GCCATGTGCTAGTAATGGAAAGGCAGCTCTAAATGTCAATCAGCCTAGTGTGATCAGCTT
 4921 ATFTGCTAGTGAACCTCGTTAATTTGTAAGTGTGGAGAACACTGAAATCATACTTCTTA
 4981 CGGTATGATTAAGTAATGATAACTGGAACCTCAGCGGTTATATAAGCTTGTATTCTT
 5041 TTTTCTCCTCTCCCATGATGTTAGAAACACAACTATATGTTGGTAAAGCATTCCA
 5101 ACTATCTCATTTCCAAGCAAGTATTAGATACCCAGGAACCAAGACTGCACATCAA
 5161 ATATGCCCATCAACATCTAGTGAGCAGTCAAGAAAGAGAACTTCCAGATCTTGGAAAT
 5221 CAGGGTATGATTTGTCCAGGCTTACCAAAATCTCAATATTTAGATAATCACAATACAT
 5281 CCCTTACCTGGGAAAGGGCTGTATAATCTTTCACAGGGGACAGGATGGTCCCTTGATG
 5341 AAGAAGTTGATATGCCCTTTCCCACTCCAGAAAGTGACAGCTCAGACCTTTGAACT
 5401 AGAGTTTAGCTGAAAAGTATGTTAGTGCAATTTGTACAGGACAGCCCTTCTTCCACA
 5461 GAAGTCCAGGTAGAGGGTGTGTAAGTATAGGCAAGGCAAGGCACTGTGGGTAGACACACA
 5521 TGAAGTCCAAGCATTAGATGTATAGGTTGATGGTGGTATGTTTTCAGGCTAGATGTATG
 5581 TACTTCATGCTGTCTACATTAAGAGAGAAATGAGACACACTGAAGAGCCCAATCATG
 5641 AATTAGTTTATATGCTTCTGTTTATAATTTGTAAGCAAAATTTTCTCTAGGAAA
 5701 TATTTATTTAAATGTTTCAACATATATTACAATGCTGATTTTAAAAAGAAATGATTA
 5761 TGAATTACATTTGTATAAAATAATTTTATATTTGAAATATTGACTTTTATGGCACTAG
 5821 TATTTTATGAATATATTGTTAAACTGGGACAGGGGAGAACCTAGGGTATATTAAAC
 5881 AGGGCCATGAATCACCTTTTGGCTGGAGGGAAGCCCTTGGGGCTGATCGAGTTGTGGC
 5941 CACAGCTGATGATTTCCAGCCAGACACAGCCCTTAGATGCGCTTCTGAAGAGATGGT
 6001 ACCACCAGTCTGACTGTTTCCATCAAGGATACATGCTTCTCAACTCCAACTGACTCT
 6061 TAAGAAGACTGCATTATATTTATTACTGTAAGAAATATCACTTGTCAATAAAATCCATA
 6121 CATTGTGT (A) n

【手続補正書】

【提出日】平成14年5月17日(2002. 5. 17)

【手続補正2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図23

【補正方法】追加

【補正内容】

【図23】

```

1 AATTGGAGCAAATGACATCACAGCAGGTGAGGAAAAGGGTTGAGCGGCAGGCACCCA
61 GAGTAGTAGGCTTTGGCATTAGGAGCTTGAGCCAGACGGCCCTAGCAGGGACCCGAG
121 M O R S P L E K A S V V S K L F 16
GCCCGAGAGACCATGCAGAGGTGCTCTGGAAAAGGCCAGCCCTTGTCTCCAAACTTTT
F I M T R P I L R K G Y R Q R L E L S D 36
181 TTCACCTGGGCCAGACCAATTTTGAGGAAGGATACAGACAGCCCTGGAAATGTCAGAC
I Y Q I P S V D S A D N L S E K L E H E 56
241 AATAACCAAATCCCTTCTGTGATTCGTGACAAATCTATCTGAAAATTTGAAAGAGAA
W D R E L A S K K N P K L I N A L R R C 76
301 TGGATGAGAGCTGGCTTCAGAGAAAATCTAAACTCATTAATGCCCTTGGCGATGT
F F W R F M F Y G I P L V L G E V T K A 96
361 TTTTCTGAGATTATGTTCTATGGAATCTTTTATATTAGGGGAAGTCACCAAGCA
V O P L L L G R I I A S Y D P D N K E E 116
421 GTACGCCCTCTTACTGGGAAGAAATCATAGCTTCCTATGACCCGGATAACAAGGGAGAA
R S I A I Y L G I G L C L L E I V R T L 136
481 CGCTATATGCGATTATCTAGGCATAGGCTTATGCCCTCTCTTTATTTGTGAGCACTG
I L H P A I F G L H H I G H Q M R I A M 156
541 CTCTACACCCAGCCATTTTGGCCCTCATCATGGAATGCGAGATGAGAAATAGCTATG
F S L I Y K K I T L K L S S R V L D K I S 176
601 TTAGTTGATTTATAAGAAGACTTAAAGCTCAAGCCGCTTCTAGATAAATAAGT
I G Q L V S L L S N Y L N K F D E C L A 196
661 ATTGACACTTGTATGCTCTCTTCCAAACCTGAACAAATTTGATGAAAGACTTGA
Y A R F V W J A P L O V A L L M G L I W 216
721 TTGGCAATTCGTGTGGATGCTCTTTCAGTGGCACTCCTCATGGGCTAACTGG
E L L Q A S A F C G L G F L I V L A L F 236
781 GAGTTGTTACAGCCCTCTGCTACTGAGACTTGGTTTCTGTAGTCTCTGCCCTTTT
Q A G L Q R H N H K Y R D Q R A G K I S 256
841 CAGCTGGGCTAGGGAAATGATGATGAAGTACAGAGATCAGAGACTGGGAAGATCACT
E R L V I T S E M I E N I Q S V K A Y C 276
901 GAAAGACTTGTGATTACCTCAGAAATGATGAAATATCCAATCTGTTAAGGCATACTGC
W E E A N E K M I E N L R Q T E L K L T 296
961 TGGGAAGAACCAATGGAAAATGATGAAAATTAAGACAAACAGAACTGAAACTGACT
R K A A Y V R Y F N S E A P F F S G F F 316
1021 CGAAGCCAGCCATGTGAGACTTCAATAGCTCAGCCTCTCTCTCAGGGTTCTTT
V V F L S V L P V A L L M G I I L R K I 336
1081 GTGGTCTTTTATCAGTCTTCCCTATGCAATCAAGGAATCATCTCCGGAAAATA
F T T I S F C I V L R M A V T R O F P W 356
1141 TTCACCACCATCTCATTCTGATTTGTTCTGGCAATGGCGGTCACTGGCAATTTCCCTGG
A V Q T W Y D S L G A I N K I Q D F L Q 376
1201 SCTGTACAACATGGTATGACTCTCTGGAGCAATAACAAAATACAGATTTCTTACAA
K Q E Y K T L E Y N L T T T E V V M E N 396
1261 AAGCAAGAAATAAGACATTOGAATATAACTTAACGACTACAGAGTAGTATGGAGAA
V T A F W E E C F G E I P E K A K Q N N 416
1321 GTAACGCCCTCTGGGAGGAGATTGGGGAATATTGAGAAAGCAAAAACAACAAAT

```

【手続補正3】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図24

【補正方法】追加
 【補正内容】
 【図24】

1381 N N R K T S N G D D S L F F S N Y S L L 436
 A R C A A T A G A A A A C T T C T A A T G G T G A T G A C A G C C T C T T C T C A G T A A T T C T C A C T T C T T
 1441 G T P V L K D I W F K I E R G Q L L A V 456
 G G T A C T C C T G C C T C A A A G A T A T A A T T C A A G A T A G A A A G G A C A G T T G T T G C C G G T T
 1501 A G E T G A G E H T S L L M N I H G E L E 476
 G C T G G A T C C A C T G G A C C A G C A R E A C T T C A C T T C T A A T G A T G A T T A T G G G A G A A C T G G A G
 1561 F S E G K I E H S G R I S F C H O F S W 496
 C C T T C A G A G G G T A A A A T T A A G C A C A G T G A A A A T T C A T T C T G T T C T C A G T T T C C T G G
 1621 I M P G S I K E N I I T G V S Y D M Y R 516
 A T T A T G C C T G G C A C C A T T A A G A A A A T A T C A T C T T G G G T T C C T A T G A T G A A T A T A G A
 1681 Y R S V I K A C O L E E I D I S K F A N K 536
 T A C A G A A G C G T C A T C A A A G C A T G C C A C T A G A A G A G A C A T C C C A A G T T T C A G A G A A A
 1741 D N I V L G E G G I T L S G G O R A R I 556
 G A C A A T A T A G T C T T G G A G A A G G T G G A A T C A C A C T G A G T G G A G G T C A A C G A G C A A G A A T T
 1801 S L A N A V Y K D R D L Y L L D S F F G 576
 T C T T A G C A N G A C A G C A T A T A C A A A G A T C G C T A T T G T A T T A T A G A C T C C C T T T T G G A
 1861 Y L D V L T E K E I F E H C V C K L M A 596
 T A C T A G A T G T T T A C A G A A A A G A A A T T T S A A A G T G T G T C T G T A A A C T G A T G C T
 1921 N K T R I L V T S K M E H L K K A D K I 616
 A A C A A A C T A G G A T T T G G T C A C T T C T A A A T G G A C A T T A A A G A A A G C T G A C A A A T A
 1981 L I L H E G S S Y F Y G T F S E L O N L 636
 T T A A T T T G C A T G A A G G T A G C A G C A T T T T A T G G G A C A T T T C A G A A C T C C A A A T C T A
 2041 Q P D F S S K L H G C D S F D O F S A E 656
 C A G C C A G A C T T T A G C T C A A A A C T C A T G G G A T G T G A T T C T T C G A C C A A T T T A G T C A G A A
 2101 R R N S I L T E T L H R F S L E G D A P 676
 A G A G A A A T T C A A T C C T A A C T G A G A C C T T A C A C G T T C C A T T A G A A G G A G A G C T C C T
 2161 V S W T E T K K Q S P K Q T G E F G E K 696
 G T C T C C T G G A C A G A A C A A A A A C A T C T T T A A C A G A C T G G A C A C T T T G G G A A A A A
 2221 R K N S I L N P I N S I R K F S I V Q K 716
 A G G A G A A T T C A T T C T C A A T C C A A T C A C T C T A T A C G A A A A T T T C C A T T G T G C A A A G
 2281 T P L Q H N G I E E D S D E P L E R R L 736
 A C T C C C T T A C A A T G A A T G G C A T C G A A G A G A T T C T G A T G A C C C T T A G A G A G A A G C T G
 2341 S L V P D S E O G E A I L P R I S V I S 756
 T C C T A G T A C C A G A T T C T G A C A G G G A G A G C G A T A C T G C C T C G C A T C A G C G T G A T C A G C
 2401 T G F T L O A R R R Q S V L N L M T H S 776
 A C T G G C C C A C G C T T C A G G C A G A A G G A G C A G T C T G T C C T G A A C C T G A T G A C A C A C T C A
 2461 V N O G O N I H R K T F A S T R K V S L 796
 G T T A C C A A G G T C A G A C A T T C A C C G A A A G A C A C A G C A T C C A C C A A A A G T G T C A C T G
 2521 A P O A N L T E L D I Y S R R I S Q E T 816
 G C C C C T C A G G C A A A C T T G A C T G A A C T G G A T A T A T T C A G A A G G T A T C T C A G A A A C T

【手続補正4】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図25

【補正方法】追加
 【補正内容】
 【図25】

2581 G L E I S E E I N E E D L K E C F F D D 836
 GCCTTGGAAATACTGAAGAAATTAACGAAGACTTAAAGAGTGCCTTTTGTGATGAT
 2641 M E S I P A V T T W N T Y L R Y I T V H 856
 ATGGAGCATACCAGCAGTACTACATGGAACACATACCTTCGATATATTACTGTCCAC
 2701 K S L I F V L I W C L Y I F L A F V A A 876
 AAGAGCTTAATTTTGTGCTAATTTGGTGCCTAGTAATTTTCTGGCAGAGGTGGCTGCT
 2761 S L V V L N L L G N T P L Q D K G W S T 896
 TCTTGGTGTGCTGTGGCTCCTTGGAAACACTCCTCTTCAAGACAAAGGGAATAGTACT
 2821 H S R N N S Y A V I I T S T S S Y Y V F 916
 CATAGTAGAATAACAGCTATGCAGTATATACCAGCACCGTTCGATATATGTTT
 2881 Y I Y V G V A D T L L A M G F F R G L P 936
 TACATTACGTGGGAGTASCCGACACTTTCCTTGCCTATGGGATTCCTCAGAGGCTTACCA
 2941 L V H T L I T V S K I L H H K M L H S V 956
 CTGGTCATACCTCTAATCACAGTGTGAAATAATTTACACCACAAATGTTCATCTGTT
 3001 L O A P M S T L N T L K A P G I L N R F 976
 CTTCAAGCACCATATGCAACCCCTCAACAGCTGTAAAGCAGTGGGATTCCTAATAGATTC
 3061 S K D I A I L D D L L P L T I F D F I O 996
 TCCAAGATATAGCAATTTGGATGACCTTCGCTCTTACCAATTTGACTCATCCAG
 3121 L L L I V I G A I A V V A V I Q F Y I F 1016
 TTGTATTAAATGATGGAGCTATAGCAGTGTGCGCAGTTTACACCCCTACACTTT
 3181 V A T V P V I V A F I M V R A V F L O T 1036
 GTTGCACAGTCCAGTGTATAGTGGCTTTTATTATGTTGAGAGCATATTTCTCCAAACC
 3241 S Q L K Q L E S E G R S P I F F L V 1056
 TCAAGCACTCAACCACTGGATCTGAGGGCAGGATCCAAATTTCACTCATCTGT
 3301 T S L K G L W T L R A F G R O P Y F E T 1076
 ACAGCTTAANAGGACTATGGACACTTCGTGCCCTCGGACCGCAGGCTTACTTGAACCT
 3361 L F H K A L N L H T A N W F L Y L S T L 1096
 CTGTCCACAAAGCTCTGAATTTACATACCTGCCACTGGTCTCTGACCTGTCAACACTG
 3421 R N F Q M R I E N I F V I P P I A V T F 1116
 CGCTGGTTCCAAATGAGAATAGAAATGATTTTGTCACTTCTTCACTGCTTACCTTC
 3481 I S I I T T E E G E G N V G I I L T L A 1136
 ATTTCCATTTAACAACAGGAGAGGAGAGGAGTGGTATTATCTGACTTTAGCC
 3541 M N I M S T L O W A V N S S I D V D S I 1156
 ATGATATCATGAGTACATTCAGTGGCTGTAACTCCAGCATAGATGGATAGCTTT
 3601 M R S V S R V F K F I D M P F E G K P T 1176
 ATGCGATCTGTGAGCCGATCTTTAAGTTCATTGACATGCCAACGAAAGGTAACCTACC
 3661 K S T K P Y K N G O L S K V N I I E N S 1196
 AAGTCAACCAACCATAACAAGATGGCCACTCTCGAAAGTATGATTATGAGAAATCA
 3721 H V K K D D I W P S G G Q M V K D L T 1216
 CACGTGAAGAAAGATGACATCTGGCCCTCAGGGGCCAAATGACTGTCAAGATCTCA
 3781 A K Y T E G G W A I L E N I S F S Y S F 1236
 GCAAAATACACAGAGGTGGAAATGCCATATTAGAGAACATTTCTTCAATAAGTCTT
 3841 G O R I V G L L S R T G S S K S T L L S A 1256
 GGCCAGAGGTGGCCCTTTGGGAGAACTGGATCAGGGAGAGTACTTTGTTATCAGCT

【手續補正5】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図26

【補正方法】追加
 【補正内容】
 【図26】

3901 F L R L L M T E G E I O I D C V S W D S 1276
 TTTTGTGACTACTGAACACTGAAGGAGAAATCCAGATCGATGGTGTCTCTGGGATTCA
 3961 I T L O O W R K A F G V I P O K V F I F 1296
 ATAACCTTTCACACAGTGGAGGAAAGCCITGGAGTGATACCAAGAAAGTATTATTIT
 4021 S G F R K N E D P Y E Q W S D Q E I W 1316
 TCTGGAAACATTTAGAAAAAAGCTTGGATCCCTATGAACAGTGGAGTGATCAAGAAATATGG
 4081 K V R D F I V G L E S V I E O P F G K L L D 1336
 AAAGTTCAGATGAGGTTGGGCTCAGATCTGTGATAGACAGTTCCTGGCAAGCTTGAC
 4141 F V L Y D G G G C V L S H Q H K O L M C L 1356
 TTGTCTCTGTGGATGGGGCTGTGTCTTAAGCCATGGCCAAAGCACTTGATGTGCTTG
 4201 A R S V L S K A K I L L L D R F S A H L 1376
 GCTAGATCTGTTCTCAGTAAGGGGAGATCTTGGCTGTGATGAACCCAGTGTCTCATTTG
 4261 D P V T Y O I I R R T L K O A F A D C T 1396
 GATCCAGTAAACATACCAAAATAATAGAAAGACTTAAACACAGCAITTTGCTGATTGCACA
 4321 V I L C E H R I E A M L E C Q Q F L V I 1416
 GYAAATCTCTGTGACACAGGATAGAGCAATGCTGGAAATGCCAAATTTTGTCTATA
 4381 E E N K V R Q Y D S I O K L L N E R S L 1436
 GAAGAGAACAAGTGGCGGAGTACGATTCATCCAGAACTGCTGAACGAGAGGAGGCTC
 4441 F R Q A I S P S D R V K L F P R H S S 1456
 TTCGGCAAGCCATCAGCCCTCCGACAGGCTGAGAGCTTTTCCACCAGCACTCAAGC
 4501 K C K S X P Q I A A L K E E T E E E V Q 1476
 AAGTGCAGCTTAAGCCCAAGTCTGCTCTGAAAGAGGACAGAGAAAGAGGTGCAA
 D T R L = 1480
 4561 GATCAAGGCTTTAGAGAGCAGATAAATGTGACATGGGACATTTGCTCATGGAATGG
 4621 AGCTGTGGGACAGTCACTCAAGGATGGAGCTCGTGGACAGTACCTCTGCTCAG
 4681 AAACAAGGATGAATAAATTTTAAAAAAGCAACATTTGGTAAGGGAAATGAGG
 4741 ACACATGATGGGCTTGATAAATGGCTTCTGGCAATAGTCAAATGTGTGAAAGGTAC
 4801 TTCAAATCTTGAAGATTTAACCCTGTGTTTGGCAAGCCAGATTTCTGAAAGCCCTT
 4861 GCCATGTGTAGTAAATGGAAAGGCAGCTCAAATGTCAATCAGCTAGTGTGATCGCTT
 4921 ATGTCTAGTGAACCTGGTAAATTTGTAGTGTGGCAAGCAAGTCAATCAGTACTTA
 4981 GGGTTAGATTAAAGTAAACATAACCGGAACTTGGGGTTTATATAGCTTGTATCTCT
 5041 TTCTCTCTCTCTCCCTGAGGTTAGAAACACAACTATATTTGTGCTAGCATTCCA
 5101 ACTATCTCATTTCCAAAGCAATATAGATACCAAGCAAGCAAGCTGCACATCAA
 5161 ATATGCCCAATCAACATCTAGTGCAGTACAGGAAGGAGACTTCCAGATCTCGGAAAT
 5221 CAGGGTAGTATTTGTCAGGCTTACCAAAAATCTCAATATTTGATTAATCAATACAT
 5281 CCCTTAOCTGGAAAGGGCTGTATAATCTTTCACAGGGGACAGGATGGTTCCTTGATG
 5341 AAGAAGTGTATGCTTTCCCACTCCAGAAAGTGCAGAGCTCAGACCTTTGAACT
 5401 AGAGTTAGCTGGAAAGTATGTAGTACTCAAAATGTCAAGGACAGCCCTCTTTCCACA
 5461 GAAGCTCCAGGTAGAGGGTGTAGTATAGTATAGCCATGGGCACTGTGGGTAGACACACA
 5521 TGAAGTCCAGCATTAGATGTATAGGTTGATGGGTTGTTTTCAGGCTAGATGATG
 5581 TACTCATGCTGTCTACCTAAGAGAGATGAGAGACACAGAGAGAGCCACCAATCAG
 5641 AATTAGTATTATATGCTCTGTTTATATTTGCAAGCAAAATTTTCTCTAGGAA
 5701 TATTATTTTAAATGCTTCAACAAATATTAATGCTGATTTTAAAGAAATGATFA
 5761 TGAATACATTTGATAAAATAATTTTATTTTGAATAATGACTTTTATGGCAGTAG
 5821 TATTTTAAAGAAATATAGTAAACTGGGACAGGGGAGACCTAGGCTGATATTAACC
 5881 AGGGCCATGAATCACTTTGGTCTGGAGGAGCCITGGGGCTGATCGATTTGTGCC
 5941 CACAGCTGTATGATCCAGCCAGACACAGCCCTTATGATGCACTCTGAAGAAAGTGGT
 6001 ACCACAGCTGACTGTTTCCATCAAGGCTACCTGCTCTCACTCCAAATGACTCT
 6061 TAAGAAAGCTGCATATATTTTACTGTAAAGAAATATCACTTGTCAATAAATCCATA
 6121 CATTGTGT (A) n

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、CF遺伝子のヌクレオチド配列およびCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。

【図2】図2は、CF遺伝子の制限地図および前記遺伝子への染色体歩行およびジャンピングに使用された略手段である。

【図3】図3は、前記CF遺伝子を含みかつ取り囲む領域のパルスフィールドゲル電気泳動地図である。

【図4】図4A、4B及び4Cは、種間ハイブリダイゼーションによる保存されたヌクレオチド配列類の検出を示している。図4Dは、プローブ類E4、3およびH1、6の重複するセグメント類の制限地図である。

【図5】図5は、ゲノムおよびcDNAプローブ類を用いたRNAブロットハイブリダイゼーション解析である。繊維芽細胞、気管（正常およびCF）、脾、肝、HL60、T84、および脳RNAへのハイブリダイゼーションを示している。

【図6】図6は、前記CF遺伝子の5'末端におけるE4、3クローニング領域のメチル化状況である。

【図7】図7は、cDNAのゲノムDNA断片類への配

列を示したCFTR cDNAの制限地図である。

【図8】図8は、CFTR cDNA（クローン10-1）の部分による6、4kbのmRNA転写体への種々のヒト組織中におけるハイブリダイゼーションを示したRNAゲルブロット解析である。

【図9】図9は、EcoRIおよびHindIIIで消化したゲノムRNAへのCFTR cDNAクローン類によるハイブリダイゼーションを示したDNAブロットハイブリダイゼーション解析である。

【図10】図10は、CFTR cDNAの5'および3'末端を特性解析したプライマー延長実験である。

【図11】図11は、ヒドロパシープロファイルであり、かつ、CFTRの予測2次構造を示している。

【図12】図12は、予測されたCFTRポリペプチド中における内部相同性のドットマトリックス解析である。

【図13】図13は、予測されたCFTRタンパク質の略モデルである。

【図14】図14は、CF遺伝子に緊密に連結した制限断片長多形（RFLP類）の略図であり、その中で、倒立三角形は、F508 3塩基対欠失の位置を示している。

【図15】図15は、正常配列を検出するプローブNおよびCF変異配列を検出するプローブFによるオリゴヌクレオチドハイブリダイゼーションによるF508変異

の検出を示したものである。

【図16】図16は、CFTRの延長NBF類の最もよく保存されたセグメント類と他のタンパク質類の匹敵する領域類との配列を示したものである。

【図17】図17は、F508欠失周辺のDNA配列である。

【図18】図18は、F508欠失におけるDNA配列を示したヌクレオチド配列決定ゲルを示したものである。

【図19】図19aおよび19bは、pGEXプラスミド類によって形質転換された細菌培養物(JM101)からのタンパク質の電気泳動後クーマシーブルー(Coomassie Blue)染色ポリアクリルアミドゲル類である。

【図20】図20は、2匹の異なるウサギから得た免疫

前および免疫血清による融合タンパク質#1含有細菌溶解物のイムノブロットである。

【図21】図21は、図20のウサギ#1からの免疫血清を用いたT-84膜類のイムノブロットである。

【図22】図22は、表8のペプチド#2とKLHとの結合物で免疫したウサギ由来免疫前血清および免疫血清で探索したイムノブロットである。

【図23】図23は、CF遺伝子のヌクレオチド配列及びCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。

【図24】図24は、CF遺伝子のヌクレオチド配列及びCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。

【図25】図25は、CF遺伝子のヌクレオチド配列及びCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。

【図26】図26は、CF遺伝子のヌクレオチド配列及びCFTRタンパク質の前記アミノ酸配列である。

フロントページの続き

(51)Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	ノート ⁸ (参考)
A 6 1 P 5/00		A 6 1 P 11/00	
		C 0 7 K 1/22	
C 0 7 K 1/22			14/47
		C 1 2 N 5/00	B
C 1 2 N 5/10		A 6 1 K 37/02	
// C 1 2 N 15/09		C 1 2 N 15/00	Z N A A
	Z N A		A

(71)出願人 501422288
ザ ボード オブ リージェンツ アクテ
ィング フォー アンド オン ビハーフ
オブ ザ ユニヴァーシティー オブ
ミシガン
THE BOARD OF REGENT
S acting for and on
behalf of THE UNIV
ERSITY OF MICHIGAN
米国 48109-1248 ミシガン州 アン
アーボー ルーム 2354 イー. ジェフ
ァーソン 475

(72)発明者 ラプーチャー ツイ
カナダ国 エム9アール 3ゼット4 オン
タリオ州 トロント ウィローリッジ
ロード 94

(72)発明者 ジョン アール. リオルダン
カナダ国 エム5アール 2ケイ7 オン
タリオ州 トロント ベドフォード ロー
ド 137

(72)発明者 フランシス エス. コリンズ
米国 48103 ミシガン州 アン アーボ
ー スィーオ チャーチ ロード 4340

(72)発明者 ジョアンナ エム. ローメンズ
カナダ国 エム2エヌ 1エル1 オンタ
リオ州 ウィローデイル ボガート アベ
ニュー 199

(72)発明者 マイケル シー. イアヌッツィ
米国 48103 ミシガン アン アーボ
ー チャーサー ストリート 2073

(72)発明者 バトーシェヴァ カーレム
カナダ国 エム6ビー 1ビー1 オンタ
リオ州 トロント エービーティー.
817 エルム リッジ ドライヴ 140

(72)発明者 ミッチェル エル. ドラム
米国 48103 ミシガン州 アン アーボ
ー バインクレスト ストリート 2431

(72)発明者 マニュアル バックワルド
カナダ国 エム4ケー 1エム6 オンタ
リオ州 トロント ベアーボーン アベ
ニュー 15

Fターム(参考) 4B024 AA01 AA11 AA12 BA41 BA44
CA04 DA02 DA06 EA02 EA03
EA04 GA05 GA11 GA18 HA12
HA17
4B064 AG01 BA16 CA10 CA19 DA01
DA13
4B065 AA26X AA91X AA93X AA93Y
AA98X AB01 AB10 BA02
BA23 BA25 CA24 CA25 CA44
CA46
4C084 AA02 AA06 AA07 AA13 BA01
BA22 CA56 DC50 NA14 ZA592
ZA662 ZC012
4H045 AA10 AA11 AA20 AA30 BA09
CA40 DA50 DA76 EA28 EA50
FA72 FA74